

日本語研究のモノグラフ

日本語研究叢書は、ひつじ書房創業の発端となり、基礎を築いたシリーズである。ひつじ書房の創業の意志を反映している。日本語の文法研究を中心として、動詞の活用、モダリティ、テンス、アスペクトなど時代の先端的なテーマを扱った研究書を刊行してきた。(創刊した1990年当時の) 中堅若手の研究をワンテーマでモノグラフの研究書として刊行しようというのが、出発のテーマ。日本には少なかった研究書を洋書のようにペーパーバックで刊行するという、体裁の上でも先駆的なものであった。刊行部数は研究書としては多めの1200部以上であるため、比較的安価な価格を設定している。言語研究のジャンルで日本語学と英語学の境界を崩し、言語研究を活性化した革命的なシリーズとして認知され、学術賞の受賞も多い。今後も新たなジャンルを切り開き、そのジャンルを定着させるような代表的な研究を刊行する。現在は3期まで刊行中。

▶日本語研究叢書 第1期第1巻

日本語動詞の諸相

村木新次郎 著

「動詞の形態論」、「動詞の統語的特徴」、「形式動詞とその周辺」の3部構成による現代日本語の動詞の分析。動詞の精密な研究として、エポックをなしており、今後の研究においては当然踏まえらるべきものである。活用の詳細な研究は、日本語を教える人々にも読んでもらいたい。

A5判・348頁・4刷・978-4-938669-01-0

定価4200円(本体4000円)

発行1991.2 品切れ

▶日本語研究叢書 第1期第2巻

古代日本語動詞のテンス・アスペクト 源氏物語の分析 **改訂版**

鈴木泰著

古代語の動詞の研究は検証されない「通説」であったことを批判しつつ、実証的な論証から古代語の動詞の仕組みにせまる。源氏物語を題材にした分析は、同時に物語のテキストの性質にもせまる。文学研究者にも必読の書として評価の高い書。92年に発行された著書の大規模改訂版。索引付き。

A5判・424頁・978-4-89476-103-2

定価5250円(本体5000円)

発行1999.7

▶日本語研究叢書 第1期第3巻

現代日本語の語構成論的研究 語における形と意味

斎藤倫明 著

現代語を語構成の立場から、事実を丁寧に追いつながら独自の視点から分析。「言語単位をめぐって」、「形容詞語幹をめぐって」、「複合動詞をめぐって」、「語構成と意味」の4部からなる。〈2刷にて索引を増補〉

A5判・352頁・3刷・978-4-938669-06-5

定価4935円(本体4700円)

発行1992.3 品切れ

▶日本語研究叢書 第1期第4巻

日本語のモダリティと人称

仁田義雄 著

文の成り立ち、文とはなにかというものを考えるときに必須であるモダリティ論の基礎的文献であり、必読の重要な書。文というものに興味を持つ言語研究者以外の人々にもすすめたいロングセラーの文法書。

A5判・288頁・7刷・978-4-938669-02-7

定価3360円(本体3200円)

発行1991.6 在庫僅少

▶日本語研究叢書 第1期第5巻

視点と主観性 日英語助動詞の分析

澤田治美 著

日本語と英語を「視点」や「主観性」をキーワードにして分析した、認知言語学的考察の書。扱われているテーマは、意味解釈の重層性をはじめとして、代名詞、助動詞、副詞、視点、描写の方向性など、多岐にわたっている。微妙な意味の違いの考察は、言語研究だけでなく、テキスト研究にも有益である。第29回「市河賞」受賞作。

A5判・334頁・6刷・978-4-938669-17-1

定価4620円(本体4400円)

発行1993.5

第29回市河三喜賞受賞

▶日本語研究叢書 第2期第1巻

山梨正明 著

A5判・320頁・5刷・978-4-938669-42-3
定価4410円(本体4200円)
発行1995.4 在庫僅少

認知文法論

待望久しい認知言語学の第一人者による文法論。カテゴリー化のプロセス、イメージスキーマとメンタルモデル、転義と文法化のプロセス、メタファーとメトニミー、視点とプロトタイプ、意味の慣用化とブリーチング等の問題を実証的に考察しながら、言葉とこころのメカニズムにかかわる言語研究の新しい方向を探究。認知科学の観点から、言葉と人間の認識のメカニズムの解明を目指す。

▶日本語研究叢書 第2期第2巻

鎌田修 著

A5判・320頁・978-4-89476-118-6
定価3360円(本体3200円)
発行2000.1 品切れ

日本語の引用

どの言語にもある「引用」という言語行為は、それがどのようなプロセスを経て、どのように表現されるのかまだ十分に明らかにされていない。本書はまず「引用」とは何なのか、という概論を述べ、それから日本語の「引用」の統語的特徴を「視点」、「モダリティ」の観点から記述する。さらに、「引用」を通して生じる「場の二重性」に見られる社会言語学的現象を観察し、引用表現の類型化、その選択の記述、説明を計る。最後に、中間言語としての日本語に見られる伝達表現を観察し、日本語教育への意義を唱える。

▶日本語研究叢書 第2期第3巻

金水敏 著

A5判・341頁・2刷・978-4-89476-265-7
定価5250円(本体5000円)
発行2006.2

日本語存在表現の歴史(日本学術振興会助成刊行物)

日本語の存在表現の中でとりわけ重要な「ある」「いる」「おる」の歴史的な研究。この3語は、中央の文献にも歴史を通して現れ、さらに方言としても幅広い地域に存在している。しかも、単に存在を表すだけではなく、所有関係や出来事の持続なども表すという日本語の構文論にとって重要な語である。この3語を取り扱い、日本語存在表現の多様な問題を、歴史的なアプローチを通して解き明かしていく。

平成18年度新村出賞受賞

▶日本語研究叢書 第2期第4巻

影山太郎 著

A5判・396頁・4刷・978-4-938669-19-5
定価5097円(本体4854円)
発行1993.10 在庫僅少

文法と語形成

日本語における語形成と統語論・意味論が関わり合う種々の現象を観察し、そこから、生成文法における形態論の在り方を理論的に考察する。とりわけ、語彙的な語形成と統語的な語形成を包括するモジュール理論を提唱する。

第22回金田一京助博士記念賞受賞

▶日本語研究叢書 第2期第7巻

工藤真由美 著

A5判・317頁・4刷・978-4-938669-59-1
定価4410円(本体4200円)
発行1995.11

アスペクト・テンス体系とテキスト 現代日本語の時間の表現

日本語のアスペクト・テンス体系はどうなっているか。時間の問題はテキストの問題でもあり、語りの問題でもあることから、言語研究者ばかりでなく、原理的にテキストを研究する際にも有益。アスペクト・テンス論の古典と呼ぶべき最も基礎的文献。

▶日本語研究叢書 第2期第8巻

城田俊 著

A5判・416頁・2刷・978-4-89476-159-9
定価4200円(本体4000円)
発行2002.4 在庫僅少

日本語形態論

自立的品詞を、語尾形・語幹形・文形に分けその形態を厳密かつ詳細に記述。副詞・連体詞という品詞の設定の矛盾を明らかにしながら、格助詞の形態論上の位置を明確化する。単純、明解、等身大の日本語文法を提示。一般言語理論に基づく本格的日本語形態論。

▶日本語研究叢書 第3期第1巻

野村真木夫 著

A5判・368頁・978-4-89476-129-2
定価5040円(本体4800円)
発行2000.11

日本語のテキスト 関係・効果・様相

センテンスやテキスト相互の関係性をシステム論的に追求する。文の連続とテキストはどう違うのかから、テキストを組織化する手段やテキストを創出するシステムにまで言及する。社会システム論や言語理論にも目配りしながら文章と談話を同等にとりあげ、バランスのよい議論を展開する。

西山佑司著

A5判・452頁・2刷・978-4-89476-180-3
定価4935円(本体4700円)
発行 2003.9

文中に登場する名詞句の意味解釈の問題を、とくに指示性・非指示性という観点から考察する。まず、先行研究の問題点を指摘した上で、「変項名詞句」という概念の導入が必要であることを論じる。この概念を用いて、「は」と「が」の区別に関する重要な側面を指摘する。そして、日本語のコピュラ文にたいする意味解釈、「変わる」「分かる」「知る」「ある」「いる」などを含む文にたいする意味分析を行い、名詞句と疑問文構造とのあいだの意味論的・語用論的関わりを論じる。

▶日本語研究資料集 第1期第7巻

指示詞

金水敏・田窪行則編

A5判・210頁・2刷・978-4-938669-09-6
定価2625円(本体2500円)
発行1992.10

コソアド、指示詞についての代表的な論文をあつめたものに、詳細な文献リストを付す。収録論文 1 コソアド研究の流れ〔一〕古田東朔/2 指示の場と指す語-「人代名詞」と「こそあど」-佐久間鼎/3 コソアド抄-『文法小論集』より一部-三上章/4 「場面」と「場」高橋太郎/5 コレ・ソレ・アレと this, that -『英語基礎語彙の研究』より-服部四郎/6 指示語「コ・ソ・ア」の機能について 阪田雪子/7 コ・ソ・ア-『日本文法研究』より-久野暲/8 指示語の表現性 堀口和吉/9 (コ)・ソ・アについて 黒田成幸/10 日本語の指示詞コソアの体系 吉本啓/11 談話管理理論からみた日本語の指示詞 金水敏 田窪行則
文献リストを2004年時点にアップデートして重版。

▶日本語研究資料集 第1期第8巻

動詞の自他

須賀一好・早津恵美子編

A5判・250頁・2刷・978-4-89476-134-6
定価2835円(本体2700円)
発行1995.8

動詞の自他についての代表的論文をあつめたものに解説と詳細な文献リストを付す。収録論文: 1 詞の自他の事(『詞の通路』より) 本居春庭/2 動詞の自他被使動の研究 松下大三郎/3 動詞の派生について-自他对立の型による-西尾寅弥/4 自動化・他動化および両極化転形-自・他動詞の対応-奥津敬一郎/5 『変形文法と日本語(下)』より 井上和子/6 使役-自動詞・他動詞との関わりにおいて-青木伶子/7 自他違い-自動詞・他動詞の対応-須賀一好/8 自動・他動・受身動詞について 野村剛史/9 状態変化主体の他動詞文 天野みどり/10 「他動性とプロトタイプ論」より ヤコブセン/11 有対他動詞と無対他動詞の違いについて-意味的な特徴を中心に-早津恵美子/12 「文法的なヴォイスと語彙的なヴォイスの関係」より 野田尚史

▶日本語研究資料集 第1期第13巻

語構成

斎藤倫明・石井正彦編

A5判・354頁・978-4-938669-78-2
定価3255円(本体3100円)
発行1997.4

語構成に関する代表的論文15編をあつめ、詳細な文献リストと解説文「研究史的素描-語構成論において取り扱われてきた/ているべきこと-」を付す。収録論文 1 語構成序説 阪倉篤義/2 語構成の特質 斎賀秀夫/3 日英語の語形成 影山太郎/4 形態素論-語基の分類-森岡健二/5 無意味形態素 宮島達夫/6 和語は造語力が弱いか 玉村文郎/7 漢語ノ組立ト云イカエノ 研究 ワカバヤシマサオ/8 現代洋語の構成 宮地裕/9 複合名詞の生成文法 奥津敬一郎/10 あわせ名詞の意味記述をめぐる ゆもとしょうなん/11 動詞連用形の名詞化に関する一考察 西尾寅弥/12 複合動詞の構造 長嶋善郎/13 複合動詞・「〜つく」と「〜つける」姫野昌子/14 複次結合語の構造 野村雅昭/15 臨時一語の構造 林四郎

**言語学の主流であり、
若手研究者の登竜門でもある**

日本語学、英語学、言語学の分野での中堅からシニア級の研究者の代表作を刊行するシリーズとして出発した。現在では、ベテランの方の研究書とともに、若手の挑戦的な博士論文も大きな比重を占める。現代語の文法研究にとどまらず、音韻論、生成文法研究、認知言語学、社会言語学、アフリカ諸語の研究、日本の古代語の研究、クイア言語研究など、広い範囲をカバー。日本学術振興会の公開促進費を受けての刊行もある。単著を中心とするが、テーマに一貫性のあるものであれば、著者が複数の論文集も刊行。言語研究者にとって、このシリーズは、登竜門であり、代表作を世に問う際の容れ物でもありたいと考えている。ひつじ書房の言語研究のもっとも重要な柱。新村出賞の受賞作の3冊はこのシリーズからである。基本的にハードカバー、箱入りの体裁。400ページを超える本は、ページ数が多くても開きやすい糸かがりで製本。刊行部数は300部からで、平均は500部前後が多い。値段は安価ではないが、丁寧でしっかりした造り。インターネットの時代、活字で本を作り、ハードカバーで本を作るという意味を熟考し、本らしい、よい意味で重厚で風格のある書籍を目指す。

▶ひつじ研究叢書（言語編）第1巻

方言地理学の展開

徳川宗賢 著

『日本言語地図』の調査・作成、『日本方言大辞典』の編集など、方言研究・方言地理学に精力をそそいできた著者のはじめての論文集。現在の方言研究・社会言語学の指針となる書。それぞれの論文を補訂する補記を巻末に付す。

A5判・650頁・978-4-938669-10-2
定価15750円（本体15000円）
発行1993.10 在庫僅少

▶ひつじ研究叢書（言語編）第3巻

日本語の音

城田俊著

本書は、日本語の共通語のオトを、単音、音節、音素、弁別要素の水準において、論理の飛躍なく、一步一步精密に記述したものである。

A5判・280頁・テキスト版（3刷）は在庫あり・978-4-938669-11-9
定価13650円（本体13000円）
発行1993.10 品切れ

▶ひつじ研究叢書（言語編）第4巻

古代日本語母音論 上代特殊仮名遣の再解釈

松本克己 著

上代語は八母音だったのか？ 従来の定説に大きな衝撃を投げかけた論の決定版を含む著者の初めての著書。言語学者ばかりでなく、上代文学に関心を持つ人々の必読書。詳細な語彙索引を付す。

A5判・204頁・978-4-938669-31-7
定価9450円（本体9000円）
発行1995.1 品切れ

▶ひつじ研究叢書（言語編）第5巻

バントゥ諸語動詞アクセントの研究

湯川恭敏 著

「多くのバントゥ系言語を調査していくうちに、それらのアクセントの面白さに魅かれるようになった。…動詞アクセントの場合、基本的にはすべての活用形が分かなければそれを調査・分析したことにはならない」。著者のアフリカ語研究の決定版。

A5判・690頁・978-4-938669-38-6
定価19950円（本体19000円）
発行1995.2

▶ひつじ研究叢書（言語編）第6巻

**Studies in English and Japanese Auxiliaries
A Multi-stratal Approach**〈文部省助成刊行物〉

澤田治美 著

日英語の助動詞に対する重層的意味論からの分析。助動詞やモダリティ研究では定評のある著者による英語の学位論文の公刊である。日本の読者に読みやすいように、例文はローマ字表記の他に日本語を付す。日本語教育の専門家にも有益な書である。

A5判・424頁・978-4-938669-39-3
定価12600円（本体12000円）
発行1995.2 在庫僅少

▶ひつじ研究叢書（言語編）第9巻

日本語条件表現史の研究〈文部省助成刊行物〉

小林賢次 著

著者が研究の出発から継続して取り組んできた条件表現史の集大成。日本語史の研究者はもちろん、条件節・複文について研究している現代語の研究者にも有益。「条件表現史関係文献目録」を付載

A5判・436頁・978-4-938669-64-5
定価12600円（本体12000円）
発行1996.2 在庫僅少

▶ひつじ研究叢書(言語編)第10巻

中村捷著

A5判・331頁・978-4-938669-65-2
定価6320円(本体6019円)
発行1996.2 在庫僅少

束縛関係〈文部省助成刊行物〉

代用表現と移動に見られる束縛関係についての多面的研究(日本語の代用形を含む)。第1章束縛理論、第2章 代名詞、第3章 束縛代名詞、第4章 日本語の再帰代名詞、第5章 日本語の空代名詞、第6章 英語の遊離数量詞、第7章 優位条件と多重疑問文、第8章 空演算子構文、第9章 機能範疇と移動規則

▶ひつじ研究叢書(言語編)第11巻

森田良行著

A5判・374頁・2刷・978-4-89476-135-3
定価3990円(本体3800円)
発行2001.2

意味分析の方法 理論と実践

『基礎日本語辞典』(角川書店)など、日本語の精密な分析で知られる著者がいまで行ってきた語の意味の実践的な分析の裏付けとなる方法を、ひとつひとつ丁寧に解きあかしたものの。本書は『基礎日本語辞典』の記述を補うものである。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第12巻

佐佐木隆著

A5判・472頁・978-4-938669-77-5
定価14700円(本体14000円)
発行1996.12 在庫僅少

上代語の構文と表記

著者がここ10年ほどのあいだに執筆した上代語の構文や表記にかかわる論考をまとめたもの。本書は、上代語の構文の特徴や実相を確認し、それにそったかたちで『古事記』や『日本書紀』の歌謡の文脈を解釈、『萬葉集』の歌句を構文面から検討することで、上代語に特有の表記の背景を考察している。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第13巻

鈴木泰・角田太作編

A5判・248頁・978-4-938669-76-8
定価4410円(本体4200円)
発行1996.11

日本語文法の諸問題 高橋太郎先生古希記念論文集

高橋太郎氏の古希を記念して編まれた論集。収録論文 高橋太郎「『場面』と『場』の再確認」/宮島達夫「カテゴリー的多義性」/かねこひさかず「ヴォイスの周辺独言」/まつもとひろたけ「奄美大島方言のメノマエ性」/鈴木泰「メノマエ性と視点(III) — 古代日本語の通達動詞のevidentiality(証拠性)」/角田太作「体言締め文」/工藤浩「どうしても考」/金田章宏「八丈島方言うちけし動詞の成立をめぐる」/澤田和浩「連体動詞句研究の検討」

▶ひつじ研究叢書(言語編)第14巻

川端善明・仁田義雄編

A5判・458頁・978-4-938669-92-8
定価10500円(本体10000円)
発行1997.10 品切れ

日本語文法 体系と方法

現在、日本語の文法研究の最前線における研究者を集める。渡辺実氏の古希を記念して企画された。仁田義雄「未展開文をめぐる」/石神照雄「文研究の理論」/田上稔「連体装定の類型と交渉」/小野正弘「形容詞連用形における意味的中立化」/加藤久雄「程度副詞の反期待について」/森井紳「連用成分の関係構造」/内田賢徳「終止形接続の『見ゆ』について」/安部清哉「動作の併行表現の歴史」/蜂矢真郷「助数詞被覆形の用法」/鈴木泰「上代語の『けり』の意味」/野村剛史「三大集ラムの構文法」/山口堯二「完了辞・過去辞の通事的統合」/浅見徹「格助詞への変貌」/金水敏「現在」の存在を表す『いた』について」/柴谷方良「『迷惑受身』の意味論」/澤田治美「日本語知覚補文のテンスの解釈」/高橋太郎「連体機能をめぐって」/工藤浩「評価成分をめぐる」/小矢野哲夫「うらめ条件—接続のモダリティ副詞」/近藤泰弘「否定と呼応する副詞について」/菊地康人「『が』の用法の外観」/丹羽哲也「現代語『こそ』と『か』『は』」/前田富祺「語彙と文法」/宮島達夫「ヒト名詞の意味とアスペクト・テンス」/森山卓郎「『独り言』をめぐる」

▶ひつじ研究叢書(言語編)第15巻

山口幸洋著

A5判・607頁・978-4-938669-95-9
定価19950円(本体19000円)
発行1998.12

日本語方言一型アクセントの研究〈文部省助成刊行物〉

一型アクセントは「アクセントが無い」のではない。「読み上げ式」が主であった従来の方言の研究方法に対する批判とともに、日本語のアクセントを根底から研究する。巻末の文字化された資料は、現在では得がたい地域の日常生活の記録でもある。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第16巻

姫野昌子著

A5判・296頁・2刷・978-4-89476-108-7
定価4935円(本体4700円)
発行1999.2

複合動詞の構造と意味用法〈文部省助成刊行物〉

「なぜ『駆け込む』と言って『歩き込む』と言えないのか」、留学生の質問に答えることから始まった複合動詞研究のパイオニアによる待望の書。25年間の研究を最新の成果を踏まえてまとめおした。外国語としての日本語を学ぶ人のことも念頭に入れ、その仕組みと用法を解きあかす。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第17巻

石綿敏雄著

A5判・340頁・978-4-89476-107-0
定価4830円(本体4600円)
発行1999.2

現代言語理論と格

「(1) 現代文法理論の概観」では結合価理論を中心に取りあげて概観している。「(2) 日本語格構造の解析」はひとつひとつの語に用例や簡単な説明を添えた。深層の意味と表層の言語表現の対照表示を工夫し、用言の意味と名詞との結合を考えての用言の分類配列を行っている。格文法について知りたい人には必読。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第18巻

佐佐木隆著

A5判・668頁・978-4-89476-115-5
定価23100円(本体22000円)
発行1999.10

萬葉集と上代語

『上代語の構文と表記』に続く、29の章からなる上代語構文の新研究。徹底した用例調査によって上代語特有の構文を明らかにし、その成果に基づいて『萬葉集』の歌の訓義を追求する。前著と同様、文学研究にもかかわる書。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第19巻

近藤泰弘著

A5判・688頁・2刷・978-4-89476-122-3
定価19950円(本体19000円)
発行2000.2 品切れ

日本語記述文法の理論〈文部省助成刊行物〉

本書は、日本語の記述文法を特定の言語理論に依拠するのではなく、伝統的文法を踏まえた上で構築することを目的とし、そのための基礎的な理論と方法とを示しながら、著者がもともと重要と考えている文法記述の一部を古典語・現代語の両面から考察している。

第28回金田一京助博士記念賞受賞

▶ひつじ研究叢書(言語編)第20巻

丸田忠雄・須賀一好編

A5判・366頁・978-4-89476-121-6
定価5250円(本体5000円)
発行2000.2

日英語の自他の交替〈文部省助成刊行物〉

日本語、英語を研究する第一線の研究者たちによるシンポジウムを踏まえ、編集し直した、日本語学では江戸時代以来注目され、英語学でも関心の高い自他の交替についての論文集。執筆者：小野尚之・影山太郎・岸本秀樹・須賀一好・松本曜・丸田忠雄

▶ひつじ研究叢書(言語編)第21巻

山田進・菊地康人・靱山洋介編

A5判・372頁・978-4-89476-119-3
定価6300円(本体6000円)
発行2000.2

日本語 意味と文法の風景 国広哲弥教授古稀記念論文集

「語の意味の分析・記述」「比喩」「文の意味のタイプ」「動詞の類型」「関係節の意味」「構造的な多義」「韻律と意味」など、現代日本語についての意味に心を寄せた論考を収める。日本語意味研究の先頭を歩んできた国広哲弥教授の古稀を記念した論文集。執筆者は以下の諸氏。鈴木敏明、田中茂範、西山佑司、杉浦滋子、久島茂、松本曜、早津恵美子、由井紀久子、山田進、菊地康人、長嶋善郎、中道知子、靱山洋介、吉田朋彦、田野村忠温、小矢野哲夫、浅田秀子、山中信彦、澤田治美、倉持保男、前田直子、堀川智也、相澤正夫、御園生保子。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第22巻

カレル・フィアラ著

A5判・520頁・978-4-89476-127-8
定価29400円(本体28000円)
発行2000.7

日本語の情報構造と統語構造

ブラーグ学派の正統な後継者である著者による、テキスト論の決定版。日本語の談話・文部における情報の並び方を検証することを目的とし、全4部―「情報構造」「統語構造」「文を越えて」「通時的変遷」―から構成される。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第23巻

大門正幸著

A5判・200頁・978-4-89476-132-2
定価7770円(本体7400円)
発行2001.1

Old English Constructions with Multiple Predicates〈文部省助成刊行物〉

古英語における述語を複数含む構文では、「述語1+述語2」および「述語2+述語1」いずれの語順も許される。本書はこの2種類の語順の選択がどのような要因によって決定されていたのかを様々な角度から考察したものである。ファイルメーカーによるデータベース(CD-ROM)を付す。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第24巻

杉浦滋子 著

A5判・212頁・978-4-89476-138-4
定価13650円(本体13000円)
発行2001.2

Bound variables and coreferential pronouns

Zero and overt pronouns in Japanese and English〈文部省助成刊行物〉

代名詞を、形態的にではなく意味的に、指示物をもつ指示代名詞と先行詞によって束縛される束縛変項とに分類することにより、日本語と英語の有形代名詞とゼロ代名詞を分析することを試みた。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第25巻

高山善行 著

A5判・330頁・978-4-89476-155-1
定価12600円(本体12000円)
発行2002.2 品切れ

日本語モダリティの史的研究〈日本学術振興会助成刊行物〉

モダリティ形式と文構造、文表現との関係について「史的対照」の観点から観察・分析をおこなう、個々のモダリティ形式の意味や機能を掘り下げる。古典語研究と現代語研究をつなぎ、文法史研究に新しい局面を切り開く。古典文学作品の読解や国語教育の実践の場でも役立つ。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第26巻

宇佐美まゆみ 著

菊判・348頁・2刷・978-4-89476-154-4
定価6888円(本体6560円)
発行2002.2

Discourse Politeness in Japanese Conversation

Some Implications for a Universal Theory of Politeness〈日本学術振興会助成刊行物〉

日本語会話における「ディスコース・ポライトネス」を、条件を統制して収集された大量の自然会話データに基づいて分析し、ポライトネスの普遍理論への新しい独自の観点を提示したポライトネス理論についての実証的な研究書。(英文)

▶ひつじ研究叢書(言語編)第27巻

森田良行 著

A5判・320頁・2刷・978-4-89476-147-6
定価3360円(本体3200円)
発行2002.1

日本語文法の発想

「ここはどこ?」「まもなく名古屋駅です。」「人の噂も75日」など、普段なにげなく口にしたり、耳にする言語表現。そのあたりまえのように使っている日本語に、日本人ならではのものの見方や考え方が見え隠れしていることを「発見」できる日本語論。法律の条令文や役所からの公布文が味気なく感じられる理由も、翻訳調の文章がしっくりこない理由も、日本人の発想の本質を究明しながら個々に明らかにされていく。日本語らしい表現の文法が「表現者の視点」に裏打ちされていること、その日本語の本質的な有り様を、数々の実例を通して知ることができる、日本語学習入門者にとっても貴重な1冊。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第28巻

秋元実治 著

A5判・282頁・978-4-89476-175-9
定価3780円(本体3600円)
発行2002.11

文法化とイディオム化

文法化研究は生成変形文法や認知言語学と並んで歴史言語学において主要なテーマになっており、英語史の分野にとどまらず、ますます発展する領域である。従来の文献学的テキストの厳密な解釈とマクロ的言語変化理論の構築を超える史的言語研究としての文法化に関する包括的研究。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第29巻

加藤重広 著

A5判・592頁・978-4-89476-181-0
定価8400円(本体8000円)
発行2003.2 在庫僅少

日本語修飾構造の語用論的研究〈日本学術振興会助成刊行物〉

本書は、統語的に説明しにくい統語現象に語用論的な観点からの説明を加えることで、より精緻な分析とすることを目指したものである。関係節構造の分析には「解釈のコスト」という概念を導入し、また、ゼロ助詞も語用論的な機能を持つものとして位置づけ、数量詞遊離も語用論的かつ認知論的な手法で分析している。

平成15年度新村出賞受賞

▶ひつじ研究叢書(言語編)第30巻

斎藤倫明 著

A5判・304頁・978-4-89476-198-8
定価5460円(本体5200円)
発行2004.2

語彙論的語構成論〈日本学術振興会助成刊行物〉

国語学的研究の流れを発展させた語彙論的視点による、現代日本語の語構成の研究。語構成要素から語が生まれるまでのプロセスを「単語化」の概念に基づいて考察する。『現代日本語の語構成論的研究—語における形と意味—』以降の10余年間に発表した論考をおさめた。「語構成原論」「語構成と多義」「『語』をめぐって」の3部からなる。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第31巻

小林英樹著

A5判 369頁・978-4-89476-199-5
定価6300円(本体6000円)
発行2004.2

現代日本語の漢語動名詞の研究〈日本学術振興会助成刊行物〉

文中での振舞いも視野に入れながら、漢語動名詞の語構成を分析する。漢語の語構成について、野村雅昭氏の研究後の空白を埋める研究。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第32巻

小林隆著

A5判・760頁・978-4-89476-200-8
定価19320円(本体18400円)
発行2004.2 在庫僅少

方言学的日本語史の方法〈日本学術振興会助成刊行物〉

日本語史を、方言という要素を視野に入れて構築する。方言を資料に加え全国を対象にすることで、中央地域の言語を資料としてきたこれまでの方法では捉えきれなかった日本語の歴史を解明する。

平成16年度新村出賞受賞

▶ひつじ研究叢書(言語編)第33巻

高橋太郎著

A5判・326頁・978-4-89476-213-8
定価4410円(本体4200円)
発行2003.11

動詞九章

動詞の動詞らしさとは、という問いに対する蓄積された研究の一端。フィールドの広がりから動詞を明らかにする。アスペクト・テンス、ヴォイスなど9つの章を立て分析を進める。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第34巻

佐藤滋・堀江薫・中村渉編

A5判・548頁・978-4-89476-217-6
定価14700円(本体14000円)
発行2004.7

対照言語学の新展開

I. 日本語と英語の対照(認知言語学・機能言語学) 移動と変化の言語表現: 認知類型論の視点から 小野尚之/COMEとクルの意味拡張における到達点の違い 菊地敦子/日本語の統語処理に関わる脳の領域 佐々祐子・佐藤滋・川島隆太/非完結相「ている」の意味決定における瞬間性の役割 白井恭弘 II. 日本語と英語の対照(生成言語学・形式意味論) 日英語の名詞修飾節の対照: パラメータによる分析 川平芳夫/数量詞の形式と量化的領域: 日英語の対照の観点から 小林昌博/日英語の寄生空所に関する一考察 高橋大厚/手話の構成性と手話動作の様相的記述 仁科弘之/焦点移動としてのかき混ぜと分裂文 山田誠/第二言語獲得における刺激貧困の問題 遊佐典昭/日本語複文テンスの構成的意味論: 英語との対照の観点から 吉本啓 III. 日本語と韓国語の対照 日韓語対照研究による敬語の文法化に関する一考察 上原聡/終結語尾「-ㄴㄷ」(-ci)の意味と用法: 情報のなわ張り理論の観点から 平香織/文法体系における動詞連用形の位置づけ: 日本語と韓国語の対照研究 塚本秀樹/関西方言の否定形式交替現象に関する認知言語学的研究: 韓国語との対照に基づいて 堀江薫・近藤絵美・姜奉植・守屋哲治/韓国語副詞句がアスペクト形式に与える生起制約と意味制約: 日本語との対照を通じて 若生正和 IV. 日本語とその他の言語の対照・類型論的研究 類型論とメンタル・ロジック: 接統語の再考 大堀壽夫/カバンパンガン語と日本語の他動構文 北野浩章/水海道方言の無声化と標準語の無声化: 最適性理論による分析 佐々木冠/名詞句のイベント解釈とコントロール ダニエラ・カルヤヌ/デフォルト格と汎用格: 格組織の機能主義的類型論へ 中村渉/多言語における抽象関係概念のコード化: 英語の「with」とそれに対応するレッグボ語、日本語の比較ハイコ・ナロック/人称代名詞におけるジェンダーの相互作用 アンドリュウ・パーク/日・越両言語における多機能化の特徴について: 「トコロ」+格助詞の接統助詞化と「mời', 'da'の連詞化の場合 村上雄太郎

▶ひつじ研究叢書(言語編)第35巻

工藤真由美編

A5判・360頁・978-4-89476-231-2
定価6510円(本体6200円)
発行2004.11

日本語のアスペクト・テンス・ムード体系 標準語研究を超えて

東北から沖縄に至る諸方言が提示するアスペクト・テンス・ムードの様々な現象形態や相関性のありようを記述する。本研究において標準語の文法現象の問題は逆照射されている。諸方言のアスペクト調査から出発し、アスペクト・テンス・ムードの関わりあい、形容詞述語を含めた文法的カテゴリーの考察へと展開した調査研究(3期7年間)の成果を統合。★CD-ROM付

▶ひつじ研究叢書(言語編)第36巻

宮崎和人著

A5判・236頁・978-4-89476-235-0
定価5460円(本体5200円)
発行2005.2

現代日本語の疑問表現 疑いと確認要求〈日本学術振興会助成刊行物〉

疑問文のなかにある話し手の認識や判断を取りだすことを試みた、モダリティ研究の一環としての日本語の疑問文の研究。推量と疑問の接点、話し手の思考過程の反映としての〈疑いの文〉を認識的モダリティへ位置づけ、話し手の認識を表す文からの派生・移行、為為性判断の関与といった観点から〈確認要求文〉を分析し、否定疑問文の述語形態と機能の関係を記述する。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第37巻

谷口一美著

A5判・364頁・978-4-89476-236-7
定価6510円(本体6200円)
発行2005.2

事態概念の記号化に関する認知言語学的研究〈日本学術振興会助成刊行物〉

認知言語学的アプローチにより日英語の文法構文の分析を行う。前半において基本的な文法概念について認知言語学的定義づけを行い、後半において共時的・通時的側面および日英語の対照から分析を行う。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第38巻

小野正樹著

A5判・272頁・978-4-89476-237-4
定価9870円(本体9400円)
発行2005.2 在庫僅少

日本語態度動詞文の情報構造〈日本学術振興会助成刊行物〉

言語主体の心的態度や発話態度を表すコミュニケーション機能をもつものを「態度動詞」と呼び、埋め込み節をとる動詞述語文を取り上げながら、人間の精神活動と言語形式の関係を記述することを目指す。前半では、事態の捉え方から発話の態度に至る過程を情報構造として観察し、「態度動詞」の規程と分類を行う。後半では、態度動詞の中でも特異なアスペクト・テンス形をもつ「ト思ふ」述語文を徹底的に分析している。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第39巻

外崎淑子著

A5判・312頁・978-4-89476-238-1
定価8820円(本体8400円)
発行2005.2 在庫僅少

日本語述語の統語構造と語形成〈日本学術振興会助成刊行物〉

意味役割の表示と状態述語、心理述語、使役構文からの提言

述語の情報はどのように統語構造に反映され、どのように語形成と関わるのか。本書は、統語構造としては従来あまり検討の対象とされていなかった状態動詞や形容詞、さらに、心理述語、使役構文等の述語対を主なデータとして取り上げている。分析には生成文法の枠組みと拡散形態論(Distributed Morphology)を用いているが、データの事実としてのみ概観しても興味深いものである。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第40巻

由本陽子著

A5判・368頁・978-4-89476-261-9
定価7140円(本体6800円)
発行2005.7

複合動詞・派生動詞の意味と統語〈日本学術振興会助成刊行物〉

モジュール形態論から見た日英語の動詞形成

日本語の複合動詞と、それに対応する英語の派生動詞の個々の語形成に注目し、その意味と統語的素性を詳しく考察する。先行研究では看過されてきた意味的な側面に焦点を当てた分析を提案し、さらに動詞概念の形成を日英間のみならず、形成される部門間で比較対照することにより「モジュール形態論」を意味解釈メカニズムの観点から支持すると同時に、形態論や概念意味論における重大な問題に対しても意義深い提案をしている。

平成17年度新村出賞受賞

▶ひつじ研究叢書(言語編)第41巻

中園篤典著

A5判・272頁・978-4-89476-276-3
定価5460円(本体5200円)
発行2006.3

発話行為的引用論の試み 広島修道大学学術選書28

現実の発話は必ず具体的なコミュニケーションの中で発せられ、それが遂行する機能もその中で様々に変化する。したがって、発話行為(言語行為)論の有効性を示すには、コミュニケーションをどう扱うかが重要である。本書では現実の談話資料を直接分析する方法をとらず、引用に注目することによりコミュニケーションを論理的に扱うことを試みた。引用の構文は、元の発話のコミュニケーションを埋め込んだ複文の形式をとっており、この構文に見られる統語的な振る舞いから、元の発話場面における発話行為の遂行を観察できると思われる。「発話行為的引用論」は、引用の構文を通して発話の動的な側面を考察し、コミュニケーション研究への貢献を目指す。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第42巻

矢澤真人・橋本修編

A5判・349頁・978-4-89476-277-0
定価8190円(本体7800円)
発行2006.3

現代日本語文法 現象と理論のインタラクション

現代日本語文法について、理論を現象が支え、現象を理論が統括する「現象と理論のインタラクション」を目指した論文集。北原保雄前筑波大学長の退任を記念して企画された。格やアスペクト、修飾など種々の現象について、現象提示の際には、従来の理論の予測の範囲内であるか、統一的な解釈にはどのような理論立てが必要であるか等を明示し、理論提示の際には、いかなる範囲で有効か、いかなる現象から例証されるか等を明示する、という方針のもとに論考が進められている。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第43巻

青柳宏著

A5判・216頁・978-4-89476-286-2
定価6300円(本体6000円)
発行2006.3

日本語の助詞と機能範疇〈南山大学学術叢書出版助成刊行物〉

本書は、語彙を「詞」と「辞」、つまり、内容語(content word)と機能語(function word)に分けた場合、「辞=機能語」に相当するものに焦点を当てたものである。生成文法理論では語彙を語彙範疇(lexical category)と機能範疇(functional category)に分けている。言語をその意味伝達機能から見れば、前者が圧倒的に重く、後者は軽い。しかし、一般言語理論の立場から、Borer(1980)やFukui(1986)は、言語間の差異は機能範疇の差異に求められるべきだと主張した。本書はこれを継承、発展させたもので、いかに多くの日本語の現象が、この「辞」のはたらきによってもたらされているかを描き出すことが目的である。特に日本語を特徴づける「とりたて詞」を中心とした助詞や接辞がどのように仕組みで実現し、また解釈されるのかを、生成文法理論の立場から論じる。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第44巻

副島健作著

A5判・259頁・978-4-89476-322-7
定価8715円(本体8300円)
発行2007.2 新刊

日本語のアスペクト体系の研究(日本学術振興会助成刊行物)

 新刊

これまでの日本語のアスペクト研究は、「スルーシテイル」のみを形態論的なカテゴリーとしてのアスペクト形式として認めるのが主流だった。しかし、シテイルが、類意表現の「シツツアル」「シテアル」とどう違うのか、はっきりわからないという欠点もあった。本書では、日本語のアスペクト体系を「シテイル」「シツツアル」「シテアル」「スル」の4項対立としてとらえ、それぞれの違いをより精緻化し、明解に示した。全体像を明らかにしつつ、日本語アスペクト論を確立しようとする初の試みとなる1冊。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第45巻

有元光彦著

A5判・300頁・978-4-89476-323-4
定価12075円(本体11500円)
発行2007.2 新刊

九州西部方言動詞テ形における形態音韻現象の研究

(日本学術振興会助成刊行物)

 新刊

本書は、九州西部地域(長崎県・熊本県・鹿児島県)の諸方言(約70方言)を対象とし、動詞活用形の1つであるテ形(「～して(きた)」のような形式)に起こる特異な形態音韻現象を体系的に記述したものである。また、これを手がかりとして「方言差」「類似性」を説明するための独自の言語モデルを構築している。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第46巻

上野誠司著

A5判・208頁・978-4-89476-326-5
定価8925円(本体8500円)
発行2007.2 新刊

日本語における空間表現と移動表現の概念意味論的研究

(日本学術振興会助成刊行物)

 新刊

本書は、Jackendoffの概念意味論(Conceptual Semantics)に立脚しつつ、幾つかの理論的修正と、複数の適格性制約(well-formedness constraints)を新たに提案し、日本語の空間・移動表現の分析を通じて、それらの提案の妥当性を検証している。また、概念構造における項(argument)と修飾部(modifier)との違いが、格助詞「に」と「で」の交替現象や、「まで」を含む動詞述語文のアスペクト解釈をも左右していることを明らかにし、言語の意味と形の接点の問題に迫っている。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第47巻

宮地朝子著

A5判・232頁・978-4-89476-320-3
定価7140円(本体6800円)
発行2007.2 新刊

日本語助詞シカに関わる構文構造史的研究 文法史構造の一試論

(日本学術振興会助成刊行物)

 新刊

「シカ」は否定述語と拘束関係を持つ否定呼応表現であり(例:太郎しかいない)、「(其他否定)」「(其他)」を否定することによる反転的な限定」という特有の意味機能を持つ。本書は、日本語助詞シカおよびシカの作る「～シカ…ナイ構文」の成立を歴史・地理的動態から見ることにより、日本語の構文構造を追究しようとする構文レベルの文法史の一試論である。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第48巻

日高水穂著

A5判・354頁・978-4-89476-321-0
定価7770円(本体7400円)
発行2007.2 新刊

授与動詞の対照方言学的研究(日本学術振興会助成刊行物)

 新刊

標準語の授与動詞「やる」と「くれる」は、「私が太郎に本をやった」「太郎が私に本をくれた」のように、相補的に使い分けられる。授与動詞のこの対立は、日本語の歴史の変遷の中でも不変のものではなく、全国的に一律のものでもない。本書では、現代日本語諸方言に見られる授与動詞の体系と変化に注目し、現地調査に基づく体系記述と動態調査の結果を、対照方言学的観点から考察する。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第49巻

石井正彦著

A5判・497頁・978-4-89476-324-1
定価8820円(本体8400円)
発行2007.2 新刊

現代日本語の複合語形成論(日本学術振興会助成刊行物)

 新刊

複合語形成論を、既成の複合語を対象とする「解釈的複合語形成論」、新造の複合語を対象とする「命名的複合語形成論」、臨時の複合語を対象とする「構文的複合語形成論」の3領域に区分し、それぞれを代表する「複合動詞」「複合名詞」「臨時一語」の形成を計量的に記述しつつモデル化・類型化した書。現代日本語の書きことばにおける複合語形成について、大量のデータを分析することで実証的に論じている。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第50巻

鈴木右文・水野佳三・高見健一編

A5判・568頁・978-4-89476-316-6
定価13440円(本体12800円)
発行2006.9

言語科学の真髄を求めて 中島平三教授還暦記念論文集

本書は、学習院大学教授、中島平三氏の2006年8月の還暦を祝し、氏と交友の深い研究者や教え子たち36名が寄稿して編まれた記念論文集である。久野暲、Richard Kayne、Henk van Riemsdijk、Luigi Rizzi、北川千里、北川善久らの海外からの論考に加え、今井邦彦、外池滋生、澤田治美、長谷川信子、池内正幸らにより、英語、日本語、および他言語の統語的、意味的、語用論的諸現象が鋭く分析されている。また、音韻現象や言語習得、英語の歴史に関する論考も含まれ、中島氏の交友の広さを示すだけでなく、言語科学の真髄に迫ろうとする意欲的な1冊である。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第51巻

高崎みどり・新屋映子・立川和美 著

A5判・266頁・978-4-89476-327-2
定価7140円(本体6800円)
発行2007.2 新刊

日本語随筆テキストの諸相〈日本学術振興会助成刊行物〉

 新刊

随筆500編を対象に、文章論及びテキスト研究の方法を活用して量的・質的に分析した書。指示語に着目した文法論、文章特性に注目した語彙・文末・話法の研究、及び名詞文の機能と表現効果など、複数の観点から多角的に捉えている。日本語の随筆は、エッセイやコラムとは異なるものだが、従来その位置付けが曖昧にされてきた。そうした随筆の位置づけ、及びその特異性を明らかにすることを目指している。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第52巻

クレア マリィ 著

A5判・202頁・978-4-89476-325-8
定価7140円(本体6800円)
発行2007.2 新刊

発話者の言語ストラテジーとしてのネゴシエーション行為の研究〈日本学術振興会助成刊行物〉

切りぬける・交渉・談判・掛け合い

 新刊

発話者がいかに個々の発話場面やその場面に現出する人間関係を「自分らしく」切り抜けるか、その行為を「ネゴシエーション行為」と名付け、新しい言語研究の視点・概念枠組みとして提案する。本書では特に、従来では研究の対象になりにくかったクイア言語や、いわゆる「男言葉」「オネエ言葉」などを再検討し、「男性・女性がかう話すべきだ」という社会的に規定される言説と、実践的な言語使用との間の隔たりを考察する。ジェンダー・セクシュアリティ、また、話し手を中心とした談話分析に新たな可能性を見出す研究書。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第53巻

二枝美津子 著

A5判・218頁・978-4-89476-384-5
定価5250円(本体5000円)
発行2007.2 新刊

主語と動詞の諸相 認知文法・類型論的視点から

 新刊

世界の言語は、多様であるにも関わらず名詞的なものと動詞的なものが存在する。人の思いを言語の形にして伝えていくとき、最低限この二つを用いて表現する。そのもっとも簡単な形が、主語と動詞が一つづつからなる自動詞構文である。The door opened.の主語は何であるかということから出発し、能格に注目し、主語と動詞の関係を根本から捉え直す。修士論文から現在に至る主語と動詞を巡る著者の研究の集大成。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第54巻

奥津敬一郎 著

A5判・978-4-89476-350-0
定価5670円(本体5400円)
発行2007.10 新刊

連体即連用? 日本語の基本構造と諸相

 新刊

- a. ズボンに 大きい穴が あいた。
b. ズボンに 穴が 大きく あいた。

上の例のaでは「大きい」が「穴」を連体修飾しており、bでは、「大きい」は、いわゆる連用形をとっている。しかしaもbも「ズボンに穴があいた」こと、そしてその「穴」が「大きい」ことを意味しており、同義である。このような現象を「連体と連用の対応」と呼ぶことにする。しかし無条件に連体と連用は対応するわけではなく、一定の条件がある。

本書は、日本語の種々な文構造にみられる連体と連用の対応を記述し、その対応の条件を探ろうとするものである。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第55巻

青木博史 編

A5判・978-4-89476-351-7
定価7140円(本体6800円)
発行2007.10 新刊

日本語の構造変化と文法化

 新刊

現代語の言語研究の進展により、日本の古代語の文法においても研究の展開が生まれている。従来の国語学と日本語学の融合によってどんな研究が生まれてきているのだろうか? 若手研究者による本論集によって、比較的静かであった古代語研究にも新しい世代による研究が育ちつつあることがわかるであろう。古代における文法体系がどのように変化してきたのか、文法化研究なども踏まえた最前線の研究。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第56巻

長谷川信子 編

A5判・978-4-89476-348-7
価格未定
近刊

日本語の主文現象(仮) 統語構造とモダリティ

 近刊

日本語には、モダリティや取り立て詞現象など、興味深い主文現象が豊富に見られるにも拘わらず、これまで、理論的考察の中心的対象とはなってこなかった。しかし、今、統語理論は、主文の語用的機能の構造的具現化を視野に入れ、大きく転換しようとしている。今後、日本語の主文現象を軸に、理論的にも、記述的にも、新たな言語研究の波を起こすことが期待できる。本書は、日本語の最も日本語らしい現象から統語理論へ提言する。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第57巻

坊農真弓 著

A5判・978-4-89476-359-3
定価7560円(本体7200円)
発行2008.2 予定 近刊

日本語会話における言語・非言語表現の動的構造に関する研究
〈日本学術振興会助成予定刊行物〉 近刊

会話場面では、言語表現のみならず、ジェスチャー、視線、身体の向きなどの非言語表現が重要な役割を担っている。本書では、従来から議論されてきた話し手が対象世界にどう対峙しているかを問題とした視点概念に加え、話し手が表現をどのように聞き手に伝達するかに焦点を当てた「相互行為的視点」の概念を提案する。この提案を通し、これからの言語研究において、どのように非言語表現を扱っていくべきかについて方法論的視点と理論的視点から整理する。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第58巻

朝日祥之著

A5判・978-4-89476-361-6
定価9030円(本体8600円)
発行2008.2予定 近刊

ニュートン言葉の形成過程に関する社会言語学的研究

〈日本学術振興会助成予定刊行物〉

 近刊

本書は、都市計画のもとに全国各地で建設が進んでいるニュートンを取り上げ、移住者が持ち込んだ方言間の接触によって生まれるニュートン言葉の形成過程を、社会言語学の見地から考察したものである。神戸市にある西神ニュートンをフィールドとし、2年半にわたる現地調査で収集したデータを用いながら、ニュートン居住者による言語使用実態とニュートンで使われている言葉の認知の在り方について、分析を行なった。分析の結果をもとに、ニュートン言葉の形成過程を構築した。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第59巻

李貞畋著

A5判・978-4-89476-356-2
定価7560円(本体7200円)
発行2008.2予定 近刊

韓日新聞社説における「主張のストラテジー」の対照研究

〈日本学術振興会助成予定刊行物〉

 近刊

本書は、日本語と韓国語における主張のストラテジーの特徴を新聞の社説を資料として分析考察している。統語面では大変類似していると言われる日本語と韓国語だが、言語運用面においては独自の運用の方法があることがわかった。日本の文章構造論の理論を援用し、文章論の立場から日韓対照研究に挑んだ本研究は、マクロとミクロの両構造から、文章論は統語論の単なる延長ではなく、独自の原理が働く独自の領域であることを示唆している。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第60巻

大矢俊明著

A5判・978-4-89476-355-5
定価8400円(本体8000円)
発行2008.2予定 近刊

ドイツ語再帰構文の対照言語学的研究

〈日本学術振興会助成予定刊行物〉

 近刊

ドイツ語における再帰代名詞は幅広い用法を持ち、項構造の交替現象と密接にリンクしている。本書はドイツ語における結果構文、中間構文、さらに心理動詞構文といった再帰構文にみられる特性を、英語およびオランダ語と比較することにより明らかにする。さらに、ドイツ語の言語事実を基盤として、英語における結果構文や移動様態動詞構文についても独自の分析を示し、複数の言語を比較する重要性を指摘する。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第61巻

小林賢次著

A5判・978-4-89476-354-8
定価10290円(本体9800円)
発行2008.2予定 近刊

狂言台本とその言語事象の研究

〈日本学術振興会助成予定刊行物〉

 近刊

狂言台本の言語の実態を古代語から近代語への変遷過程に位置づけるため、大蔵虎明本などの代表的な台本にとどまらず、和泉流雲形本・南大路家旧蔵三宅派台本など、さまざまな台本を広く見渡して、その資料性を究明。後世の写本あるいは翻刻本の問題点をも指摘する。また、狂言台本に反映されている言語事象を出発点として、抄物やキリシタン文献などとも比較し、条件表現あるいは語彙・語法に関する史的考察を行っている。

▶ひつじ研究叢書(言語編)第62巻

小野尚之編

A5判・336頁・978-4-89476-346-3
定価6510円(本体6200円)
発行2007.9 新刊

結果構文研究の新視点

 新刊

序論 結果構文をめぐる問題 小野尚之／英語結果述語の意味分類と統語構造 影山太郎／結果述語のスケール構造と事象タイプ 小野尚之／結果構文における有界性制約を再考する 鈴木享／ゲルマン諸語に見られる派生的結果構文に関する一考察 都築雅子／結果構文と類型論パラメータ 加賀信広／日本語結果述語は動作オプション表現である 加藤敏三／Pattern Matching Analysis(PMA)を用いた日本語の結果構文の共述語分析 黒田航・李在鎬／文処理ストラテジーという視点から見た結果構文の類型論 中谷健太郎

▶ひつじ研究叢書(言語編)第63巻

工藤真由美編

A5判・978-4-89476-367-8
価格未定
近刊

日本語形容詞の文法(仮) 標準語研究を超えて

 近刊

『日本語のアスペクト・テンス・ムード体系—標準語研究を超えて—』の続編。科研の調査研究に基づく論考を所収。東北から奄美沖繩にいたる諸方言の総合的記述への第一歩として、形容詞および名詞述語の基礎的な記述を提示する。理論的な論考2本(第1部)と、8地区の調査結果(第2部)で構成。一般言語学の研究成果を視野に入れた日本語の諸方言研究の新たな展開。方言の豊かな言語事実は、標準語研究にとっても刺激的である。執筆者:工藤真由美／かりまたしげひさ／木部暢子／佐藤里美／須山名保子／高江洲頼子／仲間恵子／村上智美／八亀裕美

▶ひつじ研究叢書(言語編)第64巻

伊藤健人著

A5判・978-4-89476-381-4
価格未定
近刊

日本語項構造構文の形式と意味

 近刊

「構文」という観点を持たなかった従来の日本語研究では、「動詞の多義性」「格助詞の交替現象」「意味役割と格表示」といった問題は個別に扱われてきた。これらを統一的に説明すべく、本書では「イメージ・スキーマに基づく格パターン構文」を提案する。さらに、日本語における「構文の形式」とは何か、「構文の意味」を動機付けているものは何か、という最も根本的な問題に対して、記述的な研究成果を踏まえて論じる。

現代日本語のアスペクト論

形態論的なカテゴリーと構文論的なカテゴリーの理論

 近刊

須田義治 著

A5判・978-4-89476-382-1

価格未定

近刊

本書はアスペクトの理論的かつ実証的な研究である。第I部では、アスペクト論の理論的な前提となる形態論的なカテゴリーと構文論的なカテゴリーの理論を、言語学の諸概念を批判的に検討しながら、構築する。また、構文論的なカテゴリーの例としてヴォイスとモダリティの体系についても論じている。第II部では、アスペクト論を構成する、アスペクト、アスペクチュアリティ、語彙・文法的な系列などについて検討し、日本語のアスペクトを体系的に具体的に明らかにしている。

話者の視点がつくる日本語

森田良行 著

四六判・248頁・978-4-89476-335-7
定価 2520円 (本体 2400円)
発行 2006.12

本書は、著者の長年の教師経験と研究とから得た日本語論ともいえるべき内容である。そこには教育の場から得た貴重な実例と、文系理系にまたがる豊富な用例を駆使した、著者の目指す、日本語の新しい見方が平易に解説されている。人間の視点中心に表現・理解行為の諸相を見直せば、これまでと違った日本語の姿が読み取れることを、楽しい読み物として読者に語りかける。著者の文法・意味に関する諸著作の集成ともいえるべき、著者の日本語観の集約された貴重な1冊である。

言語研究の射程 湯川恭敏先生記念論集

加藤重広・吉田浩美 編

A5判・368頁・978-4-89476-298-5
定価 9240円 (本体 8800円)
発行 2006.6

日本語における自動詞で表される二項文 (永井忠孝) / 日本語の数量詞文と動作量解釈 (加藤重広) / 中国語の被害の意味をあらわさない“被”字句 (太田栄次) / 二つの文を結びつける“是……的” (許慧) / モンゴル語における受身接辞と使役接辞の連続 (梅谷博之) / 現代ビルマ語の借用語に見られる低い促音節 (加藤昌彦) / パリ語の接頭辞 ma- (塩原朝子) / タラウド語の音声・音韻と語彙における世代差 (内海敦子) / ウォライタ語の形式体言 -gaa (若狭基道) / マテング語の「補完語」と情報構造 (米田信子) / ケレウェ語の使役形動詞 (小森淳子) / スペイン・バスク自治州アスベティアとアスコイティアの高校生のバスク語をめぐる状況 (吉田浩美)

コミュニケーション、どうする? どうなる? (仮)

 近刊

コミュニケーション、どうする?
どうなる? 編集委員会 編

四六判・978-4-89476-319-7
予価 2100円 (本体 2000円)
近刊

本書は、2005年12月に神戸大学国際文化学部で開催された「ここを伝えるコミュニケーション」というシンポジウムを基に編まれたものである。本書では視点を「コミュニケーション」に据え、企業の人事、動物のコミュニケーション、脳科学、精神医学といった様々な立場から問題点を提示し、それに対する解決法を、外国人の日本語習得、感情の伝達、異文化間の知覚の相違という観点から探る。やや専門的と思われる用語には解説を施した。

LANGUAGE IN PAPUA NEW GUINEA

 近刊

Toru Okamura 編

菊判・978-4-89476-353-1
価格未定
近刊

英文。パプア・ニューギニア人自身によるパプア・ニューギニア語の研究が主要な部分をしめる研究。ピジンクレオールというくくりで、言語接触について語られることが多いが、実際にトクピジンとはどういうものなのか。その現場からの言語研究。パプア・ニューギニアにおける言語現象についての研究を含む。

三尾砂著作集 1

三尾砂 著

A5判・334頁・978-4-89476-162-9
定価 2940円 (本体 2800円)
発行 2003.4

場面や場というものを視野に入れた三尾砂文法を理解する上で重要な論考を雑誌掲載論文も含めて収録。国語法文章論 / 基本文型への手がかり / 国語教育と基本文型 / 主語・総主・題目語・対象語 / 日本語の文法 - 分かち書きの基礎論 - / 日本語の分離変化 / 名詞の一種の連体形 / 文体と『の』の移り変わり / 文における陳述作用とは何ぞや

三尾砂著作集 2

三尾砂 著

A5判・344頁・978-4-89476-163-6
定価 2940円 (本体 2800円)
発行 2003.7

児童心理学の手法を用い、現代日本語の話しことばの文法を「場」との関連で記述。「だ体・です体・ございます体」という文体の種別に応じた文法的事実の指摘のために活用の系列と派生形の体系づけを提示。

日本語の文法の研究

佐治圭三 著

A5判・312頁・2刷・978-4-938669-03-4
定価 5040円 (本体 4800円)
発行 1991.7 品切れ

長年、日本語教育・文法研究に携わってきた著者の初めての著書。日本語を教える人、日本語学を学ぶ人にとつての必読の書。「『は』と『が』」、「『は』と『も』」、「へのだ」など肝要な事項を研究解説した本。

要約文の表現類型 日本語教育と国語教育のために

佐久間まゆみ 著

A5判・348頁・978-4-938669-28-7
定価3675円(本体3500円)
発行1994.3 在庫僅少

テキスト研究にとって重要な要約文の研究であり、外国人に対して日本語を理解しているかを判定するテストを行うため文章理論を研究した。第1部「文章理解と要約文の研究概要」、第2部「韓国語日本語学習者の要約文の分析」より構成。

副詞的表現をめぐる 対照研究

武内道子 編

A5判・264頁・978-4-89476-258-9
定価4410円(本体4200円)
発行2005.3 在庫僅少

11名の著者が対象言語(日本語・英語・ロシア語・フランス語・中国語)を定め、副詞的表現について論考する。各言語の中で語彙化、構造化あるいは使用に供される副詞的表現と目される形式を各自が任意の方法で分析している。神奈川大学「対照言語研究会」の第一論集。

英文鑑

杉本つとむ 著

A5判・698頁・978-4-938669-16-4
定価12600円(本体12000円)
発行1993.3

本書は、天保年間に、渋川六蔵・藤井三郎補訂にオランダ語訳本より作られた日本英語学史上の初の英文法書である。もとのものは失われたが、大月如電が昭和3年(1928)、油印本で限定100部復刻したものの貴重な複製。研究を付す。

都竹通年雄著作集2

都竹通年雄 著 松本泰丈 解説

A5判・329頁・978-4-938669-72-0
定価5040円(本体4800円)
発行1996.10

都竹の中心的なテーマであった(方言)文法の研究を集めて刊行した。*都竹通年雄著作集1は品切です。

日本語とジェンダー

日本語ジェンダー学会 編
佐々木瑞枝 監修

A5判・218頁・978-4-89476-274-9
定価2520円(本体2400円)
発行2006.6

日本語には、「家内(女性は家にいるべきだ)」「男泣き(男は泣いてはいけない)」等、社会的・文化的な性別役割(ジェンダー)が含意されている語や表現が多い。本書では、こうしたジェンダー表現を「日本語ジェンダー学会」に集う10人の研究者が、日本語の歴史や日本語学、日本文学、日本語教育、言語学等の観点から分析する。ジェンダーをことばとの関係で捉え直すための多様な道標を提示する試みである。

女性のことば・職場編

現代日本語研究会 編

A5判・276頁・2刷・978-4-938669-93-5
定価3675円(本体3500円)
発行1997.11 品切れ

現代の女性たちはどのような話し言葉を用いているのだろうか。19名の女性が職場で交わした会話を収集し、文末形式や疑問表現、敬語や笑いといった角度から詳細に分析。全談話データをおさめたフロッピーディスク付。目次:1. 尾崎喜光・遠藤織枝 調査の概要/2. 尾崎喜光 女性専用の文末形式のいま/3. 中島悦子 疑問表現の様相/4. 遠藤織枝 職場の敬語のいま/5. 小林美恵子 自称・対称は中性化するか/6. 谷部弘子「のつけちゃうからね」から「申しておりますので」まで/7. 三井昭子 話しことばの「だから」「それで」/8. 早川治子 笑いの意図と談話展開機能/9. 本田明子 発話の「重なり」と談話進行/10. 高崎みどり 女性の働き方とことばの多様性/11. 宇佐美まゆみ「ね」のコミュニケーション機能とディスコース・ポライトネス

男性のことば・職場編

現代日本語研究会 編

A5判・256頁・2刷・978-4-89476-161-2
定価2940円(本体2800円)
発行2002.7

人々は職場でどのような日本語を使っているのか。前著『女性のことば・職場編』を補完するたちで刊行された本書は、職場におけるジェンダーと話しことばの関係に迫る。自然談話データを収めたCD-ROM付。遠藤織枝・尾崎喜光 調査の概要/遠藤織枝 男性のことばの文末/中島悦子 職場の男性の疑問表現/遠藤織枝 職場の男性の敬語/笹寿美子「です/ます」表現の使われ方/尾崎喜光 新しい丁寧語「(っ)す」/小林美恵子 職場で使われる「呼称」/桜井隆「おれ」と「ぼく」/谷部弘子「から」と「ので」の使用にみる職場の男性の言語行動/早川治子 自然言語データの相互的視点による「笑い」の分析/本田明子 発話の「重なり」にみられる日本語談話進行の特徴/杉本明子 職場における相互理解の談話構造/高崎みどり 男性の働きかけとことばの多様性

戦時中の話しことば ラジオドラマ台本から

遠藤織枝・桜井隆・鈴木智恵子・
早川治子・安田敏朗 著

A5判・280頁・978-4-89476-222-0
定価3990円(本体3800円)
発行2004.9

偶然発見された戦時中から戦後にかけて放送されたシナリオ78本。戦中・戦後に活躍した小林勝氏のシナリオであった。名作のラジオドラマ化から、抗日運動に関わる兄を持つ弟が主人公のドラマ、そして戦後の石川達三の「望みなきに非ず」を脚色したもので、実際にこの時期の茶の間に流れた放送のシナリオを当時の話しことば資料として扱う。昭和初期に話された会話資料がほとんど存在しない中で、貴重な資料と研究である。目次:資料解説 遠藤織枝・木村拓／第1章 戦時中の話しことばの概観—現代語と比較しながら—遠藤織枝／第2章「天皇」に関する用語 遠藤織枝／第3章 人称詞の使われ方 遠藤織枝／第4章 戦時中ラジオドラマにみられる待遇表現 鈴木智恵子／第5章 戦時期の外来語使用 桜井隆／第6章 ラジオドラマのなかの方言—「土」と「姫鱈」から—安田敏朗／第7章「戦争キーワード」から見る戦時中のラジオドラマ 早川治子／第8章 台本の描く女性たち 遠藤織枝／第9章 ラジオドラマにえがかれる国際認識 安田敏朗／第10章 軍隊賛美のレトリック 桜井隆

「うん」と「そう」の言語学

定延利之編

A5判・180頁・978-4-89476-171-1
定価1890円(本体1800円)
発行2002.11 在庫僅少

会話中の「うん」と「そう」(串田秀也)、プロソディからみた「うん」と「そう」(坊農真弓)、「うん」と「そう」の意味はあるか(定延利之)、「はい」と「うん」の関係をめぐって(富樫純一)、「中国語の肯定応答表現—日本語と比較しながら—」(黄麗華)、「是嗎」に関する覚え書き(井上優)

「～は～」のはなし

堀口和吉 著

A5判・212頁・978-4-938669-41-6
定価3675円(本体3500円)
発行1995.3

今の国文法教育の大きな欠陥の一つは、文の構成を主語・述語・修飾語から成るとし、それにとどまることである。本書は、その誤りを指摘し、主語述語主義の呪縛から解放を願うものである。

コーパスに基づく言語研究 文法化を中心に

秋元実治 他 著

A5判・176頁・978-4-89476-216-9
定価3360円(本体3200円)
発行2004.3

英、仏、中、日の各言語における文法化現象をコーパスに基づき解明を試みる。青山学院大学の秋元実治、尾形こづえ、遠藤光暁、近藤泰弘、およびスタンフォード大学のE. C. Traugottの論文を収録。

今日から使える発話データベース CHILDES入門

Brian MacWhinney 監修
宮田Susanne 編

A5判・117頁・978-4-89476-226-8
定価2310円(本体2200円)
発行2004.10

言語獲得研究のための国際的データベースプロジェクト「CHILDES (チャイルズ)」が収集してきた自然発話のデータベースや、言語解析プログラムCLANの利用方法を紹介。スクリーンショットを多用して解説する、初心者向けの簡単マニュアル。 ★CD-ROM付

認知言語学の発展

坂原茂編

A5判・468頁・978-4-89476-128-5
定価4620円(本体4400円)
発行2000.8

目次:まえがき 坂原茂／不変性仮説—抽象推論はイメージ・スキーマに基づくか? George Lakoff 杉本孝司訳／動的使用依拠モデル Ronald W. Langacker 坪井栄治郎訳／対照研究への認知言語学的アプローチ 西村義樹／日常言語における創造性 Gilles Fauconnier 酒井智宏訳／図の変化と地の変化—変化述語、メンタル・スペース、尺度の基準に関する一考察 Eve Sweetser 小原京子訳／英語と日本語の名詞句限定表現の対応関係 坂原茂／複数の心的領域による談話管理 田窪行則・金水敏／言語的知識としての構文—複文の類型論に向けて 大堀壽夫／日本語における身体部位詞から物体部分詞への比喩的拡張—その性質と制約 松本曜／イベント統合の類型論 Leonard Talmy 高尾享幸訳

時間・ことば・認識

長野泰彦 編

A5判・338頁・978-4-89476-117-9
定価4830円(本体4600円)
発行1999.11

人間にとって永遠の問題である「時間」とは何か?言語学と文化人類学は「時間」の解明にどのような貢献ができるのか?ことばという現象を通じて「時間」を人文社会科学の立場から考える。国立民族博物館開催シンポジウム〈時間とことば〉の報告集。執筆者 長野泰彦/アルフレッド・ジェル/見田宗介/安富歩/宮田登/古橋信孝/立川武蔵/ピーター・オースティン/ジェイムズ・A・マティソフ/崎山理/マリアンヌ・ミスン/ウォーレス・チェイフ/川田順造

ことば・空間・身体

 近刊

篠原和子・片岡邦好 編

A5判・978-4-89476-273-2
予価7140円(本体6800円)
近刊

日本英語学会第21回大会のワークショップをもとに、認知言語学、心理学、言語人類学的視点から空間概念の構築/転移/拡張を扱った論文集。空間・時間表現の言語分析にとどまらず、メタファー、ジェスチャー、談話なども射程に収め、身体を通しての空間的経験を基盤とする言語現象、言語に伴う身体現象などを、さまざまなアプローチによって包括的に考察する。【執筆者および論文題目】片岡邦好「序章-空間概念の歴史の変遷素描」/《第一部》古山宣洋・関根和生「忘却か?方略か?—ナラティブ話者の一貫した言及回避の謎に迫る」/細馬宏通「発語とジェスチャーはいかに話者の空間座標軸を表現するか?—日本語における左右概念をめぐる個人内・個人間相互作用」/片岡邦好「空間談話におけるメンタル・マップの協同構築—日本人ロック・クライマーによる直視移動動詞『行く/来る』の用法について」/井上京子【再録】/《第二部》Carlos Inchaurrede「文法、語彙カテゴリーと隠喩的空間としての時間(翻訳論文)」/松中義大「日本語接続助詞に関する一考察—『うち』『なか』を中心に」/篠原和子「時間メタファーにおける『さき』の用法と直視的時間解釈」/鍋島弘治朗「現実と理想のメタファー—主観性および身体性との関連から」

【再録】

井上京子(2002)「絶対と相対の狭間で—空間指示辞によるコミュニケーション」大堀壽夫(編)『認知言語学II:カテゴリー化』(シリーズ言語科学3) pp. 11-35. 東京大学出版会。

メタファー研究の最前線

 新刊

楠見孝 編

A5判・568頁・978-4-89476-317-3
定価8400円(本体8000円)
発行2007.9 新刊

メタファー研究は、「こころとことば」の関係を明らかにするための一つの有効な方法である。本書は、これまで言語学、心理学、文学、工学、認知科学などおのおの分野で進められてきたメタファー研究に、より学際的にアプローチすることを意図して企画された論文集である。多様なメタファー研究を7つのテーマに分け、研究成果と最新の研究動向を紹介する。
【テーマ・執筆者】【1.メタファーをめぐる理論】山梨正明、瀬戸賢一、子安増生、月本 洋【2.メタファーとレトリック】多門靖容、中村明、半澤幹一、森 雄一【3.メタファーと概念構造】鍋島弘治朗、篠原和子、黒田 航、渋谷良方・野澤 元【4.メタファーと感覚】進藤三佳・村田真樹・井佐原均、坂本 勉、坂本真樹【5.メタファーの認知メカニズム】中本敬子、中川正宣・寺井あすか・阿部慶賀、平 知宏、中村太戯留、内海 彰【6.メタファー的思考】栗山直子・船越孝太郎・徳永健伸・楠見 孝、羽野ゆづ子、平真木夫、Bipin Indurkha、鈴木晶子・小野文生【まとめ】楠見 孝

日韓の言語行動対照研究(仮)

 近刊

尾崎喜光 編

A5判・978-4-89476-341-8
予価4410円(本体4200円)
近刊

2001年度から4年間、日韓の言語行動やその背景にあると考えられる対人意識の異同に関する国際共同研究を行なった。日本側は東京都・大阪府、韓国側はソウル・プサンに在住する20代・40代・60代の市民を無作為に抽出し2175人から回答を得た。一般市民を対象とした日韓対照研究ではいまだかつてない規模である。本書はその調査報告書である。分析対象としたデータはCD-ROMにより添付する。

国会会議録を使った日本語研究

 近刊

松田謙次郎 編

A5判・978-4-89476-299-2
価格未定
近刊

ここ数年、インターネットで公開された「国会会議録」をデータとして用いた日本語研究が注目されている。インターネット版「国会会議録」は、過去60年にわたる、出身・在外歴までほぼ判明している日本各地出身者による議論を文字化した資料である。本書は、多種多様な分野の日本語研究者が、この空前ともいえる膨大なデータを使って、それぞれの分野で何ができるかを追究、あわせて将来的研究を展望したものである。研究者のみならず、卒論テーマを探す学部生にもお薦めの1冊。

形式名詞がこれでわかる

吉川武時編
代表 小林幸江・柏崎雅世

A5判・224頁・978-4-89476-191-9
定価 2940円 (本体 2800円)
発行 2003.8

「もの、こと、ところ」などの形式名詞を含む文中表現、または複合述語の機能、用法がわかる本。本書の特徴は、外国人への日本語教育の現場の教師に配慮し、形式から内容へという一貫した説明を行っているところにある。各章末には各文法項目の機能、用法、例文を表に整理した。さらに理解確認問題もあり、これによって理解が深まる。解答例付。

複合助詞がこれでわかる

 新刊

東京外国語大学留学生日本語教育センター グループ KANAME 編著
代表 鈴木智美

A5判・244頁・978-4-89476-318-0
定価 2940円 (本体 2800円)
発行 2007.5 新刊

『形式名詞がこれでわかる』に続く日本語文法の概説。中級日本語学習者にとって的確に使いこなすことの難しい機能語を、接続形式と意味、例文を揭示し、1つ1つ詳細に解説していく。解説項目：「について」「に関して」「に対して」「によって」「において」「にとって」「として」「にしたがって」「につれて」「に応じて」「に基づいて」「にあたって」「を通して」「を通じて」「にむけて」「にわたって」「に限って」「に限らず」「にかかわらず」「を問わず」

日仏対照現代日本語表現文型

会津洋他著

A5判・224頁・978-4-89476-214-5
定価 2940円 (本体 2800円)
発行 2005.2

フランス語を母語とする中級以上の日本語学習者を対象にした日本語表現のテキスト。文末表現と節末表現に分類し、豊富な例文とともに解説する。

言語学は面白い (仮)

 近刊

大津由紀雄編

A5判・978-4-89476-393-7
予価 1575円 (本体 1500円)
近刊

言語学の入り口となる本。たとえば、ことばに関する面白い事例を紹介したり、言語の不思議を研究する人々がどう考えて、どういうプロセスでことばのナゾを追い求めるのかを公開することで、10代半ばから後半くらいの思春期の若者たちをはじめとして、多くの人々が、ことばの仕組みに興味を目覚めさせる本。

▶近代語研究 2

近代語研究会編

A5判・360頁・978-4-938669-54-6
定価15750円(本体15000円)
発行1995.12

日本近代語研究 2

執筆 出雲朝子/金澤裕之/金子弘/佐藤貴裕/清水登/鈴木博/田中章夫/陳力衛/永田高志/蜂谷清人/飛田良文/宮田和子/村田菜穂子(お詫び・佐藤先生の図版の部分に間違いがありました。訂正の図版を用意していますのでご請求下さい。) *日本近代語研究 1・3巻は品切です。

▶近代語研究 4

近代語研究会編

A5判・672頁・978-4-89476-234-3
定価42000円(本体40000円)
発行2005.5 在庫僅少

日本近代語研究 4〈飛田良文博士古稀記念〉

【収載論文】飛田良文/外来語研究の方法 木下哲生/文芸作品における外来語「スーツ」杉本雅子/森嶋外『キタ・セクスアリス』における外来語—使用実態と特徴—小野正弘/同語か、別語か?—「無念」の語史を通して—田中牧郎/「敏感」の誕生と定着—『太陽』コーパスを用いて—小平友美/「芸術」の語史 孫建軍/「義務」の成立 新野直哉/続・「役不足」の「誤用」について 真田治子/現代の教科書に残る明治期学術漢語 佐藤武義/『万国航海』西洋道中 藤栗毛』の二著者の用語 湯浅茂雄/英和字彙系の一書、『新撰英和字典』の資料性について 菊地悟/『和英語林集成』初版「和英」「英和」両部における語形のゆれ—字音・語構成等にかかわる異同—近藤尚子/二つの「和英」村上雅孝/『雅俗漢語訳解』の成立について 浅田秀子/「擬音語・擬態語」の音韻とイメージの関係について Etsuko Obata Reiman/ビジネス界での固有名詞は日本語表記を変える 笹原宏之/「杓」にみる字体・用法の派生と字体の衝突 貝美代子/国定説本の文語文—量的推移と短歌の採用—今野真二/春陽堂版『禽獸/世界狐乃裁判』管見 小椋秀樹/書簡文研究資料としての明治期女子用往来物 平沢啓/年齢層の言語の異同—明治期富山県議会速記録を資料として—矢島正浩/条件表現の史的研究における「恒常性」—検証方法に関する一試案—鶴橋俊宏/仮名垣魯文の戯作小説における推量表現 服部隆/西周の文法研究における「句(Sentence)」島田泰子/連用における例示と程度—コンナニ類の程度副詞化—田貝和子/樋口一葉の小説作品における時の助動詞について 園田博文/中国会話書に於ける「へ」と「に」—使い分けについての一考察—申鉉竣/近代日本語の補助形式による可能表現について 安部清哉/近世初期俳諧の語彙と方言分布 陳力衛/『博物新編』の日本における受容形態について 羅工洙/近世・近代における中国語の指示代名詞「這般」の受容について 矢野準/『兩虎対仇討』の仮名遣い(報告) 彦坂佳宣/東北人による『広八日記』『桑名日記』の合拗音表記—近世末期南奥地方の合拗音の残存可能性— 上野隆久/江戸後期から明治期における「へからのコトだ」と「へからだ」—『春色暖対英語』と『三四郎』を資料として— 山田昌裕/原刊本『捷解新語』の「変」な主格表示「ガ」——一七世紀の日本語における位置づけ— 樋渡登/洞門抄物から見た疑問詞疑問文について 小林千草/戦国文書『大かうさまぐんき』と狂言「萩大名」——『大かうさまぐんき』の国語史的注釈から— 小林賢次/大蔵虎明本における狂言詞章の伝承と改訂 *日本近代語研究 1・3巻は品切です。

言語教育研究の挑戦

言語学と言語教育を横断するシリーズ。言語学的な視点を持った言語教育の研究書を刊行。これまで、言語教育研究は、教科書出版社が、余技で刊行するということが多く、教師のためのノウハウ本や実践報告の枠を超えることがなかなかできなかったというのが実情ではないだろうか。そのような現状を打破し、言語教育を研究として位置づけることを目標とする。従来の言語教育の書籍よりも、高価である。しかし、軽便・安価を旨とした深みのない書籍になってしまうことをさけ、500部でも研究書として世に問うことを選択した。この領域で研究書をきちんと刊行できることが重要であると信じる。日本語教育、英語教育などの優れた研究を刊行。言語教育研究者にとって、コンセンサスとなりうる重要なシリーズ。ハードカバーで、鮮やかなブルーのカバーの体裁。

▶シリーズ言語学と言語教育 1

日本語複合動詞の習得研究 認知意味論による意味分析を通して
(日本学術振興会助成刊行物)

松田文子 著

日本語教育において文法形式と語彙、両面の重要な要素である複合動詞。認知意味論の立場から、複合動詞「〜こむ」を事例としてその意味を記述し、語彙習得支援の方法論の開発に挑んだ研究。

A5判・256頁・978-4-89476-204-6
定価7350円(本体7000円)
発行2004.2 品切れ

▶シリーズ言語学と言語教育 2

統語構造を中心とした日本語とタイ語の対照研究
(日本学術振興会助成刊行物)

田中寛 著

日本語とタイ語のはじめての体系的な対照研究。著者の長年の日本語教育と外国語教育の実践から、多くの用例をもとに、日本語とタイ語の文法構造を明らかにする。豊富な用例はタイ語の参照文典としても必携。東南アジア言語研究者、日本語教育関係者にとって待望の成果である。巻末に詳細な文献目録、学習文献目録、米国・英国ロンドン大学英国博士論文目録を付す。

A5判・734頁・978-4-89476-205-3
定価19950円(本体19000円)
発行2004.2

▶シリーズ言語学と言語教育 3

日本語と韓国語の受身文の対照研究 (日本学術振興会助成刊行物)

許明子 著

日本語と韓国語の受身文の特徴を、従来の研究を踏まえつつ日常の言語生活を対象にした実践的アプローチにより考察する。韓国人日本語学習者にとって受身文の習得が難しい理由はなにかを考え教育現場への応用をはかる。

A5判・280頁・978-4-89476-206-0
定価6300円(本体6000円)
発行2004.2

▶シリーズ言語学と言語教育 4

言語教育の新展開 牧野成一教授古稀記念論集

鎌田修・筒井通雄・畑佐由紀子・
ナズキアン富美子・岡まゆみ編

牧野成一氏の古稀を祝って編まれた論文集。言語研究から言語教育研究までの論考をあつめる。21世紀初頭、新しい角度からの言語教育の展開を予測した論文集。執筆者 終助詞「よ」「ね」「よね」再考ー雑談コーパスに基づく考察 大曾美恵子/日英連体修飾節一考察ー統語的・意味的観点からみた「という」節に及んで ジョンソン由紀/連体修飾「N1のN2」の意味解釈ー格解釈の視点から 筒井通雄/補文標識としての「と」の意味機能再考 マグロイン花岡直美/会話導入文一話す声が聞こえる類似引用の表現性 泉子・K・メイナード/日本語の難易文をめぐって 井上和子/主語繰り上げ規則 久野暉/メンタルレキシコンー句語彙項目の視座 中田清一/アメリカにおける日本語教育の歴史と現状 三浦昭/文法を分かりやすく教えるために 浜野祥子/教えられることと教えられないこと 藤原雅憲/終助詞「よ」「ね」と日本語教育 ナズキアン富美子/メタファー指導が日本語教育にもたらすもの 岡まゆみ/ビデオを見せないビデオの授業 ハドソン遠藤陸子/大学生の知的レベルに合わせた日本語教育とそれを助けるテクノロジーの活用 富田英夫/日本語学習者のキーボード入力の誤りに関する研究と日本語入力プログラムの改善策 畑佐一味/外国語教育における文化の役割 當作靖彦/母語干渉判定基準ー五つの提案 坂本正/言語習得と訂正フィードバックの関係の考察 畑佐由紀子/OPIの意義と異議ー接触場面研究の必要性 鎌田修/ACTFL-OPIの妥当性と応用に関する先行研究のまとめ 渡辺素和子/文末表現「けど」のポライトネスーOPIから見た母語話者と学習者の使用状況 石川智/多言語・多文化共生時代の日本語教育ー共生言語としての日本語教育 岡崎眸/年少者日本語教育と母語保持ー日本語・母語相互育成学習における学習のデザイン 岡崎敏雄/ポルトガル語を母語とする国内小・中学生のバイリンガル会話力の習得 中島和子/二言語のはざまで育つ補習校の子どもたち 森美子

A5判・482頁・978-4-89476-224-4
定価8400円(本体8000円)
発行2005.1 品切れ(重版予約受付中)

▶シリーズ言語学と言語教育 5

窪田光男 著

A5判・232頁・978-4-89476-240-4
定価7350円(本体7000円)
発行2005.3 品切れ

第二言語習得とアイデンティティ

社会言語学的適切性習得のエスノグラフィー的ディスコース分析

アメリカの語学学校で英語の習得をめざす学習者たちが、母語のアイデンティティとは異なるアメリカ英語の社会言語学的適切性を取り入れる過程を、ディスコース分析とエスノグラフィーの手法を用いて考察。第二言語を習得する学習者の具体的な葛藤や選択の様子を記録、観察しており、多様な学習者像を実際の例から提示している。英語教育だけでなくすべての言語教育において有益な書。

平成17年度コミュニケーション学会奨励賞受賞

▶シリーズ言語学と言語教育 6

堀素子・津田早苗・大塚容子・村田泰美・重光由加・村田和代・大谷麻美 著

A5判・240頁・978-4-89476-266-4
定価6510円(本体6200円)
発行2006.2 在庫僅少

ポライトネスと英語教育

言語使用における対人関係の機能

〈日本学術振興会助成刊行物〉

ブラウンとレビンソンの研究以来、従来の敬意表現の枠をこえて、ポライトネスについて議論が盛んに行われている。本書ではそれらの理論をふまえて、実際の英会話・日本と外国の英語テキスト・海外での異文化体験などを「対人関係構築」の視点から分析し、日本人が英語で会話する際に役立つよう、理論的・実践的に工夫を凝らして述べてある。

平成18年度大学英語教育学会学術賞受賞

▶シリーズ言語学と言語教育 7

杉浦まそみ 著

A5判・978-4-89476-334-0
定価7770円(本体7400円)
発行2007.10 新刊

引用表現の習得研究

記号論的アプローチと機能的統語論に基づいて



新刊

コミュニケーションにおいて重要な言語行為である「引用」は様々な側面から明らかにされつつある。しかし、第二言語としての日本語における引用表現の習得過程はまだ十分に解明されていない。本書では、引用表現とは引用句に表される事象と、発言するという事象の2つの事象の統語的統合であるという観点に立ち、2つの事象がどのように捉えられ言語化され統合されていくか、自然習得者を対象に観察し、習得仮説を提示する。さらに、その仮説が教室習得者においても有効か、教室インストラクションによってどう影響を受けるか実証的に検討し、日本語教育への示唆を考える。

▶シリーズ言語学と言語教育 8

清田淳子 著

A5判・264頁・978-4-89476-328-9
定価8715円(本体8300円)
発行2007.2 新刊

母語を活用した内容重視の教科学習支援方法の構築に向けて

〈日本学術振興会助成刊行物〉



新刊

日常生活に必要な日本語は比較的短期間で習得できるものの、教科学習のための日本語習得は時間がかかるため、学習に困難を抱えてしまう「言語少数派の子どもたち(本書では、日本語を母語としない子どもたちをこう称す)」は少なくない。本書では、「母語を活用した内容重視のアプローチ」を提案。長期にわたる支援活動を通じて得た研究成果から、急務となっている言語少数派の子どもたちに対する教科学習支援の新たな方法の構築を目指す。

▶シリーズ言語学と言語教育 9

近藤彩 著

A5判・224頁・978-4-89476-300-5
定価7140円(本体6800円)
発行2007.9 新刊

日本人と外国人のビジネス・コミュニケーションに関する実証研究



新刊

日本経済の国際化や日本で就労する外国人が増加する中で、日本人と外国人のビジネスコミュニケーションの実態を明らかにすることが急務となっている。本書は、これまでほとんどあつかわれてこなかった日本語でのビジネス場面の研究を行っている。日本人と外国人が日本語を媒介語としてビジネスをするとき、どのような問題が起こっているのかを解明する実証的研究。

▶シリーズ言語学と言語教育 10

藤原雅憲・堀恵子・西村よしみ・才田いずみ・内山潤 編

A5判・406頁・978-4-89476-342-7
定価8400円(本体8000円)
発行2007.1 新刊

大学における日本語教育の構築と展開

大坪一夫教授古稀記念論文集



新刊

大学での日本語教育において、常に現場での実践を重視しつつ、最新の理論の教育への応用に尽力してきた大坪一夫氏の仕事は、60年代の転換期から現在までの日本語教育の軌を一にするものである。また、教師養成の分野でも、大学の専門課程としての日本語教育の確立にパイオニアとして大きな業績を上げている。本書は2006年2月に古稀を迎えた氏と、ゆかりのある研究者25名が寄稿して編まれた論文集である。藤原雅憲、西村よしみ、深尾百合子、松本哲洋、坂口和寛、加納千恵子、村上京子、大塚容子、市川保子、田中衛子、才田いずみ、堀恵子、母育新・アフメット・ギョルメズ、石綿由美子、鹿嶋彰、酒井たか子、小林典子、松崎寛、小河原義朗、シュテファン・カイザー、目黒秋子、高橋亜紀子・内山潤(論文掲載順)

▶シリーズ言語学と言語教育 11

原田哲男・村田久美子 編

A5判・978-4-89476-363-0

価格未定

近刊

「真の」コミュニケーション能力育成—その理論と実践

ヘンリー・ウィドウソンと日本の応用言語学・言語教育

 近刊

本書ではヘンリー・ウィドウソン氏の長年に亘る応用言語学・言語教育への貢献を、日本というコンテキストの中で論じる。10名の執筆者が自らの専門分野と氏の理論を関連付けつつ、日本の言語教育の実践と結びつけようと試みるもので、特にコミュニケーション能力育成とその可能性に焦点を当て、ウィドウソン氏の理論、主張と、読者の橋渡しの役目も果たしながら、日本の言語教育・応用言語学の発展に貢献しようとするものである。

▶シリーズ言語学と言語教育 12

金賢信 著

A5判・978-4-89476-360-9

定価9240円(本体8800円)

発行2008.2予定 近刊

異文化間コミュニケーションからみた韓国高等学校の日本語教育

〈日本学術振興会助成予定刊行物〉

 近刊

韓国は世界で日本語学習者数の最も多い国としてよく知られているが、かつて植民地期に国語として強要された日本語をどのような経緯で受け入れ、またどのような過程を経て現在に至ったのかについては、あまり知られていない。本書は韓国の社会的動向を背景として、高等学校における日本語教育の歴史を総合的にとりあげ、その問題点を明らかにした。特に、高校の日本語教科書の内容分析を通し、脱植民地後の支配イデオロギーが教科書の内容にどのように反映され、変遷してきたかを考察する。

▶シリーズ言語学と言語教育 13

加藤由香里 著

A5判・978-4-89476-358-6

定価9030円(本体8600円)

発行2008.2予定 近刊

日本語eラーニング教材設計モデルの基礎的研究

〈日本学術振興会助成予定刊行物〉

 近刊

近年のネットワーク技術の向上を背景に、様々な学習者のニーズに対応した日本語eラーニング教材開発の重要性が増しつつある。本研究では、学習目標に関わる抽象的なレベルから、eラーニングとして実現される学習活動までを「日本語教材設計モデル」として提案した。このモデルでは教授設計理論に基づき、学習目標の設定から、実施、評価までを1つのシステムとしてとらえ、個々の学習者に応じた教授の最適化を実現する条件を整理している。

▶シリーズ言語学と言語教育 14

金孝卿 著

A5判・978-4-89476-362-3

定価6510円(本体6200円)

発行2008.2予定 近刊

第二言語としての日本語教室における「ピア内省」活動の研究

〈日本学術振興会助成予定刊行物〉

 近刊

「ピア内省」活動とは、日本語使用の体験が終わった後、その体験について学習者仲間(peer)と対話することによって、協働的に双方の内省促進を図る教室活動である。本書では、まず、学習者の内省の質の向上をどのように評価すれば良いかに関して具体的な観点を示した。次に、学習者の言語学習に対する内省力をつける上で、他者との協働的な対話活動が、彼らの内なる自己との対話をどのように促進しうるかを示し、通常は一人作業になりがちな内省活動に「ピア内省」を組み込んだ具体的な活動デザインを提案した。

▶シリーズ言語学と言語教育 15

横山紀子 著

A5判・978-4-89476-357-9

定価7035円(本体6700円)

発行2008.2予定 近刊

非母語話者日本語教師再教育における聴解指導に関する実証的研究

〈日本学術振興会助成予定刊行物〉

 近刊

非母語話者日本語教師を対象とした再教育研修において、聴解技能に焦点を当てて、その成果を検証する。言語学習は言語知識の獲得のみならず、学習ストラテジーの習得であるという視点から、筆者は、聴解ストラテジーを積極的に導入した聴解指導を行い、彼ら自身の聴解学習経験を通して、教師としての言語指導観を内省し、変容させていく過程を調査した。結果、自身の聴解技能の伸長が教師としての聴解指導観に影響を与えたことを聴解指導教案等の分析から明らかにする。

▶シリーズ言語学と言語教育 16

森山新 著

A5判・978-4-89476-383-8

予価7140円(本体6800円)

近刊

認知言語学から見た日本語格助詞の意味構造と習得

 近刊

本書は日本語の研究者であり教師でもある著者が、最近注目を集める認知言語学の観点を生かして日本語の格助詞の意味構造を明らかにしたのち、様々な実験的手法や先行研究を駆使してその妥当性を示している。さらにコーパスなどのデータを用い、第二言語としての日本語の習得過程を解明し、意味構造と言語習得との関係について述べ、その成果をもとに日本語などの外国語教育に対して具体的提言を行ったものである。

牧野由香里 著 A5判・978-4-89476-385-2 価格未定 近刊	「議論」のデザイン メッセージとメディアをつなぐカリキュラム  近刊 議論という活動は、どのように学びを促すことが可能なのか。教育することが可能なのだろうか。本書は、誰も答えようとしなかったこの難問に対してもっとも全面的に徹底的に議論した研究である。教育学という土壌の中で、果敢に実際の処方箋を提案している。陪審員制度も2009年に導入されることが決まっている中、もっとも重要な臨床的議論学といえよう。
大島弥生・大場理恵子・岩田夏穂 編 A5判・978-4-89476-386-9 価格未定 近刊	大学での日本語表現能力育成授業のデザインを考える (仮)  近刊 協働と統合の発想を活かしたアイデア集 近年、大学では、留学生のみならず日本語母語話者の学生にも、日本語を読み、書き、聞き、話す技能を養成する授業が広まり、手法の模索が続いている。本書では、「正しい言語知識を教える」というスタイルを脱し、表現産出のプロセスを重視して授業をデザインした各種の実践をまとめた。とくに、参加者が学びあう協働的アプローチ、ことばの学習をキャリア教育などの多様な目的と結びつける統合的アプローチにもとづいた授業デザインを紹介している。
佐治圭三 著 A5判・328頁・978-4-938669-13-3 定価3675円 (本体3500円) 発行1992.10 品切れ	外国人が間違えやすい日本語の表現の研究 中国での日本語教育の長年の指導の経験に基づき、外国人が日本語を学ぶ際に重要なことを分かりやすく述べる。これから日本語を教える人には、どのような質問が寄せられ、それらにどういった答えを返したらよいか、また、自分でもよく解らない場合にはどのようにして解明していったら良いかなど、日本語の研究と教育の例を示している書。
工藤真由美 著 A5判・216頁・978-4-89476-112-4 定価4095円 (本体3900円) 発行1999.5	児童生徒に対する日本語教育のための基本語彙調査 外国人児童生徒が、小中学校で教育を受けるにあたってはじめてに学習すべき基本的な語彙は何か。計画的な学習に不可欠な基本語彙の設定を目指して行われた調査の報告書。児童生徒の日本語学習環境整備のための、まずは出発点となる基礎資料である。
田尻英三・田中宏・吉野正・山西優二・山田泉 著 四六判・212頁・978-4-89476-375-3 定価2100円 (本体2000円) 発行2007.10 新刊	外国人の定住と日本語教育 [増補版]  新刊 2003年の日本語教育学会春季大会のシンポジウムを出発点とし、日本語教育と外国人の定住に関わる問題を取りあげた論考集。在日外国人の教育問題や定住権利、多文化主義における子どもの言語の発達など、論点は多岐にわたる。外国人の定住についてかわるジャンルの専門家による、現実には起きている問題を解決するための提案の数々。2007年現在の新たな情況、文献、及び、Webサイトを加え、増補版とした。
遠藤織枝・黄慶法 編 A5判・978-4-89476-380-7 定価5040円 (本体4800円) 発行2007.10 新刊	中国人学生の綴った戦時中日本語日記  新刊 2002年中国福建省廈門市の図書館で発見された日本語の日記は、昭和14年に中国人・李徳明(仮名)によって書かれたものであった。日記の日本語とその背景を調査・分析することで当時の日本語教育を探る。また、存命していた李本人へのインタビューから、日本による侵略、国共内戦、文革と激動の時代を生きた1人の中国人の姿が浮き彫りにされる。
春原憲一郎 編 A5判・978-4-89476-387-6 価格未定 近刊	移動労働者とその家族のための言語政策 (仮)  近刊 「生活者のための日本語教育」 少子高齢化による労働力不足を補うため、外国人労働者の受け入れが進められつつある。これまで日本語教育は、もっとも先鋭的な現場のひとつとしてこの問題に対峙してきた。本書は、2007年3月に行われたシンポジウムでの研究発表および討論をもとに、ドイツ・韓国・オーストラリアにおける移民に対する言語政策を参照しつつ、現在、そしてこれから日本で生活する外国人のための言語政策・日本語教育のあり方を模索するものである。シンポジウム後に行った座談会では、「多文化主義」「多言語主義」とは何かを根本から問い直す。執筆者：足立祐子、松岡洋子、塩原良和、井上洋、野山広、春原憲一郎

成長する教師のための日本語教育ガイドブック (上)

川口義一・横溝紳一郎 著

A5判・301頁・3刷・978-4-89476-251-0
定価2940円(本体2800円)
発行2005.5

多岐にわたる日本語教育分野の研究を概観し、そのポイントをわかりやすくまとめた初めてのガイドブック。これからの日本語教師がより高い実践能力を獲得するために必要な知識を多数紹介するとともに、教室活動におけるスキルとノウハウの共有をめざしている。本文は対話形式で進められており、楽しみながら日本語教育のこれまでとこれからを知ることができる。【目次】序、「教える」って何だろう? 1.日本語教師について考えよう/A.ピリフスと教育哲学 B.日本語教師の資質について C.教師の自己成長の方法 2.日本語の授業に臨む前に/A.教科書分析 B.教案作成 C.授業観察 3.日本語の授業の実際/A.スピーキングの指導 B.リスニングの指導 C.ライティングの指導 D.リーディングの指導 E.4技能の統合

成長する教師のための日本語教育ガイドブック (下)

川口義一・横溝紳一郎 著

A5判・335頁・3刷・978-4-89476-252-7
定価2940円(本体2800円)
発行2005.5

【目次】1.日本語の授業の実際/A.発音指導 B.導入と文法説明 2.日本語を教えるための教材/教具/教育機器って何だろう? 3.教室内のインターアクション/A.学習者のバラエティ B.ティーチャー・トーク/指示/問いかけ C.教師のフィードバック D.クラスルーム運営 4.日本語の授業の後で/A.授業直後のフィードバック・セッションでの話し方・聞き方 B.報告書の書き方 5.日本語教師についてももう一度考えよう

OPIの考え方に基づいた日本語教授法 話す能力を高めるために

山内博之 著

A5判・190頁・978-4-89476-253-4
定価2310円(本体2200円)
発行2005.6 在庫僅少

「月刊日本語」(アルク)での連載に補足・改稿を加えたもの。言語運用能力のテスト方法であるOPI(Oral Proficiency Interview)を言語教育の教授法として生かし、授業評価を実践するツールとするためのスキルと理論を展開。言語教育に新たな視点を見いだす。

プロフィシェンシーから見た日本語教育文法(仮)

 近刊

山内博之 著

A5判・978-4-89476-388-3
価格未定
近刊

いわゆる日本語学的な文法についてではなく、日本語教育の現場で活かすための文法について述べる。学習者の言語能力からの視点、つまり、プロフィシェンシーからの視点で文法を眺めるといのが、本書の考え方である。具体的には、(1)文法の難易度を考えること、(2)言語活動から文法を眺めること、(3)理解のための文法と使用のための文法を区別すること、の3点を主張し、日本語教育の現場で活かすための文法について考えていく。

対人関係構築のためのコミュニケーション入門

日本語教師のために

徳井厚子・榎本智子 著

A5判・200頁・978-4-89476-281-7
定価1890円(本体1800円)
発行2006.4

本書は、コミュニケーション全体の中で「自己」「対人関係」コミュニケーションという根本的な2つの局面に焦点をあててコミュニケーションを考える際に基本的なことをすべて解説。コミュニケーションに関わる職業、たとえば日本語教師の方に有益、一般常識ともいえるものであり、実生活にも役に立つ内容となっている。理論を概説するだけではなく、ワークショップ向けの具体的な実践課題も付す。

目指せ、日本語教師力アップ! (仮) OPIでいきいき日本語授業

 近刊

嶋田和子 著

A5判・280頁・978-4-89476-389-0
予価2520円(本体2400円)
近刊

日本語教師に必要な「教師力」ってなんだろう? 長年日本語教育、教師養成に携わってきた著者が、さまざまな経験、そしてOPIとの出会いを通してたどり着いた理論とノウハウを惜しみなく公開します。日本語教師という職業の無限の可能性を感じられる1冊。イーストウエスト日本語学校が独自に開発したCan-do方式による「会話レベル表(各国語版)」付き。

アカデミック・ジャパニーズの挑戦

門倉正美・筒井洋一・三宅和子 編

A5判・207頁・978-4-89476-275-6
定価2520円(本体2400円)
発行2006.6

アカデミック・ジャパニーズ(大学で学ぶために必要な日本語力)という近年の大学日本語教育のコンセプトは、現代社会におけることばの教育のあり方として、留学生への日本語教育の領域を越える豊かな可能性をもっている。本書では、その可能性を「市民の日本語」へと展開していくための問題提起を行うとともに、具体的な教育実践(カリキュラムと教授法)を提案する。単に、日本語教育関係者だけにアピールするものを目指すのではなく、国語教育、英語教育、スタディ・スキルズ教育といった関連領域に関心のある読者、さらにはグローバル社会を生きる市民として必要な日本語力のあり方について考えている人にも意義のある内容を目指す。

オーストラリアの日本語教育と日本の対オーストラリア日本語普及 その「政策」の戦間期における動向

嶋津拓著

A5判・364頁・978-4-89476-221-3
定価3780円(本体3600円)
発行2004.7

戦前オーストラリアでは日本語教育ブームがあった。今まで語られなかったオーストラリアでの日本語教育の歴史を明らかにする。重要でありながら、従来はあまり取り扱われなかった地域ごとの日本語教育研究の先駆けとも呼ぶべき新しい研究。

ことばと文化をめぐる 外から見た日本語発見記 〈恵泉女学園大学助成〉

中田清一・秋元美晴編

A5判・160頁・978-4-89476-289-3
定価1890円(本体1800円)
発行2006.3

日本語を母語としない人が、外から日本語を見たとき、文化がことばにどのように反映されているのか、特に日本の文化が色濃く現れると考えられることわざや慣用表現、授受表現などについて、外国人の目からみた考察を紹介する。また逆に、日本語を母語とする人が外国語を見た場合、どのように見えるのか、日本語と英語の慣用表現やフレーズなどの比較対照を行いながら、ことばと文化の関係性や日本語の特性について明らかにする。なお本書は、2004年11月に恵泉女学園大学で行われたシンポジウム「日本のことばとことば-外から視座」に基づいている。

ピア・ラーニング入門 創造的な学びのデザインのために

 新刊

池田玲子・舘岡洋子著

A5判・168頁・978-4-89476-288-6
定価2520円(本体2400円)
発行2007.5 新刊

ピアとは仲間、同僚(peer)という意味の言葉。ピア・ラーニングとは、近年、いろいろなところで耳にするようになっている「協働」の理念に基づく学習である。本書では、まず、理論編として、地域や学校などさまざまな分野で具現化された協働の形を紹介したうえで、日本語教育における協働のありかたをさぐる。実践編として、ピア・レスポンスおよびピア・リーディングの具体的な学習活動の例について紹介、解説し、その意義について検討する。

多民族社会の言語政治学

英語をモノにしたシンガポール人のゆらぐアイデンティティ

奥村みさ・郭俊海・江田優子ベギー著

A5判・180頁・978-4-89476-284-8
定価2310円(本体2200円)
発行2006.11

最近、日本では早期英語教育が叫ばれる一方で、シンガポールが英語中心のバイリンガル教育先進国であることはほとんど知られていない。英語教育はシンガポールを、独立わずか40年で日本に次ぐアジア第2位のGDPを誇る地位へと押し上げた。しかし、この華やかな経済的成功の影でバイリンガル政策による文化的アイデンティティの葛藤も顕在化してきた。本書は、シンガポールを事例として、多民族社会の中での言語と文化的アイデンティティの問題を追求する。言語とアイデンティティの問題を考える際の基本的なテキストといえよう。また将来の日本における英語教育と文化的アイデンティティの行方を探る際にも参考書として格好な1冊である。

文化間を移動する子どもとともに 教育コミュニティの創造に向けて 未刊

齋藤ひろみ・佐藤郡衛編

A5判・978-4-89476-343-2
予価2520円(本体2400円)
未刊

いわゆるニューカマーと呼ばれる子どもたちへの教育は、当初の学校適応・日本語指導を経て、新たな取り組みが始まっている。学校現場における教科学習を保障するための授業実践や母語・母文化教育、地域における親子の日本語教室、教育行政と学校による高校入試制度の見直しなどである。これらの実践や支援活動の経過と成果を分析し、文化間を移動する子どもたちの教育の課題を再設定するとともに、その解決に向けて教育実践の方向性と枠組みを探る。

新訂版 聞いておぼえる関西(大阪)弁入門

真田信治監修

岡本牧子・氏原庸子著

B5判・168頁・978-4-89476-296-1
定価2940円(本体2800円)
発行2006.12

関西(大阪)弁を聞いて理解するための聴解教材。初中級程度の日本語文法をマスターした日本語学習者を対象にしているが、関西(大阪)弁に興味のある日本人にも役に立つ。20のUNITで構成され、各UNITは4コマ漫画、聴解問題、文法ノートからなる。文法ノートでは共通語との違いについて、形、使い方などの面から詳しく解説。また、コラムで関西弁の特徴などにも触れている。1998年にアルクより出版され、好評を博したものの新訂版で、旧版で別売だった音声カセットテープをCDにして付している。★CD付

外国人日本語教師のために

国際交流基金日本語国際センターは、17年にわたり、世界約90カ国、6500人にのぼる海外の日本語教師を招聘し、研修を行ってきた。本シリーズは、その経験に基づく教え方の集大成となる日本語教授法教材である。同センターでは、海外の限られた条件のもとで日本語を教え、かつ自身の日本語運用力を維持し続ける必要がある非母語話者日本語教師は、自律的な教師であることが重要である、という考えに基づき、新しい理論や知識を提供するだけでなく、教師が自らの教え方を客観的に振り返り、新しい知識やほかの教師の考え方を柔軟に吸収し、さらに研修後も自らの力で学び続けていくことを重視している。これは、日本語教育が多様化する国内の教育現場でも必須の条件となりつつあるもので、当シリーズ全体を貫く基本的な考え方でもある。執筆は、研修に実際に指導にあたってきた教師が担当。日本語教授法のほぼ全般にわたる範囲を網羅した内容で、単元ごとに小冊子に分け、価格も安価。非母語話者日本語教師のみならず、日本語教育に携わって間もない教師、広く国内外の日本語教育関係者にとっても役立つシリーズである。

最新の刊行状況は、http://www.hituzi.co.jp/nihongo_kyojuho/kikin_schedule.html をご覧ください。

▶国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第1巻

日本語教師の役割 / コースデザイン

久保田美子 著

B5判・76頁・978-4-89476-301-2

定価609円(本体580円)

発行2006.9

日本語教師の役割は何か。どこまで知っていれば教えられるのか。現職の教師であってもそうした疑問や迷いをもつことがある。この教材では、まず自分自身の日本語教師としての仕事を振り返り、母語話者・非母語話者それぞれの立場で教師の役割を考え直す。さらに教師として理解しておくべきことをいわゆるコースデザインという広い枠で捉えなおし、学習者の特性、教師の特性、シラバス、教授法、教材教具などについて考察する。

▶国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第2巻

音声を教える [CD付]

 近刊

磯村一弘 著

B5判・978-4-89476-302-9

近刊

「学習者の発音を直したいけれど、どのように直せばいいかわからない」という教師は多い。この教材では、日本語の音声について理論を説明するだけでなく、学習者にとって何が問題で、それをどう練習すればいいかという実践面を重視している。母音と子音、拍とリズム、アクセントとイントネーションについて、これまで現場で行われてきた様々な指導法をふまえつつ、非母語話者教師でも発音が教えられよう、客観的でわかりやすい練習方法を紹介する。

▶国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第3巻

文字・語彙を教える

 未刊

木田真理・篠崎摂子 著

B5判・978-4-89476-303-6

未刊

とかく単語になりがちな文字や語彙の学習を、楽しく継続的に取り組めるようにするにはどうしたらよいか、認知・記憶・動機づけの面から考える。導入や練習におけるさまざまな工夫、段階的に指導する方法など、日本語教師が教育現場で必要な情報をわかりやすく提示するとともに、世界の日本語教師の具体的な取り組み(活動例・教材例)も豊富に紹介する。そして、それぞれの活動の目的、実践する際の組み立て方や注意点をタスク形式で考える。

▶国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第4巻

文法を教える

 近刊

小玉安恵・木田真理 著

B5判・978-4-89476-304-3

近刊

文法とは何か、そして、文法は、実際のコミュニケーションにおいてどのような役割を果たすのだろうか。この教材では、コミュニケーションに役立つ文法という観点から、従来提示されてきた文法のルールを見直した上で、ネイティブの文法使用の感覚やイメージを伝えられるような文法提示の方法を考える。また、文法ルールを、実際の場面でも使い分けることができるようになるための練習方法についても考える。

▶国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第5巻

聞くことを教える

 近刊

横山紀子 著

B5判・978-4-89476-305-0

近刊

聞くことは、コミュニケーション活動の中心でありながら、海外の日本語学習者の弱点である。この教材では、聴解を単なるメッセージの理解行為ではなく、言語習得の源泉であると捉え、自然なインプットの少ない海外の教育現場で聴解指導について工夫すべきことを考える。「何を聞きとったか」をチェックするだけでなく、「どのように聞くか」を支援することを重視し、「モニターする」「予測する」「推測する」などのストラテジーを積極的に導入した教え方を紹介。実際の教室活動の体験とふり返しを通して、授業設計について理解を深めていく。

▶国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第6巻

話すことを教える

 新刊

木田真理・小玉安恵・長坂水晶 著

B5判・104頁・978-4-89476-306-7

定価840円(本体800円)

発行2007.1 新刊

日本語に触れる機会が少ない学習者の話す力をいかに伸ばすかを考える教材。話すプロセスやコミュニケーション能力など会話能力に関連する理論と、実際の教室活動とを結びつけて整理し、学習者主体の活動を追求する。インタビュー、ディスカッション、ロールプレイ、スピーチなどを例に、それぞれの特徴を整理した上で、初級から超級までの各レベルに応じて、普段の授業に活動を無理なく取り入れる方法を考える。

▶国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第7巻

読むことを教える

阿部洋子・木谷直之・築島史恵 著

B5判・88頁・978-4-89476-307-4

定価735円(本体700円)

発行2006.6

私たちは、ふだん文章を理解するのに、言語知識だけでなく一般的知識を使ったり、読む目的によって読み方を変えたりと、さまざまな工夫をしながら読んでいる。この教材では、まず、こうした読みの過程を理論的に概観する。そして、この過程をふまえた指導法を具体例で紹介し、初級から中級レベルまで、いずれの段階の学習者でも読む目的に応じて多様な読み方ができるようにする活動や、それを取り入れた授業の進め方について考えていく。

▶国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第8巻

書くことを教える

🌐 未刊

築島史恵 著

B5判・978-4-89476-308-1

未刊

授業の中に「書く」活動を取り入れることは時間的な制約から難しい場合が多い。しかし、従来行われてきた文型練習の一環としての作業や、与えられたテーマについて書く作文だけでなく、学習者がより積極的に「書く」活動を検討することで、「書く」意義を見直してほしい。「書く」学習に忘れられがちなコミュニケーションの一環としての言語活動を取り入れ、意味のある文や文章を書く機会を増やす必要性とその具体的な活動例を扱う。

▶国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第9巻

初級を教える

🌐 新刊

阿部洋子・中村雅子 著

B5判・88頁・978-4-89476-309-8

定価735円(本体700円)

発行2007.3 新刊

初級クラスがいつも同じ教え方になっていないだろうか。自分なりに工夫しているつもりでも、文法の説明ばかり、あるいは楽しい活動を増やすことばかり考えてはいないだろうか。この教材では、初級の学習者に身につけさせたい能力とは何かを考え、その能力を育てる授業実践のために、目標の設定、学習項目の分析、授業の組み立てなど、ポイントを1つ1つ丁寧に見直していき、各自の教育現場への応用を具体的に考える。

▶国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第10巻

中・上級を教える

🌐 未刊

木谷直之・久保田美子 著

B5判・978-4-89476-310-4

未刊

中級レベル、上級レベルとはどのようなレベルなのか。この教材では、多様化する学習者のニーズを考慮して中級・上級レベルではどのような能力を育成すれば良いのかを考える。その上で、複数の技能を組み合わせる現実的な運用に結びつける方法を検討する。さらに国内外のさまざまな教授環境のもとで、どのようなリソース(人・もの・場所)が実際に活用できるのかという点を重視し、具体的な教室活動の作り方や授業全体の流れを実例とともに考える。

▶国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第11巻

日本事情・日本文化を教える

🌐 未刊

坪山由美子・築島史恵 著

B5判・978-4-89476-311-1

未刊

日本語教育において日本文化・日本事情を扱うことはどのような意味を持つのだろうか。それは、学習者が置かれている環境、社会、日本語学習目的、設定された到達目標などによって多様である。この教材では、それぞれの事情をふまえた上で日本語教育の中に日本文化・日本事情をどのように取り込んでいけるのか、具体的な事例を通して考え、言語と文化を結びつけた教授活動と、そのための効果的なリソース利用を検討する。

▶国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第12巻

学習を評価する

🌐 未刊

大隅敦子・押尾和美・横山紀子 著

B5判・978-4-89476-312-8

未刊

評価は、教師と学習者が学習成果を共有し、今後の方向性を考えるための材料である。また、学習の動機にも大きな影響を及ぼす。この教材では、目的に応じたテストの作り方、テスト結果の分析やフィードバックのしかたなど、評価に関する基本的な理論や方法を実践例とともに解説する。知識を測るだけでなく、技能や運用を評価する方法(インタビュー・テスト、ポートフォリオ評価、Can-Do-Statementsなど)も積極的に紹介する。

▶国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第13巻

教え方を改善する

🌐 未刊

中村雅子・阿部洋子 著

B5判・978-4-89476-313-5

未刊

教師なら誰もが「学習者の日本語力が思うように伸びない」「もっと上手に教えられるようになった」という問題に出会うだろう。この教材では、教師が自分自身の授業の進め方や指導技術を見直し、工夫することによって、これらの問題の多くは解決できると考える。教案の分析や授業観察など具体的な解決方法の実例を学びながら、ふだん気づかない自分の教え方の特徴を確認し、そこから改善したい点とその改善方法を考え出し、実行に移す能力を身につけることを目標とする。

▶国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第14巻

教材開発

🌐 未刊

島田徳子・柴原智代 著

B5判・978-4-89476-314-2

未刊

ある架空の教材開発プロジェクトメンバーの一員として、作成過程で直面する問題を解決しながら、教材開発を進める上で必要な基礎知識と方法論を学ぶ。教材開発過程を、「分析」「設計」「開発」「評価」「改訂」といった段階に分け、それぞれの段階に必要な知識と方法論を紹介する。教材を作りたいと思っている人の情熱とアイデアを形にするための1冊!

多分野を横断する言語研究

社会言語科学会の5周年を記念して企画され、スタートした講座。社会言語科学という分野は、学際的であり、横断的な性質を持っている。様々な学問において言語は重要なテーマとなっているにもかかわらず、これまで共有するフィールドがなかった、あるいは研究の交流がほとんどなかったと言ってよいだろう。研究の世界では、社会言語科学会を先導役として相互的に研究が行われはじめている。日本語学、日本語教育、英語学、英語教育、心理学、教育学、文化人類学、社会学、エスノメソドロジー、情報処理、インターフェース研究、認知科学、談話分析、方言研究などなどの広い分野にわたる研究の成果を学際的、網羅的、先端的な研究を紹介、共有化するために作られた講座。現在、6巻の内4巻まで刊行済み。学部生の卒業論文の指導などにも有益。

▶講座社会言語科学 1

井出祥子・平賀正子編

A5判・292頁・978-4-89476-245-9

定価3360円(本体3200円)

発行2005.10

講座社会言語科学 第1巻 異文化とコミュニケーション

グローバル化が進む現代において、多文化社会を維持しつつ共生へと導くにはどうすればいいのか?本巻では、新しい異文化コミュニケーション学の構築を提言し、共生の道を探る。異文化コミュニケーションに関する多様なトピックを言語研究に基づいて実証的に研究した14論文を収録。執筆者:異文化コミュニケーション学 井出祥子/通訳における異文化コミュニケーション学 鳥飼吹美子/ビジネスにおける異文化間コミュニケーション 近藤彩/日英語バイリンガルの子供たちの言語習得 岩田祐子/ジェンダーシステム 林礼子/ロボットとヒトは理解しあえるか 小嶋秀樹/空間認知とコミュニケーション 井上京子/ジェスチャーにおける認知と文化 喜多壮太郎 ジェームス エセグベイ/*骨をこわす vs. break the bone 藤井洋子/親族名称と呼称から見る人間関係 薛鳴/スモールトークとあいさつ 井出里咲子/何を「心地よい」と感じるか 重光由加/何をうそと感じるか 西村史子/ニューヨーク・タイムズ紙に見る日本 ジェーン H. ヒル

▶講座社会言語科学 2

橋元良明編

A5判・978-4-89476-246-6

定価3360円(本体3200円)

発行2005.5

講座社会言語科学 第2巻 メディア

本巻では、「社会言語科学」を広い意味での「コミュニケーション」として捉え、狭義の言語、あるいは文体等の問題だけでなく、ノンバーバル・コミュニケーションや対人関係まで含めた広義のコミュニケーションについての論考を集めた。言語は関係を紡ぐ媒体、「貨幣」であり、「社会言語科学」は、結局のところ、人間関係の構造を明らかにする学問に他ならないからである。執筆者:インターネットと英語帝国主義 西垣通/漢字コード問題 笹原宏之/情報化と若者の言語行動 井上史雄/メール文体とそれを支えるもの 佐竹秀雄/携帯メールのコミュニケーション内容と若者の孤独恐怖 中村功/エモティコンの世界 中丸茂/メディアと表現様式の変化 原田悦子/携帯電話と若者の対人関係 三宅和子/インターネット・パラドックスの真偽 橋元良明/つながるイメージ共同体 遠藤薫/個人的フィーリングを表現する非言語コミュニケーションのインタラクティブな可視化 土佐尚子/携帯の将来 野島久雄/情報ネットワークと日本社会 木村忠正

▶講座社会言語科学 3

大坊郁夫・永瀬治郎編

A5判・978-4-89476-247-3

定価3360円(本体3200円)

未刊

講座社会言語科学 第3巻 関係とコミュニケーション

 未刊

執筆者:言語学的アプローチ 岡本能里子/非言語学的アプローチ 大坊郁夫/ボライトネス 岡本真一郎/説得、真実と欺瞞 瀧本誓/同調傾向 中村敏枝/発言権の構造 高梨克也・森本郁代/ダイナミックな対人関係 吉田俊和・小川一美/コミュニケーションと集団 永瀬治郎/文化を映すメッセージ 長谷川典子/関係のコミュニケーションの展開 《対談》野村雅一・大坊郁夫・永瀬治郎

▶講座社会言語科学 4

西原鈴子・西郡仁朗編

A5判・978-4-89476-248-0

定価3360円(本体3200円)

近刊

講座社会言語科学 第4巻 教育

 近刊

執筆者:応用言語学—学習する側の視点から 西原鈴子/これからの英語教育 阿知波真知子/これからの国語教育 吉岡泰夫・朝日祥之/これからの日本語教育 石井恵理子/第二言語習得論の現在 畑佐由紀子/カテゴリー的知覚の壁を乗り越えるために 西郡仁朗/「目の働き」と読解 鈴木美加/相互作用と学習 宇佐美まゆみ/教師の資質・成長過程と、その支援方法 横溝紳一郎/言語能力の評価 根岸雅史/言語政策と言語計画と国語政策 柳澤好昭/バイリンガル教育と社会 ダニエル・ロング

▶講座社会言語科学 5

片桐恭弘・片岡邦好編

A5判・272頁・978-4-89476-249-7
定価3360円(本体3200円)
発行2005.3

講座社会言語科学 第5巻 社会・行動システム

本巻では、「社会」と「行動」を「(こころ) 行動-(ことば) 社会」という双方向の連鎖のなかで、「こころ」と「ことば」に対して表裏一体の関係をなす対象と捉える。本書は「社会」と「行動」に関するさまざまな切り口が異なる問題意識を喚起するため、読者の興味・関心に応じて、どこから読み始めても良い。その結果、異なるセクションの中に、共通する問題意識をはらむ章があることに気づかれるだろう。執筆者 言語イデオロギーとディスコース研究 松本啓子／言語におけるジェンダー・イデオロギー 阿部圭子／社会と指標の言語 小山亘／ことばとパワー 佐藤彰／パワーと言語変異 高野照司／供述の背後にある体験への接近 森直久／言語病理学における談話分析の応用と将来 渡辺義和／患者中心の医療への転換 佐伯晴子・野呂幾久子／ことばの進化 正高信男／生物言語学が証すLANGUAGE 増田博邦／語句の配置と行為の連鎖 西阪仰／コミュニケーション行動における規範と共有 片桐恭弘／活動空間の言語的描写と探索について 片岡邦好／発話と身振りの協調に見られる談話における時空的隣接/連続性 古山宣洋

▶講座社会言語科学 6

伝康晴・田中ゆかり編

A5判・244頁・978-4-89476-250-3
定価3360円(本体3200円)
発行2006.8

講座社会言語科学 第6巻 方法

執筆者：インタビューによる言語調査法 日高水穂／対話プロセスとしてのインタビュー 山田富秋／方言研究法—構造から変異へ 小林隆／「新規登場事象」をとらえたい—探索的調査法による多人数調査 田中ゆかり／仮説検証の研究—言語的集団間バイアスを実例として 岡隆／会話を対象とする仮説検証型実験の手法 榎本美香／自然な場面を設定してことばを収集する方法 白勢彩子／フィールドにおける会話データの収録と分析 木村大治／幼児の発話資料の収録方法とその意義 白井純子／会話データの構築法—収録と書き起こし 小磯花絵／会話分析の方法と論理—談話データの「質的」分析における妥当性と信頼性 串田秀也／談話データの定量的分析—タグの設計と集計 伝康晴

ソシュールの言語学を超えて
文を問い直す

ついに2007年中に完結！

従来の言語学を核とする言語研究の中では単語や文というのが、疑問の余地のない前提となっていた。ソシュールを始めとする近代的な言語学、チョムスキーなどの生成文法でも、文というのは前提となっていたといつてよい。それに対し、実際の発話の現場の中では、簡単に前提化するのは困難であるといえる。抽象度のレベルの違いということだけではなく、視点が異なっているといふべきであろう。実際の発話は、文が完結しないことも少なくないし、話し始めてから言い終わるまでの間に、方向が変わってしまうということもしばしばだ。そんな現象に正面から取り組み、根本から文と発話を捉えかえそうというのが本シリーズ。これまでの文というものの捉え方を根本から考えることで、言語研究自体をも革新したいというのが密かな野望。言語を捉え返すことにより、社会学、認知科学、情報処理、哲学、文学研究などにも新鮮な衝撃を与えるものとなる。新しい研究方法に取り組んでいる優れた研究者を結集し、本シリーズは刊行を進めていく。21世紀の言語研究の基礎となるシリーズ。

▶シリーズ 文と発話 第1巻

串田秀也・定延利之・伝康晴編

A5判・320頁・978-4-89476-255-8

定価3360円(本体3200円)

発行2005.10

「活動」としての文と発話

文は話し手の意図を伝達する道具であり、文の構造は伝達に適した形に組み立てられるという考えは根強い。しかし、文法的な適格文は伝達にとってしばしば冗長であるし、実際の発話には伝達とは別の理由で存在すると思われる言語要素が含まれている。文や発話がさまざまな社会的活動の有用な道具であることは疑い得ないが、それらの活動を伝達概念によって集約することは実際の言語使用を見誤らせる可能性がある。文や発話が「伝達のための道具である」という前提を疑ったときにどんな現象が視野に入るか、また逆に伝達という活動にとって文や発話の構造がいかなる働きをするのか、これらのことを考えた論文を収録する。執筆者：林誠「文」内におけるインターアクション—日本語助詞の相互行為上の役割をめぐって／串田秀也 参加の道具としての文—オーヴァラップ発話の再生と継続／西阪仰 複数の発話順番にまたがる文の構築—ブラクティクスとしての文法II／北野浩章 自然談話に見られる逸脱的な文の構築—試行的提示のための形式「・・・と言うか」「・・・ですか」など／細馬宏通 修復をとらえなおす—参照枠の修復における発話とジェスチャーの個体内・個体間相互作用／ポリ・ザトラウスキー 情報処理、相互作用、談話構造からみた倒置と非言語行動との関係／定延利之・中川明子 非流ちょう性への言語学的アプローチ—発音の延伸、とぎれを中心に／富樫純一 驚きを伝えるということ—感動詞「あつ」と「わっ」の分析を通して／林博司・水口志乃扶・小川曉夫 項の「文的」解釈と「発話的」解釈—呼びかけ詞の対照言語学的考察

▶シリーズ 文と発話 第2巻

串田秀也・定延利之・伝康晴編

A5判・978-4-89476-256-5

定価3360円(本体3200円)

発行2007.12 近刊

「単位」としての文と発話



従来の文研究においては、文は完結性を持った単位として扱われる。文の内部の構造は、文が位置づけられた談話文脈や会話文脈に言及しなくても解明できると考えられている。しかし、一部の文の内部構造はこのような前提のもとでは解明できない。また、話しこばや会話において自然に作り出され聞き取られている単位は、従来の文概念を基準にした場合「文末満」であるものから「文以上」であるものまで多様な広がりを持っている。これらの現象を理解しようとするとき、従来の文概念はどこまで有効なのか、文に代わるどのような単位を設定することができるのか、これらのことを考えた論文を収録する。執筆予定者：沖裕子 談話は文によって構成されるか—談話実現単位における同時結束の観点から／小磯花絵 対話における文(発話)とは何なのか—独話との比較を通じて／白川博之 言いさしについて／高木智世 幼児の発話構築とターン・テイキング／森本郁代 会話における「文」の共同構築—文から発話、そして会話へ／森山卓郎 相手発話のエコー的取り込み—「か」「ね」「ねえ」を中心に／金田純平 述語直前は特別な位置である—無助詞から見た項と述語の連続・断続について／岩崎志真子 会話における発話単位の構築と聞き手の関わり

▶シリーズ 文と発話 第3巻

串田秀也・定延利之・伝康晴編

A5判・288頁・978-4-89476-257-2

定価3360円(本体3200円)

発行2007.5 新刊

時間の中の文と発話



従来の文研究においては、文が時間の流れの中で産出されるという視点が弱い(文頭発話時と文末発話時の時間差がないかのように分析される)。実際には、書き言葉であれモノログであれ会話であれ、文は時間の経過の中で産出される。文頭発話時の「意図」や「計画」が文末発話時までに変化するという保証はないし、会話においてはそのあいだに聞き手からのさまざまな反応が介在する。文や発話が、時間の流れの中で産出されることによって一音一音、一語一語開示されていく「進行性」を持つことを直視した場合、従来の文研究にはどのような限界があるか、従来の文研究で捉えきれないどんな現象が視野に入るか、これらのことを考えた論文を収録する。執筆者：野田尚史 時間の経過から生まれる破格文／丸山岳彦 デスネ考／高梨克也・丸山岳彦 自発的な話し言葉に見られる挿入構造と線状化問題／伝康晴 発話冒頭付近での語句の繰り返しの機能／岩崎勝一・大野剛「即時文」・「否即時文」—言語学の方法論と既成概念／高梨克也 進行中の文に対する聞き手の漸進的文予測のメカニズムの解明／榎本美香 発話末要素の認知と相互作用上の位置づけ／坊農真弓・片桐恭弘 対面会話における発話と視線のモニター機能と調整機能

▶言語学翻訳叢書 1

バーナード・コムリー 著
松本克己・山本秀樹 訳

A5判・300頁・3刷・978-4-89476-136-0
定価3675円(本体3500円)
発行2001.3

言語普遍性と言語類型論 統語論と形態論

様々な言語から言語の普遍性と類型論を追究した名著の翻訳。色々なタイプの言語を考察していくことから深められた考察は、日本語を考える際にも有益である。原著第二版の翻訳。原著: Language Universals and Linguistic Typology: Syntax and Morphology. Oxford: Basil Blackwell

▶言語学翻訳叢書 2

ヤコブ・メイ 著
澤田治美・高司正夫 訳著

A5判・380頁・978-4-938669-75-1
定価4074円(本体3880円)
発行1996.11 在庫僅少

ことばは世界とどうかかわるか 語用論入門

Journal of Pragmatics 誌などのシリーズエディターを勤めている著者の語用論。ユーモアと含蓄に富んだ記述は、話芸といえよう。言語研究のみならず、人文学全般にも関係のある議論である。初めに基本概念をのべ、続いてマイクロ語用論、マクロ語用論へと展開する三部構成。原著: Jacob L. Mey. Pragmatics: An Introduction. 1993. Oxford: Blackwell

▶言語学翻訳叢書 3

ダイアン・ブレイクモア 著
武内道子・山崎英一 訳

A5判・310頁・978-4-938669-23-2
定価3159円(本体3009円)
発行1994.2 在庫僅少

ひとは発話をどう理解するか 関連性理論入門

文化人類学者スベルベルと言語学者ウィルソンによって開発された、人間の認知上の一般原理に基づく伝達理論としての関連性理論の正確にして克明な入門書。発話解釈が言語知識を広げて、言語的意味だけではなく、話し手の伝達しようとし、意図した意味にたどり着くプロセスを体系的に説明。とりわけ、言語形式の意味がコンテキストといかに相互作用するか、すなわち、発話解釈にいかなる制約を課すかということを追求している。さらに、アイロニーやメタファーなど文彩的発話も日常の会話を律している原理でいかに統一的に説明されるかを例証。原著: Diane Blakemore, Understanding Utterances: An Introduction to Pragmatics. 1992. Oxford: Blackwell

▶言語学翻訳叢書 5

ダニエル・ヴァンダーヴェーケン 著
久保進監訳

A5判・330頁・978-4-938669-85-0
定価5250円(本体5000円)
発行1997.11

意味と発話行為

言語哲学者サルトルとも共同研究を行っているヴァンダーヴェーケンによる発話行為理論の決定版。今回の訳者とも共同の研究を行っており、翻訳に成果が生かされている。原書は、Foundations of Illocutionary Logic (『発話内論理の基礎』1985, Cambridge) を発展させた、可能な自然言語のための一般成功・真理条件形式意味論の書。原著: Daniel Vanderveken. Meaning and Speech Acts, Volume 1. 1990 Cambridge University Press.

▶言語学翻訳叢書 8

M.A.K. ハリディ ルカイヤ・ハサン 著
安藤貞雄 他訳

A5判・487頁・978-4-938669-90-4
定価6300円(本体6000円)
発行1997.11

テキストはどのように構成されるか 言語の結束性

ことばは次々とつながっていくことで文章や談話になっていく。文の研究から文章の研究へ向かいつつある今後の言語研究にとって必須な結束性 (cohesion) の基本的文献。原著: M.A.K. Halliday and Ruqia Hasan, Cohesion in English. 1976.

▶言語学翻訳叢書 9

アンドレ・マルティネ 著
神山孝夫 訳

A5判・384頁・978-4-89476-195-7
定価3990円(本体3800円)
発行2003.4

「印欧人」のことば誌 比較言語学概説

20世紀を代表する大言語学者マルティネによる印欧語比較言語学概説書。言語学と、歴史学・考古学・文化人類学・宗教学の成果を有機的に関連させ、最新の成果が著者独特のタッチで綴られる。後半では著者が長年温めた印欧祖語についての大胆な構想が展開される。原著: André Martinet. Des steppes aux océans: L'indo-européen et les Indo-Européens, 1986, Payot; 1994², Payot & Rivages.

アントワヌ・メイエ 著
松本明子 編訳

A5判・148頁・978-4-89476-291-6
定価2940円(本体2800円)
発行2007.5 新刊

いかにして言語は変わるか アントワヌ・メイエ文化論集



歴史言語学で、ひとつの潮流となっている文化化。その文化化研究の祖といわれるのが、フランスの言語学者アントワヌ・メイエである。本書は、文化化理論を学ぶときには、必ず引用されるようなメイエの論文を邦訳した初めてのものである。目次: 1. 「文法形態の発達」 2. 「接統詞の更新」 3. 「いかにして単語は意味を変えるか」 4. 「動詞 avoir の発達」 5. 「Être et avoir — Il est vache および J'ai très faim の文型について」

▶ HOLDS NO.1

Japanese Syntactic Structure and Their Constructional Meanings

久保美織 著

MIT で取得した学位論文にわずかに誤植を訂正した公刊。日本語の基本句構造を考える上で必読の研究書。「は」と「が」、状態・動作動詞の構造的相違とそれに伴う格の表出、使役構文、そして従属節、名詞句の構造に至るまで、多彩な分析が展開されている。生成文法の観点から意味と構造の関係に取り込んだ力作。

A5 判上製・254 頁・978-4-938669-35-5

定価 12600 円 (本体 12000 円)

発行 1994.11

A5 判並製・254 頁・978-4-938669-36-2

定価 4200 円 (本体 4000 円)

発行 1994.11

▶ HOLDS NO. 2

Syntax and Semantics of *Wh*-quantifier Interactions

吉田恵以子 著

コーネル大学で取得した学位論文の大幅な改訂版。

A5 判上製・194 頁・978-4-938669-49-2

定価 12600 円 (本体 12000 円)

発行 1995.5

A5 判並製・194 頁・978-4-938669-48-5

定価 4078 円 (本体 3884 円)

発行 1995.5

▶ HOLDS NO. 3

Syntactic Projections of Semantics of Aspect

William Tsuyoshi McClure 著

コーネル大学へ提出された学位論文の公刊。

A5 判・373 頁・978-4-938669-60-7

定価 4200 円 (本体 4000 円)

発行 1995.11

▶ HOLDS NO.4

A Theory of Lexical Functors Light Heads in the Lexicon and the Syntax

鈴木猛 著

Hale & Keyser (1993, 1994) と Dechaine (1996) による l-syntax モデルを前進させるもの。lexicon と syntax の関係の包括的な理論を提示するものである (英語)。

A5 判・368 頁・978-4-89476-106-3

定価 4620 円 (本体 4400 円)

発行 1999.2

▶ HOLDS NO. 5

Phrase Structure in Minimalist Syntax

小泉政利 著

1995 年に MIT に提出・受理された学位論文を、整え直したものである。Minimalist Program の枠組みで書かれている (英語)。

A5 判・368 頁・978-4-89476-111-7

定価 3675 円 (本体 3500 円)

発行 1999.4

▶ HOLDS NO.6

ROOTS in Language Acquisition

佐野哲也 著

1995 年に UCLA に提出・受理された学位論文に誤植などのわずかな訂正を加えたもの。日本語の動詞屈折の獲得を西欧語と比較し、否定形・連用形・「て」形の 1-2 歳児の獲得データに生成文法における理論的な説明を与えている。

菊判・168 頁・978-4-89476-153-7

定価 2100 円 (本体 2000 円)

発行 2002.3

▶ HOLDS NO.7

Unaccusativity in Second Language Japanese and English

〈日本学術振興会助成刊行物〉

平川真規子 著

(日英語における非対格性に関する第二言語知識) 日英語における自動詞構文の第二言語習得の過程を生成文法の枠組みから探究し、それに関わる生得的資質や母語の及ぼす影響などを検討した。言語産出データや文法性判断テストなどの結果を用いて綿密な分析を行い、学習者は自動詞を二分する知識をもつが、特に非対格自動詞の習得が困難であること、それは言語間の異なる統語構造に要因があることを明らかにする。

菊判・356 頁・978-4-89476-182-7

定価 6720 円 (本体 6400 円)

発行 2003.2

A PARAMETORIC APPROACH TO CASE ALTERNATION PHENOMENA IN JAPANESE

森川正博 著

GB 理論に基づき、日本語の格の問題を取り扱った研究。新しい知見にとむ、ワシントン大学の学位論文の大幅な改訂版 (英語)。

A5 判・253 頁・978-4-938669-21-8
定価 6116 円 (本体 5825 円)
発行 1993.12

Studies in Endangered Languages

Papers from the International Symposium on Endangered Languages, Tokyo, November, 18–20, 1995

松村一登 編

1995 年 11 月に東京大学で開催された、ICHEL (危機言語クリアリングハウス) 主催の「危機言語」国際シンポジウムにおける報告をまとめた論文集。危機言語、少数言語に関する 12 論文を収録 (英語)。A collection of papers by the participants of the International Symposium on Endangered Languages, November 1995, organized by ICHL (International Clearing House for Endangered Languages) at the University of Tokyo. Contributors: Willem F.H. Adelaar (Netherlands), E. Annamalai (India), Knut Bergsland (Norway), David Bradley (Australia), Matthias Brenzinger (Germany), Michael Krauss (USA), Vida Yu. Mikhalechenko (Russia), Osami Okuda (Japan), Suwilai Premasiri (Thailand), Harumi Sawai (Japan), Stephen A. Wurm (Australia), Akira Y. Yamamoto (USA).

A5 判・266 頁・978-4-938669-97-3
定価 5250 円 (本体 5000 円)
発行 1998.5

The Pragmatics of Negation Its Functions in Narrative

山田政通 著

著者自身がインタビューした談話資料による否定研究。語用論・談話分析の視点から否定の機能を分析、従来の統語論・意味論的否定研究を補完。

A5 判・448 頁・978-4-89476-189-6
定価 5040 円 (本体 4800 円)
発行 2003.3

The Dative and Related Phenomena

松村一登・林徹 編

The Dative and Related Phenomena is a collection of papers dealing with syntactic phenomena in various languages which in one way or other are associated with the DATIVE. The linguistic forms and constructions under discussion are the “applicative” in Tembo (Bantu) and Australian Aboriginal languages, the “genitive” in Turkish, the “adessive” in Estonian, the “dative” in Telugu and German, and the “indirect object” in French. The collection also includes two papers (B. Comrie, T. Ooe) which are not directly related to the general topic.

A5 判・310 頁・978-4-938669-82-9
定価 5250 円 (本体 5000 円)
発行 1997.6

The Syntax of FOCUS and WH–Questions in Japanese

A Cross–Linguistic Perspective (日本学術振興会助成刊行物)

柳田優子 著

日本語の古代語における語順の制約について指摘した最も早い論考。
目次：1. Introduction 2. Focus Projection 3. Clitic Q–Movement 4. Case/Focus Particles and Clause Structure Change: Evidence From Early Old Japanese 5. Focus Movement and Semantic Interpretation

A5 判・200 頁・978-4-89476-239-8
定価 11550 円 (本体 11000 円)
発行 2005.2

Corpus Studies on Japanese Kanji

玉岡賀津雄 編

ドイツの計量言語学の学術誌 Glottometrics の特集号「漢字のコーパス研究」(第 10 号)である。近年、漢字をめぐるコーパスやデータベースが充実し、使用頻度を利用した解析が可能となった。本書は、漢字をめぐる特徴の紹介と解析、軽動詞付加を決めるアスペクトなど分析研究を掲載した。また、新たな連想語などのコーパスやデータベースの構築、日本の計量国語学の創始者である水谷静夫先生の研究成果も掲載した。

菊判・112 頁・978-4-89476-270-1
定価 3570 円 (本体 3400 円)
発行 2005.12

学術英文出版の困難を超える

あえて英語で言語研究を刊行するシリーズ。ジャンルは英語学ではなく、日本語や英語、その他の言語をも対象とする。日本の言語研究は世界第一線のものといっていようだが、言語の壁のため世界的に広まることが少ない。また、残念なことに日本国内では、日本人が英語で書いた研究書に対する市場は極度に小さいというのが現状である。自分の著書を英語で出版したいという研究者が多いのに比して、英語の研究書を購入してくれていない。学術出版としては危機的な状況である。読者層が存立することが学術出版の存在基盤であるはず。

本シリーズは、様々な危機を乗り越え、英語の学術書を継続的に出版することを目標としている。打開策として、優れた内容を厳選して刊行すること、海外でも流通を可能にすること、英語の研究書の編集水準を上げることをはかりたい。大津由紀雄先生の還暦記念論文集の刊行（2008年春）までに、課題をクリアする。しかし、大学図書館の予算削減などのために苦境だという。これらの困難を打開するためにも本シリーズをご支援下さることを切に希望する。せめて、日本の大学図書館の100館に収書されなければ、挑戦することは困難である。実際の数字は webcat で検索すれば、歴然である。ご覧になられたい。

▶ Hituzi Linguistics in English 1

加野まきみ 著

菊判・280頁・978-4-89476-268-8
定価8400円（本体8000円）
発行2006.2

Lexical Borrowing and its Impact on English 〈日本学術振興会助成刊行物〉

英語に借用された日本語・ドイツ語が、どのようにして英語の語彙体系の中に取り込まれていくのか、また、語彙を借用することによって本来の語彙体系はどのような影響を受けるのかというメカニズムを考察。各言語からの借用語数の増減を追うことに終始することなく、借用される語彙と借用する語彙体系両方のダイナミックな変化をコーパスを用いて解き明かす。

▶ Hituzi Linguistics in English 2

東泉裕子 著

菊判・296頁・978-4-89476-269-5
定価13440円（本体12800円）
発行2006.2

From a Subordinate Clause to an Independent Clause

A History of English *because*-clause and Japanese *kara*-clause 〈日本学術振興会助成刊行物〉

最近、注目されている文法化（grammaticalization）の理論に基づき、日英語の理由節を通時的、共時的に分析し、節接続の傾向（非従属節から接続節へ）と意味の主観化を検討する。

▶ Hituzi Linguistics in English 3

野村忠央 著

菊判・416頁・978-4-89476-267-1
定価15750円（本体15000円）
発行2006.2

ModalP and Subjunctive Present 〈日本学術振興会助成刊行物〉

法助動詞を主要部とするModalP（法助動詞句）の指定を提案し、それが英語統語論において経験的に最低限必要な統語範疇であることを示す。前半は法助動詞句仮説の提案、法助動詞とnotとの作用域、不定詞節の構造などを扱い、後半は仮定法現在に関わる諸問題（仮定法現在節の構造、補文標識、代用のshould、時制、VP 削除、「have・be+not」語順など）を広く論ずる。

▶ Hituzi Linguistics in English 4

永田高志 著

菊判・360頁・978-4-89476-271-8
定価14700円（本体14000円）
発行2006.4

A Historical Study of Referent Honorifics in Japanese 〈近畿大学出版助成〉

日本語の敬語を概観すると、最も大きな変化は絶対敬語から相対敬語への移行であるとするのが一般的な意見であるが、これまでその過程、時期については明らかにされてこなかった。本書は、その過程を明らかにしたものである。日本語の敬語をどの言語にも存在する待遇表現の一面と捉え、日本語の複雑な待遇表現を、社会言語学の視点から、海外の日文学研究者や言語学者に紹介するために、和泉書院から出版した『第三者待遇表現史の研究』を英訳し、さらに日本語の敬語について概説を加筆したものである。

This book examines the history of honorific expression in the Japanese language, focusing on referent-oriented honorifics. This is the first Japanese book to investigate the shift of honorifics from the viewpoint of sociolinguistics. This book targeted the following people as potential readers of the book: scholars interested in Japanese literature and linguists who are interested in honorifics or polite expression in general.

▶ Hituzi Linguistics in English 5

坂本勉 編

菊判・404頁・978-4-89476-329-6
定価12600円（本体12000円）
発行2007.2 新刊

Communicating Skills of Intention 〈日本学術振興会助成刊行物〉



人間社会の円滑な進展の基盤となる「意図伝達スキル」に関しては、言語学、精神医学、福祉工学など、多岐にわたる研究分野の知見を統合する学際的な解明が望まれる。本書は2006年2月に開催された国際シンポジウム「意図の伝達スキル（Communicating Skills of Intention）」にて発表された26本の研究論文集。人間の「脳」に基盤を置くさまざまな認知活動を統括する「メタ認知」という概念に基づいた意図伝達スキルの解明に加え、コミュニケーション障害のリハビリの可能性も示唆されている。

▶ Hituzi Linguistics in English 6

鈴木利彦 著

菊判・324頁・978-4-89476-330-2
定価10290円(本体9800円)
発行2007.2 新刊

A Pragmatic Approach to the Generation and Gender Gap in Japanese Politeness Strategies (日本学術振興会助成刊行物)

 新刊

現代日本語ポライトネスにおける世代間・性別間のストラテジーの違いを、従来の敬語使用の分析を含めて語用論的な観点から考察。本書では、LeechのPoliteness Principle (1983)を改訂・発展させた理論の枠組み(2001, 2003)を用い、「言語／命題に関する尺度＝丁寧さ」と「状況における適切さに関する尺度＝適切さ」の2つの尺度を使って論じている。発展研究の章では、音声データの分析を通じて、文字に置き換えられた言葉と音韻要素を含む音声データの印象の違いについて考察している。★CD-ROM付

▶ Hituzi Linguistics in English 7

宮崎幸江 著

菊判・202頁・978-4-89476-331-9
定価12600円(本体12000円)
発行2007.2 新刊

Japanese Women's Listening Behavior in Face-to-face Conversation
The Use of Reactive Tokens and Nods (日本学術振興会助成刊行物)

 新刊

日本語の「聞き手の行動」には日本語特有の行動パターンがある。本書は、対面会話におけるリアクティブトークン(あいづち他)と非言語行動(うなずき)に注目した。女性の「聞き手の行動」を、社会言語学的手法に基づき非言語行動を含めて分析し、複数のコンテキスト(スタイル、年齢、親疎)におけるバリエーションの一般化を試みた初めての書。

▶ Hituzi Linguistics in English 8

佐野哲也・遠藤美香・磯部美和・大滝宏一・杉崎鉦司・鈴木猛 編

菊判・978-4-89476-378-4
価格未定
近刊

An Enterprise in the Cognitive Science of Language
A Festschrift for Yukio Otsu

 近刊

本書は、慶應義塾大学教授、大津由紀雄氏の2008年2月の還暦を祝し、氏と交友の深い研究者や教え子たち49名が寄稿して編まれた記念論文集である。各論文の内容は統語論・形態論・音韻論・第一言語獲得・第二言語獲得・言語処理など多岐にわたり、Stephen Crain, Nina Hyams, Thomas Roeper, William Snyderら海外からの寄稿も含まれる。どの論文も、氏が追求してきた「言語の研究を通してヒトのこころの認知機構を解明する」という目標に挑む意欲作であり、言語の認知科学の魅力にあふれた1冊となっている。

▶ Hituzi Linguistics in English 9

時崎久夫 著

菊判・240頁・978-4-89476-395-1
定価9870円(本体9400円)
近刊

Syntactic Structure and Silence
 近刊

生成文法で近年注目される統語論と音韻論のインターフェイスを、構成素境界の音韻境界への写像とその削除として考察。音韻変化の生起を説明し、韻律構成素・厳密階層仮説を解体、簡潔な韻律理論を提示する。日英語・その他の言語を例に、発話速度から構成素の長さ、統語移動、情報の新旧、認知、話題・焦点、談話構造、文生成・文解析まで、広範囲にわたる現象を解き明かす。統語論・音韻論のみならず、機能主義、認知言語学、語用論、言語心理学、言語工学に関心のある方すべてに読んでいただきたい、言語の本質に迫る一冊。

▶ Hituzi Linguistics Workshop Series 1

中村捷 編

A5判・369頁・978-4-938669-34-8
定価4200円(本体4000円)
発行1994.10

Current Topics in English and Japanese

東北大学で、1994年夏に開かれたセミナーの内容をまとめた論集。英語学の中堅層から、当時、MITで学位論文を執筆中の執筆者をも含む、最新の研究成果。Contributor: Nobuko Hasegawa, Yoshiaki Kaneko, Fusa Katada, Akira Kikuchi, Masatoshi Koizumi, Ken-ichi Mihara, Masaru Nakamura, Hiromu Sakai, Tatsuya Suzuki, Yuji Takano, Koichi Takezawa, Naoto Tomisawa, Hiroyuki Uta, Akira Watanabe

▶ Hituzi Linguistics Workshop Series 2

高見健一 編

A5判・225頁・978-4-938669-56-0
定価4305円(本体4100円)
発行1995.11

日英語の右方移動構文 その構造と機能

日本語や英語の文において、基本語順から語句が右方に移動する現象が存在する。生成文法や機能的統語論、談話分析の枠組でこの右方移動現象をどうとらえるのか。日英語のさまざまなタイプの右方移動構文を取り上げ、その構造と機能を明らかにする。日本英語学会11回大会でのワークショップをもとに編集。執筆者:中島平三、田子内健介、鈴木右文、平田一郎、桑原和生、奥野忠徳、高見健一、藤井洋子、Seiji Naito

▶ Hituzi Linguistics Workshop Series 3

つくば言語文化フォーラム 編

A5判・319頁・978-4-938669-57-7
定価4410円(本体4200円)
発行1995.11

「も」の言語学

日本語の「も」と類似した言語現象について様々な言語の研究者による共同討議をふまえた論文集。執筆者:沼田善子(現代日本語)、森野崇(古代日本語)、レー・バン・クー(ベトナム語)、フランス・ドルヌ(フランス語)、ダニエラ・カルヤヌ(ルーマニア語)、アンドレイ・ベケシュ(スロヴェニア語)

▶ Hituzi Linguistics Workshop Series 4

原口庄輔・船城道雄 編

A5判・135頁・978-4-938669-58-4
定価3364円(本体3204円)
発行1995.11

Minimalism and Linguistic Theory

ミニマリスト理論に関する95年次の論考を集めたもの。Contributors: Howard Lasnik, Jun Abe, Yoshio Endo, Robyne Tiedeman, Shigeo Tonoike

▶ Hituzi Linguistics Workshop Series 5

つくば言語文化フォーラム 編

A5判・310頁・978-4-89476-145-2
定価3990円(本体3800円)
発行2001.10

「た」の言語学

日本語の「た」と類似した言語現象について、様々な言語の研究者の共同討議をふまえた論考。執筆者:「た」の言語学について(青木三郎)ロシア語の『体』の研究史(三谷恵子)中国語の了について(楊凱榮)現代日本語の「タ」(井上優)古典日本語の完了形をめぐる研究動向(橋本修)韓国語の「タ」(安平鎬)ベトナム語の完了形(レー・バン・クー)

〈テキストレベルのめやす〉

より専門的 ↑ ↓ より入門的	日本語	英語	言語一般・言語教育	表現法・スタディスキル
	ガイドブック方言研究 ガイドブック方言調査* 日本語の音 これからの語彙論*	問題を通して学ぶ 生成文法* 入門 生成言語理論 変化する英語	言語学	さらに進んだスピーチ・プレゼン のための日本語発音練習帳* アカデミックプレゼンテーション 入門
	日本語要説 日本語の文法	ベーシック英語史 Linguistics Meaning and the English Verb	ベーシック日本語教育 ことばのエクササイズ	論文の書き方・研究の進め方 マニュアル*
	ここからはじまる日本語学 ここからはじまる日本語文法 ここからはじまる文章・談話*	ファンダメンタル英語学 ファンダメンタル英文法 ファンダメンタル英語史 ファンダメンタル音声学	ここからはじまる日本語教育 探検！ ことばの世界	ピアで学ぶ大学生の 日本語表現 広げる知の世界
	学びのエクササイズ 日本語文法*		ことばの冒険 対話編* 学びのエクササイズ ことばの科学 学びのエクササイズ 認知言語学 学びのエクササイズ 社会言語学*	日本語を書くトレーニング 日本語を話すトレーニング

*がついているものは近刊書籍

ひつじ書房は、主に言語学と言語教育の大学生向け教科書を刊行しており、その他、日本文学に関するものなども刊行している。定評ある〈ここからはじまる〉シリーズの他、昨年より、〈学びのエクササイズ〉シリーズをスタートさせ、本年から〈ベーシック〉シリーズをスタート。〈学びのエクササイズ〉シリーズは、半期制と教養課程解体後の大学のカリキュラムに対応し、学問の階段を登っていくというスタンスではなく、大学生が学部時代に学ぶひとつのテーマとしての学びを起すこと（学びそのものを学ぼうという姿勢を持てるようにすること）を意図したもの。120 ページを基準とし、半期の授業で充分終了できる分量に抑えるとともに、面白いテーマを選び、そのテーマに自然と興味を持てるように考慮。21 世紀の学生に対応しようと試みているということとともに、そのジャンルの内容を概観するには非常に便利なものでもある。〈ベーシック〉シリーズは、学問の階段を登っていく際の階段の最初の一步をねらっている。簡便でありつつ、そのテーマであれば、この1冊で最低限の基礎、骨組みを理解できるように配慮。これだけ学べば、最低限の基礎的な知識が得られるように工夫をこらした。新しい時代の概説書である。

▶テキスト(日本語学)

伊坂淳一 著

A5判・182頁・12刷・978-4-938669-73-7
定価1680円(本体1600円)
発行1997.1

ここからはじまる日本語学

現代人が間違え易い、あるいは移り変わりつつある現在の生きた言葉づかいを出発点に、日本語を考えるとはどういうことなのかということと日本語のしくみを考えていく。日本語のしくみを教養として学ぶことができるように十二分に配慮して執筆された新しいテキスト。半期制に対応。

▶テキスト(日本語学)

仁田義雄 著

A5判・337頁・14刷・978-4-938669-18-8
定価1995円(本体1900円)
発行1993.5

日本語要説

日本語のしくみを広いフィールドから知る教科書。執筆者:仁田義雄(現代語の文法・文法論)、鈴木泰(古代語の文法・文法史)、村木新次郎(現代語の語彙・語彙論)、小林賢次(古代語の語彙・語彙史)、土岐哲(現代語の音声・音韻論)、林史典(古代語の音韻・音韻史/文字・表記)、真田信治(社会言語学・方言学)、畠弘巳(文章・談話)、山梨正明(認知言語学)、田中穂積(言語情報処理)、工藤浩(日本語学史)

▶テキスト(日本語学)

天野みどり 著

A5判・978-4-89476-394-4
価格未定
近刊

学びのエクササイズ 日本語文法



普段、話をしたり、きいたりという中でふと?を感じるようなことばのトピックを取り出して、日本語の仕組みに気付くことへ導く。英語は論理的で日本語は非論理的なのだろうか。身近な気付きから、少し深いところへ学生を招待する教科書。言語系の学生ばかりではなく、人文系にとどまらず、さまざまなジャンルの学生にも、ことばの面白さに興味を持ってもらい、日本語を考えるきっかけを与えることを意図する新しい教科書。

▶テキスト(日本語学)

森山卓郎 著

A5判・264頁・7刷・978-4-89476-174-2
定価1890円(本体1800円)
発行2000.3

ここからはじまる日本語文法

文法の新しい局面を迎えている時代に即した日本語の文法のテキスト。日常的なことばから、文法を考えていく。必須な文法事項が一通り触れられている。豊富で、最新の文献リストは、卒論の課題を見つけるときにも便利。

▶テキスト(日本語学)

高橋太郎・金子尚一・金田章宏・
齋美智子・鈴木泰・須田淳一・
松本泰丈 著

A5判・320頁・2刷・978-4-89476-244-2
定価2520円(本体2400円)
発行2005.4

日本語の文法

包括的な日本語文法のテキスト。教材として高く評価されているのみならず、参加している著者の文法理論がコンパクトに凝縮されて、わかりやすく内容の濃いものとなっている。私家版の段階から書評にのるなど好評を博しており、中国や韓国などではすでに何種か翻訳が出版されている。ていねいな記述と、さまざまなジャンルから引用された魅力的な用例によって、日本語文法の全体像を学ぶことが出来る。

▶テキスト(日本語学)

城田俊 著

A5判・280頁・3刷・978-4-89476-158-2
定価2205円(本体2100円)
発行1995.10

日本語の音 テキスト版

本書は、日本語の共通語のオトを、単音、音節、音素、弁別要素の水準において、論理の飛躍なく、一步一步精密に記述したものである。

▶テキスト(日本語学)

高崎みどり・立川和美著

A5判・978-4-89476-345-6
予価2520円(本体2400円)
近刊

ここからはじまる文章・談話



近刊

もっとも新しい文章・談話についてのテキストブック。【目次】新しいコミュニケーションツールのことばについての分析／広告の分析—ネット広告を材料に—／相談談話の分析／日常会話の分析／小説の文体分析—1・2／小説の文体分析／新聞記事の分析／随筆の分析／古典文学作品の分析／狂言の分析／ほか

▶テキスト(日本語学・言語学)

斎藤倫明・石井正彦編

A5判・978-4-89476-283-1
価格未定
近刊

これからの語彙論



近刊

編者らによる語彙論の基礎とこれまでの成果の概説をふまえ、フェミニズム、認知言語学、日本語教育、民俗学、情報学などの立場からの語彙研究を紹介していく新しい概説書。語彙研究の今後の可能性を展望する。執筆予定者：小野正弘、影浦峯、笹原宏之、佐竹久仁子、佐竹秀雄、定延利之、鈴木智美、高崎みどり、田野村忠温、町博光、屋名池誠、由本陽子

▶テキスト(日本語学)

小林隆・篠崎晃一編

A5判・248頁・2刷・978-4-89476-183-4
定価1890円(本体1800円)
発行2003.2

ガイドブック方言研究

最近の方言研究の成果をふまえた方言学のテキスト。方言のしくみを扱った章を中心に、「テーマの設定」「調査の方法」「分析の方法」「参考文献」といった具体的な研究の手順を示した方言研究の入門書。

▶テキスト(日本語学)

小林隆・篠崎晃一編

A5判・978-4-89476-280-0
予価1890円(本体1800円)
近刊

ガイドブック方言調査



近刊

読者が調査の流れに沿って内容を理解できるように、計画の立案から実施、終了に至る各段階に応じて解説。方言調査のための具体的な技法をマニュアル化したはじめての手引き書。録音の仕方からお礼状の書き方まで。この1冊あればどんな初心者でも調査ができる。

▶テキスト(英語学)

中島平三著

A5判・146頁・11刷・978-4-938669-55-3
定価1260円(本体1200円)
発行1995.9

ファンダメンタル英語学

簡潔にして要を得た英語学のテキストの決定版。本書は、英語学研究の基盤となる基礎知識や、思考法、研究方法など英語学研究のエッセンスを、なるべく時流に流されない形でしかもコンパクトに提供しようとするもの。英語学の中核をなす統語論、形態論、音韻論、意味論の基礎を日本語で平明、簡潔かつ丁寧に提示する。

▶テキスト(英語学)

瀬田幸人著

A5判・180頁・5刷・978-4-938669-86-7
定価1680円(本体1600円)
発行1997.6

ファンダメンタル英文法

本書は、この例文はこういう意味だ、というような形で実例を網羅的に収集することを意図したものではなく、様々な実例の背後にあると思われる規則性について考えてもらうことを意図したものである。覚える英文法ではなくて、考える英文法を目指した文法書。

▶テキスト(言語学)

阿部潤著

A5判・978-4-89476-390-6
価格未定
近刊

問題を通して学ぶ 生成文法



近刊

生成文法は、人間の言語に内在する文法を解き明かすツールである。このツールは、チョムスキーが創案して以来、様々な言語事象について、新たな視点を提供してきた。研究を押し進め、矛盾に出会い、新たな解決法を探し当てるといふことの繰り返しであった。本書は、様々な問題を通し、生成文法の基本的概念や考え方について学ぶ。

▶テキスト(言語学)

入門 生成言語理論

田中伸一・阿部潤・大室剛志 著

生成言語理論についての2000年時における入門書。目次: 第1章 生成音韻論—その目標、方法論、事例研究— 第2章 ミニマリスト・プログラム—最新の生成統語理論の動向— 第3章 概念意味論—基本的なメカニズムと事例研究—

A5判・208頁・978-4-89476-124-7
定価2940円(本体2800円)
発行2000.3

▶テキスト(英語学)

ファンダメンタル音声学

 新刊

今井邦彦 著

「読者に良い発音を身につけてもらうこと」を最大の目的として編まれた最新の英語音声学教本。個々の音だけでなく、コミュニケーションに重要な働きをする文強勢やイントネーションについて必要な知識をわかりやすく説き、その知識を、CDを使って練習し、実際に活用できるよう工夫してある。イギリス英語についてはロンドン大学音声学科・国際音声学会(IPA)の双方から英語発音技能第一級証明書を授与された著者自身、アメリカ英語については信頼すべきネイティブ・スピーカーが音声吹き込みを担当している。★CD-ROM付

A5判・240頁・978-4-89476-279-4
定価2520円(本体2400円)
発行2007.5 新刊

▶テキスト(英語学)

ファンダメンタル英語史

児馬修 著

「現代英語をより深く理解するため」という観点から書かれた英語史の入門書。この1500年間の英語文法の仕組みが、どのように(How)、なぜ(Why)変化したかという問題をも取り扱い、言語変化のメカニズムに関する様々な言語学的アプローチを試みる。

A5判・140頁・6刷・978-4-938669-74-4
定価1575円(本体1500円)
発行1996.11

▶テキスト(英語学)

ベーシック英語史

 新刊

家入葉子 著

ことばが変わっていく不思議さに焦点をあてることにより、英語史に関心を持って学べるように工夫された教科書。言語学以外のジャンルに進む学生にも面白くかつ的確にまとめられた入門的な教科書。「詳細な記述よりも、英語の発達のストーリーを楽しんでいただいてもよい。」

A5判・138頁・978-4-89476-349-4
定価1680円(本体1600円)
発行2007.3 新刊

▶テキスト(英語学)

変化する英語

中尾俊夫 著

変化することは、ことばの普遍の特徴である。21世紀に英語はどのように変化するのだろうか。実際の言語データを丹念に収集し、ことばの変化を引き起こす要因を探る。英語の方向性を使用人口・特徴も含めて描く。

児馬修・寺島勉子 編

A5判・224頁・978-4-89476-188-9
定価1680円(本体1600円)
発行2003.7

▶Hituzi's Linguistics Textbook Series 1

Meaning and the English Verb

Geoffrey N. Leech 著

英語の動詞や助動詞の微妙な意味の違いを教えてくれる意味論の名著のテキスト版。英語の真髄を学ぶのに最適である。注釈は研究課題を含んでおり、レポートのテーマを見つけるのにも便利である。原著はsecond edition。

澤田治美 注釈

A5判・253頁・6刷・978-4-938669-26-3
定価2447円(本体2330円)
発行1994.3

▶Hituzi's Linguistics Textbook Series 2

Linguistics

Jean Aitchison 著

定評あるJean Aitchisonの著書のひつじ版リプリント。的確で目配りの利いた、そして過不足のない本書は言語学・英語学のテキストとして優れたものである。原著はfourth edition。

安藤貞雄 注釈

A5判・250頁・7刷・978-4-938669-37-9
定価2447円(本体2330円)
発行1994.12

▶テキスト(言語学)	学びのエクササイズ ことばの科学  新刊
加藤重広 著 A5判・148頁・978-4-89476-336-4 定価1260(本体1200円) 発行2007.3 新刊	ことばに関心のある人なら知っておきたいことや考え方、言語学というしかつめらしい学問に入門する前に気づいておくべき現実やその問題点を扱っている。ことばで表現する苦しみと楽しさ、ことばに抱く幻想、ことばの始まり、人間であることとことばの能力、方言と標準語、社会の中のことば、減びゆくことばの現実、ことばの変化と歴史、発音と文字の不思議、伝わらない思いとことば、ことばについての誤解など、興味ある15のテーマを取り上げている。ほとんど専門知識がなくても読み進められる、「言語学入門への入門」の本。
▶テキスト(日本語学・言語学)	ことばの冒険 対話篇 探検!ことばの世界2  近刊
大津由紀雄 著 A5判・978-4-89476-377-7 価格未定 近刊	好評『探検!ことばの世界』の姉妹編。対話形式で物語がすすんでいく本書は、「バイリンガルの頭の中って一体どうなってるの?」「ミツバチのダンス」、「回文」「リンズ・イン・ジャンプって、リンズ? ジャンプ?」といった、前著「探検!」ゆずりのことばに関する興味深いトピックが取り上げられている。前半部では認知科学や脳科学の視点からの考察を配置することで、言語の世界が閉じたものではなく広い世界につながっていることが理解しやすくなっている。格好の言語学入門。大学などの授業にも対応。『基礎英語』テキストに連載していたものの大幅改訂版。
▶テキスト(日本語学・言語学)	探検! ことばの世界 (新版)
大津由紀雄 著 A5判・160頁・2刷・978-4-89476-223-7 定価1680円(本体1600円) 発行2004.12	『基礎英語』に連載され、その後、NHK出版から刊行され、好評を博した名著の新訂版。ことばの仕組みを楽しみイラスト(早乙女民)とともに、ユニークな視点で解説し、読者をことばの世界に誘う。「ワニバナナ」「茶色い目の大きな犬を飼っている宇宙人」「にせたぬきじる」など、楽しいトピックによって構成されている。中学生や高校生の言語読本としてだけでなく、入門期の英語学、言語学のテキストとしても優れている。
▶テキスト(日本語学・言語学)	ことばのエクササイズ
青木三郎 著 A5判・186頁・2刷・978-4-89476-150-6 定価1470円(本体1400円) 発行2002.1	相手に説明したり表現することを通して、ことばのもっている本質的な機能や限界を考える。習うのではなく「話す実践」から感じ取る、ことばを巡る16のエクササイズ。講義用テキストとしても有用。図表多数。平成17～19年度 東京書籍『現代文2』に一部掲載され、高等学校の国語教材としても使用されている。
▶テキスト(言語学)	言語学
湯川恭敏 著 A5判・258頁・978-4-89476-113-1 定価2940円(本体2800円) 発行1999.6	チベット語、日本語文法論、アフリカのバントゥ諸語などの研究で知られる著者による言語学の入門書。先入観なしに、言語の実際の姿を正確・精密にとらえることを最重要視すべきであるという、著者自身の経験に裏付けられた主張と理論は、言語を調べたい、研究したいという気持ちをもつ全ての人に有益である。
▶テキスト(言語学)	学びのエクササイズ 認知言語学
谷口一美 著 A5判・144頁・978-4-89476-282-4 定価1260(本体1200円) 発行2006.4	学びのエクササイズブック1冊目。認知言語学についての重要で興味深いトピックを集め、その視点から、認知言語学のエッセンスや考え方を学ぶ教科書。15章の各章は、半期で終えられる分量で、認知言語学を学ぶ際に重要で面白く、学生を引きつけられるトピックで構成されており、大学1年生から教科書として使うことができる。目次: 1. はじめに: ことばと「動機づけ」/2. ことばの中の心理学/3. カテゴリー: 典型から周辺へ/4. ことばと抽象化/5. イメージ・スキーマ/6. 意味のネットワーク: ことばの多義性/7. ことばの創造性(1): メタファー/8. ことばの創造性(2): メトニミー/9. 「捉え方」のメタファー(1)/10. 「捉え方」のメタファー(2)/11. 「色彩」のメタファー/12. 構文と意味(1)/13. 構文と意味(2)/14. ことばのダイナミズム/15. ことば、文化、普遍性
▶テキスト(言語学)	学びのエクササイズ 社会言語学  未刊
松田謙次郎 著 A5判・978-4-89476-392-0 価格未定 未刊	日常の言語生活の中でふと?を感じるようなことばのトピックを取り出して、言語の、特に社会的な側面と関わる仕組みに気付くことへ導く。身近な気付きから、少し深いところへ学生を招待する教科書。言語系の学生ばかりではなく、さまざまなジャンルの学生にも、ことばの面白さに興味を持ってもらい、社会と言語の関わりを考えるきっかけを与えることを意図する新しい教科書。

▶テキスト (日本語)

野田尚史・森口稔著

A5判・128頁・5刷・978-4-89476-177-3
定価1050円 (本体1000円)
発行2003.3

日本語を書くトレーニング

新しい発想にもとづく日本語表現のテキストブック。メールで先生に問い合わせをする、レストランのメニューをわかりやすく直すなど、日常生活に密着した言語活動をサポートするテキスト。このテキストのキモは、相手の気持ちがわかるということはとても難しいということを実感すること。

▶テキスト (日本語)

野田尚史・森口稔著

A5判・128頁・2刷・978-4-89476-210-7
定価1155円 (本体1100円)
発行2004.3

日本語を話すトレーニング

日本語を話すときに、なるべく効率よく、なるべく相手を不快にさせないで話すにはどうしたらよいかを普通の人があまり上手に話していない音声聞くことにより考える。『日本語を書くトレーニング』の続編。音声CD付き。

▶テキスト (日本語・スタディスキル)

大島弥生・池田玲子・大場理恵子・加納なおみ・高橋淑郎・岩田夏穂著

B5判・148頁・2刷・978-4-89476-229-9
定価1680円 (本体1600円)
発行2005.3

ピアで学ぶ大学生の日本語表現 プロセス重視のレポート作成

相手に伝わるレポートの書き方・発表の仕方を身につけるための実践的表現活動をタスク化したテキスト。情報収集技術を自分の課題と関連づけて体験し、ピア活動を通して学びのプロセスの共有をめざす。ピア (peer) とは、仲間の意味の英語。授業ではレポートを作成する一連の作業を、学習する者同士で読み合い、話し合いながら進めていく。大学一年生が日本語表現やスタディスキルの基礎を学ぶのに最適の教科書。さまざまな工夫が盛りだくさん。

▶テキスト (スタディスキル)

佐渡島紗織・吉野亜矢子著

A5判・978-4-89476-368-5
予価1800円
未刊

論文の書き方・研究の進め方マニュアル (仮)

📖 未刊

ライティングが専門でない、高校、大学、大学院の教員が使える、「書き方」と「研究方法」の指導テキスト。前編、後編、各15章立て。学生の自習用としても充実している。主に人文社会科学系の領域向き。〔文章編〕では「思考を整理して、分かりやすく、科学的に」伝えるための技能を学ぶ。〔論文編〕では文献研究、実証研究の一連の流れを追って、テーマの設定から論文の評価まで段取りを解説。授業で使える練習問題やアクティビティーが豊富。

★CD-ROM付

▶テキスト (スタディスキル)

実松克義・北尾謙治・石川有香・早坂慶子・西納春雄・朝尾幸次郎・石川慎一郎・島谷浩・野澤和典・北尾S. キャスリーン 著

B5判・162頁・3刷・978-4-89476-242-8
定価1680円 (本体1600円)
発行2005.5

広げる知の世界 大学でのまなびのレッスン

大学生が知っておくべき大学での学び方のレッスン。スタディスキルから、表現、プレゼンテーションまでを学ぶことができる。1 大学の魅力、2 有意義な大学生活と学習・研究、3 大学の学習・研究の実際、4 ノートの取り方、5 大学生のための読解、6 情報収集、7 インターネット、8 テーマの選び方、9 情報の整理、10 書くことの重要性、11 レポートや論文を書く、12 プレゼンテーション、13 テストの準備と受け方、14 クリティカル・シンキング、15 プレイジャリズム (剽窃)、16 教授と知り合い、指導を受けよう、17 パソコンの有効な利用法、18 ワープロの有効な利用方法、19 Power Pointを使用したプレゼンテーション。 ★CD-ROM付

▶テキスト (スタディスキル)

三浦香苗・岡澤孝雄・深澤のぞみ・ヒルマン小林恭子著

B5判・228頁・978-4-89476-337-1
定価2310円 (本体2200円)
発行2006.12

最初の一步から始める日本語学習者と日本人学生のための

アカデミックプレゼンテーション入門

Introduction to Academic Presentations for Japanese Language Learners and Japanese Students

本書は、大学の初級日本語コースで使われているアカデミックプレゼンテーション入門書に英訳をつけたものである。日本語力が十分でない日本語学習者はもちろん、日本人学生も、本当に意味のある内容を発表できるように工夫されている。必要な日本語表現だけでなく、テーマの選び方からデータの処理・分析のプロセス、さらには実際に発表するためのスライド作成や話し方、態度などのノウハウまでを網羅している。 ★CD-ROM付

▶テキスト (スタディスキル)

味岡美豊子著

978-4-89476-371-5
価格未定
未刊

大学生のための情報検索入門

📖 未刊

インターネットが普及し、だれでも「ググる」ということが当たり前になった。だれでも情報を自由に検索できるという思いが生まれている。情報検索というとただことばを検索窓に入れて、リターンキーを押すだけだと思っている人が多い。情報検索というビジネスで生きている著者は、そうではないという。本当の意味での情報検索のやり方、方法、考え方の招待。

文科系ストレイシープのための研究生活ガイド

家入葉子 著

四六判・168頁・978-4-89476-241-1
定価 1680円 (本体 1600円)
発行 2005.2

英語史の研究者である著者が、自身の体験を基に研究生活の楽しみ方を案内する。論文執筆から学会参加まで、合理的な研究方法を得て知的生産活動を維持していくためのコツが満載。【目次】1. 研究生活へのイントロダクション—英語史研究の新しい形 2. 時代とテーマの絞込み 3. 論文執筆のための準備と整理能力 4. 博士論文の執筆 5. 短い論文の執筆 6. 研究生活の流れ

言語表現ことはじめ

筒井洋一 著

A5判・88頁・978-4-89476-232-9
定価 1155円 (本体 1100円)
発行 2005.2

学生が学ぶにあたって必要な基礎的技能(書く・話す・読む・調べる)を学べるよう、1993年、富山大学において、日本の国立大学で初めて「言語表現科目」が設置された。科目創設を提案し、運営を支えてきた著者がこれまでに発表した、「言語表現科目」創設の意義や問題点等を解説する論文を収載。日本における「言語表現科目」事始めが分かる。

▶テキスト(日本語教育)

ここからはじまる日本語教育

姫野昌子他 著

A5判・184頁・4刷・978-4-89476-104-9
定価 1680円 (本体 1600円)
発行 1998.10

長い間、日本語を教えてきた経験をもとに、日本語を教えるため、どのようなところがまえと知識をもって、どのように教えたらよいか、実践と方法論をわかりやすくまとめたテキストブック。類書にはない具体的な指針は、これから日本語を教えようとする人に大きな助けになる。

▶テキスト(日本語教育)

ベーシック日本語教育

 新刊

佐々木泰子 編

A5判・336頁・978-4-89476-285-5
定価 1995円 (本体 1900円)
発行 2007.4 新刊

コミュニケーション重視となった新しい日本語教育能力検定試験に対応した日本語教授法のテキスト。言語の仕組みなど、従来から重要視されている必須の事柄についても丁寧に扱っている。多岐にわたる出題範囲だが、試験に振り回されず日本語教師に必要な知識を押さえている。これだけ学べば日本語教育の基礎の基礎を習得できる。

▶テキスト(日本語教育)

フレージング方式

さらに進んだスピーチ・プレゼンのための日本語発音練習帳(仮)

 未刊

中川千恵子・中村則子 著

A5判・978-4-89476-396-8
価格未定
未刊

本書は、発音の練習方法がわからなくて途方にくれている学習者、教え方がわからなくて無力感を抱いている教師の方々にぜひ使っていただきたい。中上級学習者向けの発音練習用テキスト。イントネーションに焦点を絞り、「フレージング練習」と呼ぶ視覚的な練習方法(声の高低を表す曲線を見せたり描かせたりする)を用いて、短文練習からまとまった内容の発話へと段階的に学習を進めていく。授業でのスピーチ、仕事上のプレゼンテーションなど、フォーマルな場での、聞き取りやすく人にアピールする発音を目標に、教師にとって指導可能(teachable)、学習者にとって学習可能(learnable)な方法を提示する。

▶テキスト(その他)

朝鮮語入門

油谷幸利 著

B5判・135頁・7刷・978-4-938669-62-1
定価 1365円 (本体 1300円)
発行 1996.3

定評ある著者による朝鮮語の入門書。目次: 文字と発音(1) / 文字と発音(2) / 文字と発音(3) / 最敬体、指示詞と疑問詞、人称代名詞 / 指定詞、存在詞、漢数詞、第一類の語尾 / 連用形、過去時制補助語幹、否定 / 連体形、固有数詞 / 尊敬補助語幹、第四類の語尾、第五類の語尾 / 未来はか / ぞんざい体 / 引用文 / 変則用言(1) / 変則用言(2) / ほか

▶テキスト(その他)

朝鮮語入門2

油谷幸利 著

B5判・153頁・2刷・978-4-938669-91-1
定価 1680円 (本体 1600円)
発行 1997.10

定評ある著者による朝鮮語入門書の続刊。目次: 第1課 敬体と略体 / 第2課 平叙文と疑問文(1) / 第3課 待遇法・助詞(2) / 第4課 感嘆文、音変化(1) / 第5課 否定 / 第6課 可能と不可能 / 第7課 引用文縮約形、命令、勧誘、禁止 / 第8課 条件文、時、音変化(2) / 第9課 疑問と否定 / 第10課 使役と受身、音変化(3)

▶テキスト (New Viewpoints USAシリーズ) **アメリカの市民生活**

中林眞佐男・堀内夕子・
ブライアン コバート 著

B5判・64頁・978-4-89476-263-3
定価 1050円 (本体 1000円)
発行 2005.1

経済的にも、文化的にもアメリカはもっとも身近な国でありながら、その生活については意外と知らないことが多いのではないだろうか。市民活動、ボランティア活動から、公共図書館、税金のことなど、あたりまえの生活だが、日本人にとっては意外なことを英語で発見するアメリカ事情シリーズの第一作目。英語のテキスト。

▶ひつじアンソロジーシリーズ

中村三春編

四六判・372頁・2刷・978-4-938669-43-0
定価2447円(本体2330円)
発行1995.4

ひつじアンソロジー小説編1

一般の文学史に出てこないフィクションの名作を選び、10作家15作品を収録。作家ごとの解説付き。真にフィクションの魅惑に酔うことを望むすべての人々に。[収録作品] 泉鏡花(朱日記) 大泉黒石(犬儒哲学者／不死身) 江戸川乱歩(火星の運河／白昼夢／踊る一寸法師) 牧野信一(西瓜食う人) 岡本かの子(花は動し) 坂口安吾(紫大納言) 立原道造(鮎の歌) 太宰治(懶惰の歌留多) 椿実(月光と耳の話 ―レデゴンダの幻想―) 天沢退二郎(赤い胤／小さな魔女／秋祭り) [解説執筆者] 赤間亜生／大沢正善／和田茂俊／伊狩弘／押野武志／中村三春／佐野正人／九里順子／跡上史郎／宮川健郎

▶ひつじアンソロジーシリーズ

中村三春編

四六判・262頁・978-4-938669-69-0
定価2100円(本体2000円)
発行1996.7

ひつじアンソロジー詩編

現代に発表された日本の現代詩の中から10詩人を取り上げ、大まかに現代詩の流れをたどる。各作品・詩人ごとの分かりやすい解説を付す。優れた作品を再評価。[収録詩人] 尾形亀之助／安西冬衛／村野四郎／永瀬清子／伊東静雄／吉岡実／谷川俊太郎／清水哲男／荒川洋治／伊藤比呂美 [解説執筆者] 和田茂俊／中村三春／虫明美喜／野坂昭雄／赤間亜生／宮川健郎

▶ひつじアンソロジーシリーズ

中村三春編

四六判・978-4-89476-366-1
価格未定
近刊

ひつじアンソロジー小説編2 児童文学編



子ども・少年・少女を描いた、現代の童話・児童文学・小説作品を選び、10作家14作品を収録。各編に珠玉の解説を付すことにより、ジャンルにこだわらず、時代ごと、作家別の文芸様式を味わい、変遷をたどる中で現在におけるその意義を問直す。[収録作品] 千葉県省三(虎ちゃんの日記(抜粋)／十銭)／坪田譲治(枝にかかった金輪) 宮沢賢治(十月の末)／北川千代(世界同盟／夏休み日記)／古屋信子(フリージア／福寿草)／横光利一(滑稽な復讐)／金子光晴(風流戸解記(抜粋)／蛾)／安部公房(探偵と彼)／福永武彦(夜の寂しい顔)／安房直子(小さいやさしい右手) [解説執筆者] 米村みゆき／高橋秀太郎／森岡卓司／山崎真紀子／中村三春／錦咲やか／野口哲也

▶ひつじ研究叢書（文学編）1

鈴木淳著

A5判・754頁・978-4-938669-80-5
定価15750円（本体15000円）
発行1997.2

江戸和学論考

江戸期の和学研究で定評のある著者による現時点での集大成。日本近代の学問を生み出した母胎である和学の研究は、広く、他分野の研究者にも必読の書と言えよう。

▶ひつじ研究叢書（芸能編）1

橋本裕之著

A5判・544頁・978-4-938669-81-2
定価9684円（本体9223円）
発行1997.2

王の舞の民俗学的研究

若狭地方に残る王の舞は中世前期から受け継がれた数少ない芸能の一つである。本書は、若狭地方という民俗社会になぜ王の舞が残っていたのか、芸能史と民俗学を基盤として、文化人類学的な新しい知見とともに、その実態にせまるものである。また、民俗芸能という身体技法の謎にもせまる。

▶ひつじ研究叢書（芸能編）2

藤田隆則著

A5判・326頁・978-4-89476-120-9
定価12600円（本体12000円）
発行2000.2

能の^コ人数^ロ合唱^ス

本書では、世阿弥の時代から現代にいたるまでの演出の資料に基づいて、多人数合唱箇所（「同音」あるいは「地」と呼ばれる）の演出方法について考察する。従来の能研究の手法とは異なり芸術学的手法に基づく芸能記述の研究。

上参郷祐康編

A5判・384頁・978-4-938669-15-7
定価12600円（本体12000円）
発行1993.2 品切れ

平家琵琶

日本文学・日本語学をはじめとして、日本音楽・比較文学・民俗学などの研究者の既存の分野を越えた研究会である平家琵琶研究会によっておこなわれてきた平家琵琶をめぐる学際的で新しい研究成果を公開する研究論文集である。

テキスト・語り・プロット

清水道子著

A5判・575頁・978-4-938669-33-1
定価8400円（本体8000円）
発行1994.10

チェーホフの短編小説「犬を連れた奥さん」の全文分析や、他の短編の分析を行っている。テキスト主義的な分析としてここまで徹底して追求されたものとしては、先例がなく、唯一のものである。ロシア文学以外の分野の文学研究者にも必読の書。

▶ひつじ研究叢書（英語文学編）1

茅野佳子著

菊判・296頁・978-4-89476-218-3
定価6300円（本体6000円）
発行2004.2

PETER TAYLOR'S SOUTH 〈日本学術振興会助成刊行物〉
Crossing Boundaries in a “Tennessee Caravan”

米国テネシー州出身のピューリッツァ賞作家ピーター・テイラーは、日本ではあまり知られていないが、アメリカの人口が田舎から都会へ、南から北へ大移動した時代と大恐慌を背景に、多くの短編と中・長編小説を書いた。本書は、幼少年期の移動体験に焦点を当て、南部文学研究新たな視点を提供する、米国外では初の総合的テイラー研究書である。

人文・社会科学への挑戦

ひつじ書房の中で、言語学に限定せず、人文書としての書籍を刊行するシリーズ。言語学、文学、文化人類学、民俗学などのジャンルにおける理論的あるいは批評的な研究を刊行する。たとえば、日本文学のジャンルにおいても、従来の研究の枠におさまりきらない根源的な問いについて答えようとするものになっている。語りと共同体とはどういう関わりにあるのか、読むということはどういうことか、虚構とは何か、文学者がどのように食えるようになったのか、などなど、根本的な課題について意欲的に切り込む論考。文学以外では、身体はどのように形作られるのか、など学習理論から文化人類学にまでかかわるものもある。

▶未発選書 1

中村三春著

四六判・430頁・978-4-938669-27-0
定価3262円(本体3107円)
発行1994.5

フィクションの機構

横光利一・太宰治などをテキストとして今までにない虚構理論を展開する。分析哲学や様々な虚構理論を踏まえつつ、それらの超越をめざす。最もラディカルな局面から小説・詩などの局面を捉え直す根元的虚構理論の書。(書評掲載 山形新聞ほか)

▶未発選書 2

福島真人編

四六判・546頁・978-4-938669-46-1
定価4282円(本体4078円)
発行1995.5 品切れ

身体の構築学

近代の問題、認知の問題のいきつくところは身体である。身体が「芸能」というからだの活動をどう修得していくかということを手がかりに、この問題にせまる。人文科学・社会科学においての卓越した成果。ブルデューを超えたか？

▶未発選書 3

佐佐木隆著

四六判・320頁・978-4-938669-47-8
定価4410円(本体4200円)
発行1995.5

伝承と言語

古代語の音韻研究で定評ある著者によるはじめての著書。古代説話の構造主義分析と言語が逆に説話を生み出し、説話を育てていく現象の分析。言語学者、上代文学研究者、そして説話研究者にすすめたい。

▶未発選書 4

和田敦彦著

四六判・340頁・2刷・978-4-89476-152-0
定価2940円(本体2800円)
発行1997.10 在庫僅少

読むということ

近代の文学はどのような「読まれ方」によって成立してきたのか、読者論、社会史を踏まえながら、新しい局面へと誘いかける。気鋭の新著。

▶未発選書 7

中村三春著

四六判・365頁・978-4-89476-272-5
定価2940円(本体2800円)
発行2006.5

修辭的モダニズム テキスト様式論の試み

比喩・擬人法・寓意などのレトリックや、断片性・モンタージュなどのテキスト形態は、現代文芸の研究において、ないがしろにされてきた領域である。だが、これらは作家が工夫を凝らし、読者に強い印象を与える要素にほかならない。宮澤賢治と横光利一の文芸様式と、モダニズムのスポーツ小説・内的独白・百貨店小説をテーマとして、テキスト様式論の試みを行うことが本書の志向するところである。

宮沢賢治賞奨励賞受賞

▶未発選書 9

山本芳明著

四六判・326頁・978-4-89476-130-8
定価3780円(本体3600円)
発行2000.12

文学者はつくられる

大正期に発生した文学的諸言説の再編成が、人格主義的な作品評価の形成、イデオロギー分析、文学の経済学という3つの視点から明らかにされる。漱石評価の意外な変遷や出版ビジネスの好不調に左右される文学者の悲喜劇など、文学史の常識がくつがえされる。(書評掲載 文藝界他)

▶未発選書 10

兵藤裕己著

四六判・368頁・978-4-89476-156-8
定価2940円(本体2800円)
発行2002.3

物語・オーラリティ・共同体 新語り物序説

〈口承〉のプロフェッショナル・琵琶法師によって語り継がれてきた平家物語。物語を語る彼らのパフォーマンスを通して、聞き手である民衆と芸能民である語り手たちは、あやうく相互に関係付けられていく。平家はもちろん、歴史的なさまざまな「語り」を対象とし、その特性を踏まえながら「文学」が生まれる根元にせまる。

▶未発選書 11

和田敦彦著

四六判・288頁・2刷・978-4-89476-157-5
定価2310円(本体2200円)
発行2002.5

メディアの中の読者 読書論の現在

現在において読書を論じるとはどのようなことか。テレビやビデオゲームといった多くのメディアに囲まれたなかでおこなう読書という行為について、さまざまな読む行為と比較しながら歴史的に考える。

▶未発選書 12

西田谷洋著

四六判・284頁・978-4-89476-278-7
定価2940円(本体2800円)
発行2006.7

認知物語論とは何か？

文学というものは、なにゆえに文学なのだろうか。文学という営みは人間的な行為である。人の持つ、イメージ、ストーリー、認識の構造がそこにはある。文学はただ単に「近代文学研究」が前提として捉えているような意味で存在しているのだろうか？本書は、認知科学、認知言語学の視点から、人間の認知活動として文学・物語を捉え直すラディカルな(根元的な)問題設定の試みである。

▶未発選書 13

中村桃子著

四六判・360頁・978-4-89476-352-4
定価2940円(本体2800円)
発行2007.8 新刊

「女ことば」はつくられる



女は女ことばを本当に話しているのか？ 実は、江戸時代においては女訓書、明治以降は、新聞雑誌、小説などのメディアが作り出した言語なのではないか？「てよ」「だわ」などは、最初、品のないことばとして批判され、次第に上流の女性を示す指標として、広く使われていくというプロセスを実証する。ジェンダー研究の第一人者が、「女ことば」という言語イデオロギーについて、肉薄する。

▶未発選書 14

大石泰夫著

四六判・480頁・978-4-89476-374-6
定価3570円(本体3400円)
発行2007.9 新刊

芸能の〈伝承現場〉論 若者たちの民俗的学びの共同体



民俗芸能は「変わらない」「変えたくない」と思われがちなもの。しかし…、民俗芸能は、固定したものではない。演じる人々、見る人々の中で、変わりながら伝承されていくものである。伊豆半島の南、宇久須地域に20年以上、フィールドワークした成果。時に演者の若者と飲み交わし、時に古老に話を聞き、20年間付き合い通したエスノグラフィー。芸能する村人たちのフィールドワーク。折口に学び、人々の実際の学びに焦点をあてたレイブとウェンガーの状況論(伝承とは学びの集積なのだ!)をも踏まえた民俗伝承論。

▶ひつじ選書 1

東京弁は生きていた

秋永一枝著

下町育ちの国語学者である著者が、生粋の江戸っ子たちと話をし、東京弁を集め、分析したもの。今はもう失われてしまった愛すべき言葉たちへのレクイエム。

A5判・238頁・2刷・978-4-89476-139-1
定価1680円(本体1600円)
発行2001.2

▶ひつじ選書 2

江戸長崎紅毛遊学

杉本つとむ著

江戸時代の知識人にとって長崎留学は夢であった。世界に開いた窓である長崎。そこからオランダ文化は吸収されていくのであった。蘭学・洋学研究の第一人者である著者による江戸文化のエッセイ。

四六判・333頁・978-4-938669-79-9
定価2447円(本体2330円)
発行1997.3

ジャワの宗教と社会〈日本学術振興会助成刊行物〉

スハルト体制下インドネシアの民族誌的メモワール

福島真人著

80年代インドネシア・ジャワで繰り広げられた、国家と諸宗教の複雑な闘争のドラマ。スハルト体制下の錯綜とした宗教潮流を、数年にわたる綿密な調査から再演した民族誌的研究。

A5判・430頁・978-4-89476-151-3
定価6720円(本体6400円)
発行2002.2

目覚めよ!チャレンジ精神 起業家精神を有する人材の育成にむけて

神奈川県自治総合研究センター編
大濱信宏著

本書は、学校教育の中に起業家教育をどう位置づけるかを考察したものである。起業家教育は金儲け教育ではなく、子ども達に、多様な可能性をしめすことにつながっているのだ。また、そのことは「生きる力」を育てる「総合的な学習の時間」にもっとも適した内容ではないだろうか。

A5判・80頁・978-4-89476-167-4
定価1050円(本体1000円)
発行2003.3

21世紀の公私年金政策 米国とスウェーデンの最新動向

渡部記安著

日本でもすめられつつある401Kについて米国の現状を調査研究した。エンロン事件などで問い直されている401Kについての基本文献。

A5判・328頁・978-4-89476-208-4
定価4830円(本体4600円)
発行2003.12

21世紀の学問のすすめ ユビキタス社会を生きるために

夏木好文著

中学生から中年まで幅広い層の方々のユビキタス社会入門書としておすすめ。「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」福沢諭吉と現代。

A5判・103頁・978-4-89476-207-7
定価1470円(本体1400円)
発行2003.10

草の根NPO運営術

澤村明著

日本でもすっかり定着したといつて過言ではない、NPO。本来は市民活動団体に法人格を与えるという趣旨で成立した法制度であるが、そうした法制度を超えて一般化している。そうした中、これからNPOにしたいと考えている市民活動団体や、NPOになったばかりの団体、あるいはNPOになったが運営に悩んでいる団体に向けたメッセージが本書である。NPOの運営は、営利企業より難しいといわれている。その運営のための心がけについてまとめた1冊である。

A5判・146頁・978-4-89476-333-3
定価1785円(本体1700円)
発行2006.6

公民パートナーシップの政策とマネジメント

立岡浩 編

A5判・220頁・978-4-89476-295-4

定価2520円(本体2400円)

発行2006.11

公民パートナーシップ (PPP) の政策とマネジメントとして、行政、NPO、コミュニティのそれぞれの各セクターが主体となる3つの視角から考察する。第1部 行政主体 PPP編。金川幸司 自治体とNPOの協働とその評価／谷岡慎一 自治体改革とPPP／東郷寛 官民協働事業における非営利組織の役割／第2部 NPO主体 PPP編。桜井政紀 公民学パートナーシップによるボランティア活動の実施とその支援政策について／金森康 起業期のNPOの潜在成長力評価について／真野俊樹 エイズ政策とNPO活動の現状分析／吉田忠彦 公設民営の課題／第3部 コミュニティ型PPP編。今井良広 イングランドにおけるローカル・パートナーシップの展開／立岡浩 行政計画マネジメントと市民参加デザイン／伊佐淳 地方自治体とNPOとの協働によるまちづくり

▶ひつじ市民新書

市民の日本語 NPOの可能性とコミュニケーション

加藤哲夫 著

新しい社会を作り出していく為には、新しいコミュニケーション方法が生み出されなければならない。市民の新しいコミュニケーション、マネジメントの技法を考える一冊。個人間コミュニケーションから社会的コミュニケーションの変革へ。日本語について考えるすべての人へおくる本。

新書判・212頁・2刷・978-4-89476-166-7
定価 730円 (本体 695円)
発行 2002.9

▶ひつじ市民新書

市民教育とは何か ボランティア学習がひらく

長沼豊 著

ボランティアについて学校で教えられている。しかし、生徒に対する単なる徳目教育になっていないだろうか。基本的には、何をするかを自分たちで決めるところから、はじまるのではないか。市民社会は、参加する市民によって成り立つ。そのための教育について考える。

新書判・224頁・978-4-89476-185-8
定価 730円 (本体 695円)
発行 2003.1

▶メディアとコミュニケーション叢書 第1巻

デジタルテキストの技法

家辺勝文 著

テキストを電子的にやり取りするということはどういうことなのか。そのために考えておく必要があることは、ということか。電子リテラシーの基礎を考えていく現在に必須の本。すべての文字を書く人にすすめたい。

A5判・182頁・978-4-89476-100-1
定価2520円(本体2400円)
発行1998.7

▶メディアとコミュニケーション叢書 第3巻

ルネッサンスパブリッシャー宣言

松本功 著

昭和からつい数年前まで、出版はバブルの中にあった。「近代化」と「大衆化」の大きな流れでの従来の本の役割は終焉してしまったと考える著者による、本の将来について真摯に考える本。電子本、インターネットなどの新しいテクノロジーの中で少数出版の意義をとらえ直す。新しい出版社、編集者の役割を提唱する。

A5判・200頁・978-4-89476-102-5
定価2310円(本体2200円)
発行1999.5

▶マッキントッシュでできる外国語シリーズ

マックで中国語

内田慶市・野原康宏 著

マッキントッシュで中国語を入力・処理・出力するための本。アップル社が出した中国語キットを組み込むことで容易に日本語や英語などと混ぜて入出力ができるのだが、中国語キットには日本語のマニュアルがついていない。実際に中国語を使うときに必要なノウハウを満載。

A5判・208頁・978-4-938669-71-3
定価2447円(本体2330円)
発行1996.7 在庫僅少

ひらけ! T-TIME

多村栄輝・仲晃生・LUNA CAT 著

オンライン読書ソフトT-Timeに身も心も捧げた3人のファンブック。T-Timeは、読むためのソフトだが、T-Timeのタグをテキストやhtml文書に埋め込むことで本のように表示させることができ、また、T-Timeパブリッシャーキットを使うことで、パスワード付きの文章にしたりもできる。様々なチップスと蘊蓄の本。

A5判・144頁・978-4-89476-109-4
定価1365円(本体1300円)
発行1999.9

ネチケツ

バージニア・シャー 著
松本功 訳(協力菊地敦子)

インターネット、パソコン通信、コンピュータによる通信が常識化した時代の必読書。本書を読んでいるれば、通信の世界で非難を浴びせられなくて済むはず。ネットワーク社会が、住み良い楽しいものになる。

A5判・202頁・978-4-938669-67-6
定価1575円(本体1500円)
発行1996.10

インターフェイス コンピュータと対峙する時

関口久雄 著

今ではあたりまえの存在となったコンピュータを、「インターフェイス(葛藤の場、折り合いのつけ方)」という視点から読み直した社会文化史。【内容と形式】を不可分のものとして考えるプリコラージュという手法を採用。詳細な注はコンピュータをめぐる状況を知るには必見。

A5判・256頁・978-4-89476-178-0
定価2520円(本体2400円)
発行2002.12

ポスターの社会史 大原社研コレクション

法政大学大原社会問題研究所編
梅田俊英 著

大原社会問題研究所は戦前、ポスターやビラ、チラシの類を収集していた。それらは戦前の人々のメディア活動を記録するものである。その貴重な資料の中から代表的な物を選び、解説。さらにポスターのメディア史上の意味を通観。2700枚のポスターをCD-ROMに収録している。

A5判・134頁・978-4-89476-148-3
定価2520円(本体2400円)
発行2001.10 在庫僅少

★CD-ROM付

▶ W-SOHO BOOKS 第1巻

伊藤淳子 著

B6判・126頁・978-4-89476-168-1
定価630円(本体600円)
発行2003.1

たなぼた主義 自分のほしいものを作る、自分の夢をかなえる

他の人より先をよみ、自分の夢・アイディアを実現することを仕事にしてきた著者がこれまでの活動をもとに女性にエールを送る本。新しいタイプの女性向けビジネス書。

▶ W-SOHO BOOKS 第2巻

和田裕美 著

B6判・120頁・4刷・978-4-89476-169-8
定価630円(本体600円)
発行2002.6

営業のビタミン 仕事やお客さんがどんどんやってくる

開業する場合も、セールスをする場合も、子供が親に何かを頼むときも、「営業」は、基本。生きる根元に「営業」はあるといえるでしょう。トップセールスの実績を持っている和田によるわかりやすく、元気になる営業術の本。

21世紀の女性市場 見られるサイト、見られないサイト

W-SOHO リーダーズリンク調査白書

B5判・128頁・978-4-89476-137-7
定価2000円(本体1905円)
発行2001.3

女性サイトは見られているの? 実際に女性サイトを運営し、関わっている女性たちのグループであるW-SOHOリーダーズによる実感的サイト調査。

ひさみをめぐる冒険 HISAMI LIVES AMERICA

大柴ひさみ 著

四六判・180頁・978-4-89476-186-5
定価1680円(本体1600円)
発行2003.2

語学をものともせずに38歳でアメリカに渡りサンフランシスコで米国に進出する日本企業に対するコンサルティング・ビジネスを立ち上げる。アメリカ人の夫と生活する中で、異邦人の眼でみた「アメリカのビジネスや生活のリアリティ」を臨場感あふれる生の声でつづった元気が出るエッセイ。

僕らには親が別れても愛される権利がある! 養育費実態調査

NPO 法人Wink 編

A5判・143頁・978-4-89476-187-2
定価1575円(本体1500円)
発行2003.3

「離婚後、養育費を受け取っている人が約2割しかいない実情を知っていますか?」親になることをみんなで考えるための一冊。

自分でデキル養育費強制執行マニュアル

新川てるえ 著 榊原富士子 監修

A5判・176頁・2刷・978-4-89476-219-0
定価1680円(本体1600円)
発行2004.4

民事執行法改正により、未払いの養育費の差押えが将来分にわたり可能となった。この手続きを弁護士を介さずに行う方法の紹介と実行した著者の報告。養育費問題に対するシングルマザー＆ファザーの生の声。

離婚家庭の面接交渉実態調査 ババ、ママ離婚しても会えるよね?

新川てるえ 編

A5判・160頁・978-4-89476-233-6
定価1680円(本体1600円)
発行2005.3

離婚して、妻・夫の立場は消えても、親としての責任はずっと続いていく。子供には養育費を受け取る権利と共に、別れた親と会う権利がある。実際に面接交渉に取り組む人々の声を集め、親子の面接を妨げる問題点やそれを解決する方法を考えていく。NPO法人Wink代表者による書。

離婚後の親子関係サポートBOOK

新川てるえ 編

A5判・142頁・978-4-89476-297-8
定価1680円(本体1600円)
発行2006.4

離婚家庭を支える立場にいる自立支援員や福祉担当者は、どのような知識を身に付ければいいのか。窓口などで寄せられる相談に対して的確なアドバイスができるように、正しい法律の知識、離婚家庭の抱える悩み、養育費や面接交渉に向けた取り組み方などを紹介していく。既刊『自分でデキル養育費強制執行マニュアル』『離婚家庭の面接交渉実態調査』の加筆修正に、カウンセリングのやり方について解説した章を新たに加えた構成。

▶進化する図書館

進化する図書館の会 編

A5判・64頁・2刷・978-4-89476-143-8
定価630円(本体600円)
発行2001.7 在庫僅少

進化する図書館へ

日本の公共図書館の現状は、市民にとって不十分なものである。市民の情報インフラとして役に立つ図書館へ進化させることを提案する。執筆者：菅谷明子「進化するニューヨーク公共図書館」/小野田美都江「デジタルデバイドを解消する図書館」/松本功「市民の図書館」から「市民活動の図書館」へ/山崎博樹「ラーメン屋さんから石屋さんまで「ビジネス」を助ける図書館 はじめの一步」

▶進化する図書館

松本功著

A5判・108頁・2刷・978-4-89476-160-5
定価945円(本体900円)
発行2002.6

税金を使う図書館から税金を作る図書館へ

図書館の資料費がどんどん減らされていく。それに反対運動が起きる。しかし予算を減らす方も、それに反対する方も議論の場所を間違っているのではないか。図書館を市民の活動を支援する場所に変換することが重要であると提言する。

▶進化する図書館

ライブラリーマネジメント研究会 編

A5判・120頁・978-4-89476-194-0
定価1050円(本体1000円)
発行2003.4

都立図書館は進化する有機体である 2010年の都立図書館を描く

変革を迫られる時代に入る都立図書館。その2010年の姿を展望する糸賀雅児氏(慶應義塾大学教授)と松本功(ひつじ書房)の対談「これからの都立図書館はどうあるべきか」を編集採録。都立図書館のこれからを担う図書館員たちの思いや希望を綴る。

情報収集・問題解決のための図書館ナレッジガイドブック

類縁機関名簿 2005

東京都立中央図書館 編

A5判・408頁・978-4-89476-259-6
定価2940円(本体2800円)
発行2005.4

都立中央図書館が、長年、情報調べや利用者からの問い合わせに答えるために使用してきた専門機関のリスト(類縁機関名簿)を元に、広く一般に公開するために再編集した。収録している機関は、専門分野に関する資料を所蔵し、原則として一般公開により、文献・情報サービスを行っている専門情報機関。これらの専門機関について得意とするジャンルや収集している文献の特徴などから検索できる索引を都立中央図書館の経験とノウハウに基づいて付記。

A Conceptual Modeling Approach to Design of Catalogs and Cataloging Rules

〈日本学術振興会助成刊行物〉

 新刊

谷口祥一 著

菊判・340頁・978-4-89476-332-6
定価17850円(本体17000円)
発行2007.2 新刊

図書館などにおける情報(資料)組織化は、主に所蔵資料に対する目録の作成によって行われてきた。近年、その詳細を規定した目録規則は、対象とする資料群の多様化や利用者要求の高度化を受けて、さらなる進展を求められている。本書は、(a) 目録を対象とする新たな概念モデルの提案、および(b) 目録規則の新たな概念設計法の提案を行い、その有効性や実現可能性を検証し、目録および目録規則の最適な設計という課題に応える図書館情報学のフロンティアである。

メディアとことば研究会は、メディアとことばの関係を超領域的な視点から探るユニークな研究会です。言語研究の枠組みではこれまで十分に焦点があてられてこなかった、メディアに現れたことば、メディアとの関係において生じることばの現象について、2003年から研究を進めてきました。研究会は年に4回の開催。春と秋の2回は社会言語学会の前日に、夏と冬の2回はテレビ会議システムで関東と関西の大学を結び、現在、通算17回に及んでいます。

研究テーマは多岐にわたり、これまで「携帯電話」「インターネット」「新聞報道」「スポーツ記事」「雑誌広告」「テレビコマーシャル」「テレビ討論」「TVワイドショー」「TVテロップ」など多様な材料と研究テーマで発表が行われてきました。研究者の分野は社会言語学、言語学、日本語学、日本語教育、英語学、社会学、人類学などで分析方法も多様。狭い領域に縛られた研究よりも、自由な発想やアングルからことばとメディアの実態・現象に迫る分析を旨としています。

研究会ではメールリストを運営し、研究会や関連情報のお知らせ、研究誌の投稿募集や研究について意見交換を行っています。

研究発表と連動して研究会会員から雑誌論文を募集。編集員による査読を経て、研究誌『メディアとことば』を刊行しています。この書籍型研究誌は、1～2年に1回のペースで刊行を進めており、このジャンルに関心を持つ研究者の貴重な情報源、発表媒体となっています。

なお本研究誌は、学部レベルの学生を研究へ誘う研究材料や方法を提供することも意図しており、基本的な研究チームについてコラムも掲載しています。近年メディアとことばに興味を示す学生が増加していますが、その卒業論文の参考に、またゼミの輪読、大学院生の研究レファレンスと利用が広がっています。

●入会方法

メディアとことば研究会に入会希望の方は下記までご連絡ください。

三宅和子 miyake@toyonet.toyo.ac.jp

●研究会の情報についてのURL

<http://www.hituzi.co.jp/kenkyukai/media-kotoba.html>



▶メディアとことば 1

三宅和子・岡本能里子・佐藤彰編

A5判・274頁・978-4-89476-215-2
定価2520円(本体2400円)
発行2004.3

メディアとことば 1 特集:「マス」メディアのディスコース

言語学系と社会学系の研究者が、ことばの側からメディア研究へアプローチ。メディアとことば研究会誌の第1弾。執筆者:村田和代 テレビコマーシャルの好感度—世代別言語ストラテジーの視点から/竹野谷みゆき 言語行為としての謝罪広告—違法香料事件をめぐる新聞広告の分析/本田厚子 テレビ討論における司会者の役割—討論の「進行管理」はいかになされるか/三宅和子 スポーツ実況放送のフレーム—放送に向けられた視聴者の不快感を手がかりに/佐藤彰 皇室報道における引用—その歴史的考察/大原由美子、スコット・サフト 新聞論説にみる9・11—国家アイデンティティの表象とイデオロギー/岡本能里子 メディアが創るヒーロー—大リーグ—松井秀喜—イチローとの比較を通して/辻大介 広告のどこに問題があるのか—消費社会における現実と虚構のゆらぎ

▶メディアとことば 2

三宅和子・岡本能里子・佐藤彰編

A5判・264頁・978-4-89476-260-2
定価2520円(本体2400円)
発行2005.9

メディアとことば 2 特集:組み込まれるオーディエンス

メディアとことば研究会誌の第2弾。執筆者:村松賢一 ニュース番組における「おしゃべり」—キャスター同士の会話は何をしているのか/塩田英子 バラエティ番組における文字テロップの役割—発話理解のしくみを探る/高橋圭子『クローズアップ現代』の〈物語〉—メディア・テキストの批判的分析/是永論・酒井信一郎「広告」はいかにして「広告」に見えるのか—「メッセージ」としての「リスク」の理解に向けて/岡田光弘 身体の動きの表象を「自然に」読むということ—エスノメソドロジー研究によるテキスト分析/森山由紀子 広告メディアとしての子ども向け雑誌—『コロコロコミック』における商品紹介記事の登場とその変容/岸本千秋 ネット日記における読み手を意識した表現—公開意識との関連から/三宅和子 携帯メールの話—ことばと書きことば—電子メディア時代のヴィジュアル・コミュニケーション

▶メディアとことば 3

岡本能里子・佐藤彰・竹野谷みゆき編

A5判・252頁・978-4-89476-364-7
定価2520円(本体2400円)
近刊

メディアとことば 3 特集:社会を構築することば



渡辺学 ドイツメディア言語学の現況—携帯メールテキストの日独比較を出発点に/岡本能里子 日本語のビジュアル・グラマーを読み解く—新聞のスポーツ紙面のレイアウト分析を通して/布尾勝一郎「身内」の不祥事報道における新聞の隠蔽・自己正当化ストラテジー—第三者名義株式保有問題を題材に/森山由紀子 子ども向け情報における「遊び」と「商品」の境界—1980年代初頭『コロコロコミック』「遊び方情報」記事から/佐竹久仁子〈女ことば/男ことば〉の成立期の研究—1940年前後のラジオドラマのことばの分析をとおして/平本毅 電子メディアを通じてことばはいかにして話されるのか/佐藤彰 ファンサイトにおけるナラティブと引用—オンライン・コミュニティー構築の視点から

●関連する研究会名

MLF (Morphology & Lexicon Forum)

KLP (関西レキシコンプロジェクト)

LSC (Lexicon Study Circle)



編者 影山太郎 (関西学院大学教授)

●雑誌と研究会の紹介

本誌は、言語学だけでなく心理学や自然言語処理などの研究を掲載するレキシコンすなわち語彙(単語)に関する総合的なジャーナルです。語彙は言語を形成する最も基本的な要素であり、形態論、意味論、統語論、音韻論、語用論のどのような領域とも深く関係します。また、生成文法や認知言語学といった理論的アプローチの違いを超越して、誰にとっても基本的で重要な研究分野です。更に、言語学だけでなく、心理学、辞書編纂、自然言語処理、脳科学、日本語教育、外国語教育などの関連領域と密接に関係し、広大な応用の可能性を秘めています。本誌は、理論や学問領域の違いを超えて、様々な角度から、人間が持つ語彙の能力とその応用力を明らかにすることを意図し、対象言語も日本語、英語だけでなく中国語その他の諸外国語も含まれます。

本誌の母体となる活動は、1994年に神戸・西宮で発足したKLP(関西レキシコンプロジェクト)という研究会に遡ります。KLPは、東京で作られたLSC(レキシコン研究サークル)と一緒に、年に一度、MLF(形態論&レキシコンフォーラム)という合同の研究発表会を開くようになりました。MLFは、関西・関東以外からも多数の参加を得て、今年の大会(2007年6月30日・7月1日、神戸大学)で13回を数えます。

KLP, LSCだけでなく、MLFも「学会」という形を取っていません。それは、教員も院生も、言語学の人も心理学の人も工学系の人も自由に参加できるように、バリアフリーを意図しているからです。バリアフリーという意味では、本誌『レキシコンフォーラム』もそうです。投稿は、上記研究会のメンバーに限られません。英語学、日本語学、言語学、心理学、情報処理の編集委員を揃えていますので、いろいろな方面からの投稿をお待ちしています。[影山太郎]

●入会方法

学会ではありませんので、自由参加です。問い合わせ先は、下記のウェブサイトをご覧ください。

●研究会のウェブサイト

MLFは、<http://www.intcul.tohoku.ac.jp/lingcommunic/mlf/>

KLPは、<http://www.kcc.zaq.ne.jp/kageyama/KLP.folder/KLP.html>

本誌『レキシコンフォーラム』は、<http://www.kcc.zaq.ne.jp/kageyama/LexiconForum.folder/LexiconForum.html>



▶レキシコンフォーラム 1

影山太郎編

A5判・304頁・978-4-89476-254-1
定価4200円(本体4000円)
発行2005.4

レキシコンフォーラム No.1

語彙(単語)研究と、言語学各分野や言語の機械処理、心理学、脳科学、言語教育、辞書編纂など言語学以外の研究をも連携させるべく創刊された、レフリー付きのジャーナル。辞書(レキシコン)および語彙的知識に関する様々な理論的・記述的研究の成果を集めている。今回の特集は「言語学と辞書」。**【執筆】** 梶 茂樹/大曾美恵子/国広哲弥/山田 進/影山太郎/長谷部郁子/Naoki Kimura, Jungho Kim and Masatoshi Koizumi/松村宏美・板東美智子/大友麻子/申 亜敏/山田昌史
論文の投稿を受け付けています。詳しくは、<http://www.intcul.tohoku.ac.jp/lingcommunic/mlf/>をご覧ください。

▶レキシコンフォーラム 2

影山太郎編

A5判・296頁・978-4-89476-290-9
定価4200円(本体4000円)
発行2006.4

レキシコンフォーラム No.2

今回の特集は「辞書と言語情報処理」。
【執筆】 加藤恒昭・乾健太郎・竹内孔一/乾健太郎・藤田篤/畠山真一・坂本浩・伊藤たかね/竹内孔一・乾健太郎・藤田篤/Stuart Davis and Isao Ueda/Tatsuya Isono/影山太郎/岸本秀樹/Yasuko Taniwaki

▶レキシコンフォーラム 3

影山太郎編

A5判・360頁・978-4-89476-373-9
定価5040円(本体4800円)
発行2007.7 新刊

レキシコンフォーラム No.3

今回の特集は「日本語のレキシコンと音韻構造」。
【執筆】 窪蘭晴夫/田中真一/Kiyoko Yoneyama/Joseph Emonds/影山太郎/ナロック ハイコ(Heiko Narrog)/申亜敏/菅原剛/田中江扶/Kimi Akita/加藤鉦三/長野明子/柴崎秀子・玉岡賀津雄・母育新



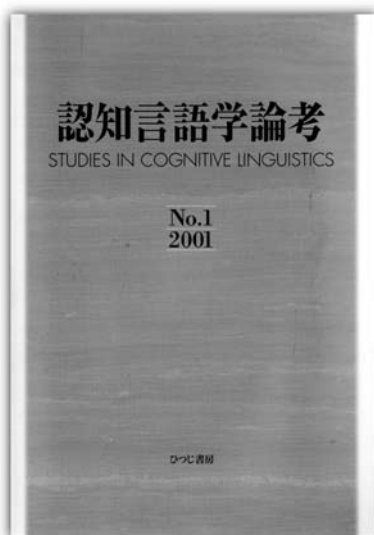
認知言語学は、経験科学としての言語学の方角性を、根源的に問い直す新しいパラダイムとして着実に進展しています。これまでも、認知言語学の入門書、翻訳書が出版されていますが、大半は文法論と意味論の概説書が中心となっており、音韻・形態論、語用論、言語類型論、歴史言語学、言語習得論、言語教育論、等の領域までを視野に入れた体系的な認知言語学の研究書は、国内外においても得難い状況にあります。本シリーズは、以上の言語学の関連部門の研究における知見の交流の場となることを願って創刊されました。

2002年に刊行されてから現在まで、年に一巻のペースで着実に刊行を続けています。本シリーズには、認知言語学の第一線で活躍している研究者から新進気鋭の若手の研究者までの論文が掲載されています。掲載される論文の研究テーマは、文法論、意味論、音韻・形態論、語用論、レトリック、記号論、言語類型論、言語習得論、言語教育論、認知心理学、自然言語処理、等と非常に多岐に渡っています。本シリーズは、認知言語学の分野の研究者、認知言語学の枠組みに基づく卒論、修論、博士論文をめざす学生だけでなく、言葉の研究・教育と言葉の関連分野の研究・教育に携わる先生方にとっても必読の研究書です。国内において、認知言語学の最先端の独創的な論文を継続的に掲載している研究書のシリーズは、本書の他にありません。その意味で、本シリーズは、認知言語学と言語学の関連分野にとって、きわめて貴重な研究書といえます。本書の刊行が、認知言語学と言語学の関連分野の研究・教育の推進の一翼を担っていると言っても過言ではありません。

認知言語学論考は、これからも国内外の第一線の研究者のオリジナルな研究成果を発表する場を提供していきます。今後も、購読者の皆さんの一層のご支援を期待しております。



編者 山梨正明（京都大学教授）



▶認知言語学論考 1

山梨正明他編

A5判・320頁・978-4-89476-144-5
定価3990円(本体3800円)
発行2001.9

認知言語学論考 No.1

執筆者:山梨正明 このばの科学の認知言語学的シナリオ/ 舩山洋介 多義語の複数の意味を統括するモデルと比喻/ 中村芳久 二重目的語構文の認知構造/ 高橋英光 英語の間接照応/ 本多啓 文構築の相互行為性と文法化/ 堀江薫 膠着語における文法化の特徴に関する認知言語学的考察/ 野村益寛 参照点構文としての主要部内在型関係節構文/ 吉村公宏 人工物主語

▶認知言語学論考 2

山梨正明他編

A5判・320頁・978-4-89476-184-1
定価3990円(本体3800円)
発行2003.4

認知言語学論考 No.2

執筆者:森雄一 明示的提喻・換喩形式をめぐって/ 鍋島弘治朗 メタファーと意味の構造的性/ 岡智之 存在構文に基づく日本語諸構文のネットワーク/ 坂本真樹 生態学的知覚論、心の理論、属性描写文の認知意味論/ 本多啓 協同注意の統語論/ 宇野良子・池上高志 ジョイントアテンション/ 予測と言語

▶認知言語学論考 3

山梨正明他編

A5判・272頁・978-4-89476-220-6
定価3990円(本体3800円)
発行2004.4

認知言語学論考 No.3

執筆者:池上嘉彦 言語における〈主観性〉と〈主観性〉の言語的指標 (1) / 上原聡 何故プロトタイプ構造か/ 二枝美津子 被動者-主語文の認知言語学的分析/ 足立公平 ラ格と道具目的語/ 李在鎬(リ・チェホ) 認知事象の複合的制約に基づく結果構文再考

▶認知言語学論考 4

山梨正明他編

A5判・272頁・978-4-89476-243-5
定価3990円(本体3800円)
発行2005.6

認知言語学論考 No.4

執筆者:池上嘉彦 言語における〈主観性〉と〈主観性〉の言語的指標 (2) / 中村渉 格システム・格融合の類型論-認知-機能主義的アプローチ/ 菅井三実 格の体系的意味分析と分節機能/ 黒田 航・中本敬子・野澤 元 意味フレームに基づく概念分析の理論と実践/ 山泉 実 シネドキの認知意味論へ向けて-一類によるシネドキ再考

▶認知言語学論考 5

山梨正明他編

A5判・243頁・978-4-89476-294-7
定価4410円(本体4200円)
発行2006.9

認知言語学論考 No.5

執筆者:貞光宮城 共感覚表現の転用傾向について-嗅覚と聴覚/ 視覚を中心に / 崎田智子 伝達動詞 go の意味拡張-メタファーとメトニミーの視点から / 平井剛 英語中間構文の意味構造 / 酒井智宏 差異否定型トートロジー / 森山新 多義語としての格助詞デの意味構造と習得過程 / Yoshikata Shibuya Conceptual Evolution: The Quality-Quantity Continuum in Good/Yuki-Shige Tamura Characteristics of English Sound-Emission Path Construction: A Prototype Cross-Linguistic Account

▶認知言語学論考 6

山梨正明他編

A5判・288頁・978-4-89476-365-4
定価4410円(本体4200円)
発行2007.9 新刊

認知言語学論考 No.6



執筆者:篠原和子 空間認知実験と時間メタファー / 松本曜 語におけるメタファーの意味の実現とその制約 / 村尾治彦 結果構文における認知領域と拡張の方向性 / 長谷部陽一郎 英語と日本語の分裂文-認知文法による対照研究 / 谷口一美 抽象化の発達と言語習得の相関をめぐって / 出原健一 Go の意味論-認知論的視点から / 安原和也 Blended Referents in Aesop's Fables: A Conceptual Blending Approach

フランス語学は、高度な研究を行いながらも、成果を外に向かって発表していくことに熱心でなかった。論文集発刊の趣旨は、毎年あるいは隔年、継続的に質の高いフランス語論文集を刊行することで、フランス語学研究を活性化し、同時に外部に向けフランス語学の存在を示すことにある。各巻はテーマをもち、それに関する論文を主に、特集外論文も収め、さまざまな関心に応えることのできる論文集を目指す。収録論文は、フランス語学を基盤としながらも、フランス語学内部の特殊な関心を越えて、広く一般言語学的視野を射程に収める。本論文集は、フランス語学、日仏対照、類型論研究などに関する専門的論文を収録する論文集でありながら、フランス語例文にはすべて注をつける、フランス語学に特殊な用語は極力避けるか解説を加えるなど、語学に関心のあるすべての人に理解できるような工夫が施されており、フランス語学への良質の導入となることが期待されている。

第1巻は、名詞句意味論を中心に、時間副詞、副詞節の時制選択、トートロジーなど多岐にわたる論文を収める。第1巻執筆者は、坂原茂（第1巻編集責任者）、東郷雄二、春木仁孝、井元秀剛、曾我祐典、木内良行、酒井智宏、田原いずみ、小田涼、森香奈絵の10人で、フランス語学の代表的研究者から将来のフランス語研究を背負うことが期待される若手研究者を揃える。第1巻に続き、第2巻は感情表現、第3巻は時制論を扱う予定である。

編集委員会は、坂原茂、川口順二、春木仁孝、東郷雄二、青木三郎の5名。



第1巻編者 坂原茂（東京大学教授）

坂原茂他編

名詞句意味論を中心に、時間副詞、副詞節の時制選択、トートロジなど多岐にわたる論文を収める。執筆者：坂原茂、東郷雄二、春木仁孝、井元秀剛、曽我祐典、木内良行、酒井智宏、田原いずみ、小田涼、森香奈絵

A5判・320頁・978-4-89476-397-5

価格未定

近刊



編者 大津由紀雄(慶應義塾大学教授)

*The Proceedings of the Tokyo Conference on Psycholinguistics*は、2000年から毎年開催している言語心理学の国際会議(略称TCP、主催 慶應義塾大学言語文化研究所、運営 大津由紀雄研究室)の発表論文集(プロシーディングズ)です。TCPでは、世界各地の言語心理学者が3月中旬ごろの2日間、慶應義塾大学三田キャンパスの会議場に集い、第一・第二言語獲得、言語理解をはじめ、言語心理学の諸領域の問題について議論します。

基本テーマは「人はなぜ限られた情報をもとに、かくも豊かな言語知識を身につけることができるのか」というプラトンの問題です。発表言語は英語です。発表後のフロアからの発言や発表者相互の研究成果の交換などにより、研究者同士の新しい出会いや発見の機会が生まれています。また、毎回、言語心理学や言語理論の優れた研究者を招待講演者として国内外から招聘しています。すでに8回を数えたTCPは国外にもその存在を広く知られるところとなり、著名な研究者も数多く参加しています。

大会後、発表者には論文を発表論文集に投稿する機会が与えられます。その発表論文集が本書です。本書は、TCP本体とともに歩みを進めていくものであり、論文の公刊により、直接出会うことのない研究者同士の交流をも促進しています。

発表論文集は、ひつじ書房(松本功社長)の出版文化に対する情熱と言語の研究に対する理解により、出版が可能になりました。しかし、現在のところ、刊行部数は250部という限定した印刷部数に留まっています。この発表論文集の購読者がさらに増加し、TCPをきっかけとした議論が一層広がり、深まっていくと同時に、会議の発表論文集の出版という地味ではあるが学問の発展にとって重要な事業をいつまでも継続できるよう、みなさんのご理解とご支援をいただきたいと思います。ぜひ、TCPへの積極的なご参加と発表論文集のご購読(図書館や研究室あるいは個人での)をお願いいたします。

なお、TCPの活動と成果をより多くのかたがたに知っていただくために、近々、TCP Clubという新しい制度を発足する予定です。会員には、TCPに関する情報が電子メール等で提供されるほか、私費で発表論文集を購入する場合には大幅に格安な価格が適用されるという特典を準備しています。Clubの詳細については、今後、ひつじ書房および慶應義塾大学大津由紀雄研究室ウェブサイト(<http://www.otsu.icl.keio.ac.jp/>)等でお知らせします。ご期待ください!



▶TCP

大津由紀雄 編

A5判・204頁・978-4-89476-131-5
定価3990円(本体3800円)
発行2000.12

The Proceedings of the First Tokyo Conference on Psycholinguistics(TCP2000)

慶應義塾大学でおこなわれている東京言語心理学会議 (Tokyo Conference on Psycholinguistics) の第1回大会の研究発表／講演集 (英語)。
Tetsuya Sano / Hanako Fujino / Haruka Fukazawa and Linda Lombardi / Yuki Hirose / Miwa Isobe and Koji Sugisaki / Takaomi Kato / Chiaki F. Komatsu / Hiromi Morikawa / Koji Sugisaki, William Snyder and Daniel Yaffee / Taeko Teramoto, Hideo Hayashibe, and Satoko Ichikawa / Melinda Whong-Barr and Bonnie D. Schwartz /

▶TCP

大津由紀雄 編

菊判・284頁・978-4-89476-149-0
定価3780円(本体3600円)
発行2001.12

The Proceedings of the First Tokyo Conference on Psycholinguistics (TCP2001)

慶應義塾大学でおこなわれている東京言語心理学会議 (Tokyo Conference on Psycholinguistics) の第2回大会の研究発表／講演集 (英語)。
Luisa Meroni, Andrea Gualmini and Stephen Crain / Mamoru Saito / Takuya Gouro, Hanae Norita, Motoki Nakajima, and Ken-ichi Arijii / Julia Herschensohn / Hironobu Kasai and Shoichi Takahashi / Masakazu Kuno / Shigeko Matsufuji / Jeannette Schaeffer and Dorit Ben-Shalom / Koji Sugisaki and Miwa Isobe / Koji Sugisaki and William Snyder / Rosalind Thornton / Cecile van der Weert / Maki Yamane

▶TCP

大津由紀雄 編

菊判・384頁・978-4-89476-173-5
定価3990円(本体3800円)
発行2002.11 在庫僅少

The Proceedings of the Third Tokyo Conference on Psycholinguistics (TCP2002)

慶應義塾大学でおこなわれている東京言語心理学会議 (Tokyo Conference on Psycholinguistics) の第3回大会の研究発表／講演集 (英語)。
Angelika Kratzer and Junko Shimoyama / William Snyder / Deirdre Wilson and Dan Sperber / Stephen Crain, Amanda Gardner, Andrea Gualmini and Beth Rabbin / Haruka Fukazawa, Mafuyu Kitahara and Mitsuhiko Ota / Galina Gordishevsky and Jeannette Schaeffer / Ken Hiraiwa / Shinichiro Ishihara / Miwa Isobe / Hirohisa Kiguchi and Rosalind Thornton / Masakazu Kuno / Keiko Matsunaga / Motoki Nakajima / Hajime Ono / Koji Sugisaki / Cecile van der Weert /

▶TCP

大津由紀雄 編

菊判・352頁・978-4-89476-209-1
定価4410円(本体4200円)
発行2003.11

The Proceedings of the Fourth Tokyo Conference on Psycholinguistics (TCP2003)

慶應義塾大学でおこなわれている東京言語心理学会議 (Tokyo Conference on Psycholinguistics) の第4回大会の研究発表／講演集 (英語)。
Mark C. Baker / Maria Teresa Guasti / Duk-Ho An / Yarrow Dunham, Peggy Li, and Susan Carey / Tomohiro Fujii / Andrea Gualmini, Luisa Meroni, and Stephen Crain / Luisa Meroni and Stephen Crain / Motoki Nakajima / Kayono Shiobara / Koji Sugisaki and William Snyder / Graciela Tesan and Rosalind Thornton / Sharon Unsworth / Maki Yamane / Hideaki Yamashita /

▶TCP

大津由紀雄 編

菊判・344頁・978-4-89476-227-5
定価4410円(本体4200円)
発行2004.11

The Proceedings of the Fifth Tokyo Conference on Psycholinguistics (TCP2004)

慶應義塾大学でおこなわれている東京言語心理学会議 (Tokyo Conference on Psycholinguistics) の第5回大会の研究発表／講演集 (英語)。
Lydia White/ Duk - Ho An/ Miwa Isobe, Natsuko Katsura, Masatoshi Koizumi, Kuniya Nasukawa, Yumi Sakai, Koji Sugisaki, and Noriaki Yusa/Bosook Kang/ Hirohisa Kiguchi and Edson T. Miyamoto/Chieko Kuribara/ Utako Minai, Luisa Meroni, and Stephen Crain/ Tomokazu Takehisa/Jeffrey Witzel and Naoko Ouchi Witzel/

▶TCP

大津由紀雄 編

菊判・376頁・978-4-89476-264-0
定価4410円(本体4200円)
発行2005.11

The Proceedings of the Sixth Tokyo Conference on Psycholinguistics (TCP2005)

慶應義塾大学でおこなわれている東京言語心理学会議 (Tokyo Conference on Psycholinguistics) の第6回大会の研究発表／講演集 (英語)。
Masatoshi Koizumi/ Somsukla Banerjee, Achla M. Raina, and Harish Karnick / Shane Xuexin Cao, Helen Goodluck, and Shan Xingyuan/Anastasia Conroy and Rosalind Thornton/ Sandiway Fong and Yuki Hirose / Dylan Herrick/Yuki Hirose/Chunyan Jing, Stephen Crain, and Ching-Fen Hsu / Makoto Kadowaki / Heather Marsden/Chizuru Nakao and Masaya Yoshida / Masashi Nomura / Toshiko Oda/David Stringer / Koji Sugisaki/

▶TCP

The Proceedings of the Seventh Tokyo Conference on Psycholinguistics (TCP2006)

大津由紀雄 編

菊判・336頁・978-4-89476-339-5
定価4410円(本体4200円)
発行2006.11

慶應義塾大学でおこなわれている東京言語心理学会議 (Tokyo Conference on Psycholinguistics) の第7回大会の研究発表／講演集 (英語)。

Edson T. Miyamoto / David Pesetsky and Ether Torrego / Teodor Ajder / Ho Leung Chan / Noriko Hattori, Seiki Ayano, Dylan Herrick, David Stringer and Koji Sugisaki / Misato Hiraga and Jon Nissenbaum / Takaomi Kato / Masakazu Kuno / Keiko Nakamoto, Kow Kuroda, and Jae-ho Lee / Toshiko Oda / David Stringer / Mikihiro Tanaka / Ling XIAO, Xin CAI, and Thomas Hun-tak LEE/

▶TCP

The Proceedings of the Eighth Tokyo Conference on Psycholinguistics (TCP2007)

 近刊

大津由紀雄 編

菊判・978-4-89476-376-0
定価10290円(本体9800円)
近刊

慶應義塾大学でおこなわれている東京言語心理学会議 (Tokyo Conference on Psycholinguistics) の第8回大会の研究発表／講演集 (英語)。

Thomas Roeper / Christopher Tancredi / Lamy Al-Abdulkarim / Nigel Duffield / Yukio Furukawa / Andrea Gualmini / Jiro Inaba / Keiko Kaku / Yukiko Koizumi / Hiroki Narita / Masashi Nomura / Michael Siegal / Koji Sugisaki / Annie Tremblay

2001年に創刊された『接続』の目的は、細分化された既存の学問諸領域を継続的に〈接続〉することによって、大学における知的環境を変革するとともに、そうした新しい知の在り方を広く社会に発信することです。

活動の基盤となるのは、明星大学日野校で年間数回開催される「学術研究フォーラム」です。ここでは、狭い範囲でしか通用しない専門用語に頼るのではなく、他分野の研究者や若い学生たちにも理解できる開かれた言葉を探して発表と討論が行われています。

『接続』は、「Ⅰ 特集」、「Ⅱ 交差点（クロスロード）」、「Ⅲ はじめての接続」という3部から構成されます。また、各論文に対しては、「ダイアログ」と称する批評的・対話的な小論が添えられます。

過去の特集テーマは、「近代再訪」（2001）、「つくられた子ども」（2002）、「越境する都市」（2003）、「ジェンダーの地平」（2004）、「環境というトポス」（2005）、「開かれた身体」（2006）です。どれも「学術研究フォーラム」での議論から浮かびあがってきたものです。

「Ⅱ 交差点（クロスロード）」は、テーマを問わない対話の場です。また、「Ⅲ はじめての接続」には、高校生ぐらいの若い読者へ向けての知の招待状が掲載されます。

『接続』の制作プロセスにおける最大の特徴は、構想・草稿の段階から長時間に及ぶ討論会を何度も重ねて議論を深めて行くところです。そのために合宿（！）を行うことさえ珍しくありません。

執筆者の多くは明星大学の教員ですが、学外からのご寄稿も大歓迎です。ご関心のある方は、菊地滋夫（e-mail: kikuchis@ge.meisei-u.ac.jp）までぜひご連絡ください。



編集委員（左から菊地滋夫、毛利聡子、阪井恵）

▶接続

『接続』刊行会編

A5判・268頁・978-4-89476-142-1
定価2000円(本体1905円)
発行2001.6

接続2001 特集:近代再訪

大学の研究は、こりかたまった旧来のものであっては意味がない。大学改革は、外側の構造改革ではなく、発信すべき内容の改革でなければならない。自発的改革への開かれた学問を提唱する。特集は「近代再訪 (Modernity Revisited)」I 写真的想像力 十九世紀における自己の肖像/他者の表象(細谷等 ダイアログ…神辺靖光・二村健)/学校の時代 教育は日本の「近代」になにをもたらしたのか(神辺靖光 ダイアログ…小林一岳・細谷等)/英雄の表象と近代(小林一岳 ダイアログ…樋口辰雄・毛利聡子)/文学に近代を感じるとき 魯迅『狂人日記』と「語り」のリアリティー(千野拓政)/増補「声」のわかれ 日本児童文学の近代(宮川健郎 ダイアログ…千野拓政・菊地滋夫) II 憑依霊の踊りと自分勝手な人類学者 ケニア海岸地方カウマの人々の最近の暮らし(菊地滋夫 ダイアログ…茅野佳子・笠原順路)/変わりゆく南部、変わらない南部三五年後のミシシッピ大学で(茅野佳子 ダイアログ…渡戸一郎・樋口辰雄) III 言語という視点 外国語を学ぶ(千野拓政)

▶接続

『接続』刊行会編

A5判・306頁・978-4-89476-165-0
定価2000円(本体1905円)
発行2002.6

接続2002 特集:つくられた子ども

今回の特集は「つくられた子ども (Children Created)」I 社会的に弱く、無垢な存在として「子ども」という領域が切り開かれていく様子を文学や教育の言説分析、また人類学的手法により掘り起こす。I 生きにくさの抜け道『北方教育』、宮沢賢治、『赤い鳥』(宮川健郎 ダイアログ…細谷等)/近世日本・庶民の子どもと若者 子殺し、育児、しつけ、折檻(神辺靖光 ダイアログ…毛利聡子・小林一岳)/一〇歳の少年の視点ウィリアム・スタイロン「シャドラク」の提示するもの(前田浩美 ダイアログ…宮川健郎)/自決の葬列 近代菜食主義とマスターベーション言説(細谷等 ダイアログ…前田浩美)/鏡の割れたあとに 増補・中国の現代文化と子どもたち(千野拓政) II パリに病んで夢は故郷を駆けめぐる リチャード・ライトの HAIKU とミシシッピの原風景(茅野佳子 ダイアログ…菊地滋夫)/特定の誰か、ではない身体 所在 ケニア海岸地方におけるコーラスとジェンダー(菊地滋夫 ダイアログ…茅野佳子) III 「異化」していこう! まなざしの転換(細谷等)

▶接続

『接続』刊行会編

A5判・360頁・978-4-89476-196-4
定価2000円(本体1905円)
発行2003.11

接続2003 特集:越境する都市

今回の特集は、「越境する都市 (Border-Crossing Cities)」I 東京(田園調布)・上海・香港の各都市をそれぞれ都市論、文学論、文学史論の切り口で鮮やかに論じる。I 都市論の現在と可能性「都市再生」下の東京を中心に(渡戸一郎 ダイアログ…菊地滋夫)/上海はイデオロギーの夢を見るか? 王安憶の小説創作の変化から(王曉明[千野拓政・中村みどり訳] ダイアログ…細谷等)/中国人の書いた香港文学史(王宏志[千野拓政訳] ダイアログ…洪郁如)/昨日、そして今日の田園都市 世紀転換期ユートピアと都市計画におけるハイブリッドな欲望(細谷等 ダイアログ…小林一岳) II 台湾人家庭の中の外国人労働者 仲介業者 J. C. インタビュー記録(洪郁如 ダイアログ…毛利聡子)/「テネシー・キャラバン」の行方 ビーターテイラーの「南部」と幼少年期の異文化体験(茅野佳子 ダイアログ…深田芳史)/聞くということ「わたし」とは何か(林伸一郎 ダイアログ…宮川健郎) III 「英語ペラペラ」ってどういう意味? 言語によるコミュニケーションとは何か(深田芳史)

▶接続

『接続』刊行会編

A5判・312頁・978-4-89476-228-2
定価2000円(本体1905円)
発行2004.10

接続2004 特集:ジェンダーの地平

今回の特集は、「ジェンダーの地平 (Horizons of Gender)」I ジェンダーをある特定の視点から見るのではなく、多様な分野からあぶりだすことによって、既存の理論に押し込めることなく、問題意識の自由な発露を促す。I 植民地台湾におけるファッションと権力(洪郁如 ダイアログ…細谷等・洪郁如)/長老と国家を揺るがす ジェンダーの管理と逸脱(菊地滋夫 ダイアログ…小林一岳)/こんな声で歌いたい! (阪井恵 ダイアログ…菊地滋夫)/本をとおして子どもとつきあう「おとうさんの絵本読みかせワークショップ」実践報告(宮川健郎 ダイアログ…千野拓政) II 抹消された夢 デカルトと「始まり」の現象(村井則夫 ダイアログ…菊地滋夫)/「わたし」と「他者」のはざま オウエルとカミュの歩んだ道(高島美穂 ダイアログ…村井則夫)/ムンバイ発「もうひとつの世界は可能だ」第四回世界社会フォーラム報告(毛利聡子 ダイアログ…渡戸一郎・茅野佳子) III 歴史をひらこう(小林一岳)

▶接続

接続 2005 特集：環境というトボス

『接続』刊行会編

A5判・316頁・978-4-89476-262-6
定価2000円(本体1905円)
発行2005.10

今回の特集は「環境というトボス」。自然環境にとどまらず、文化・歴史・思想も含めて、環境という古くて新しいトボス(問題=場)を多角的に再検討する。環境理解の拡充を目指す意欲的な論考集。I 中世における「山」認識の変容(小林一岳 ダイアログ…宮川健郎)/場所・人間・文学—アメリカ南西部の物語と環境公正運動(茅野佳子 ダイアログ…毛利聡子)/個人の権利を守るか、公共の利益を優先するか?—米国レイク・タホにみる環境保全の知恵(西浦定継 ダイアログ…細谷等)/中国黄土高原の緑化(池本和夫 ダイアログ…小林一岳)/セントラル・パークという〈自然〉—フレドリック・ロウ・オームステッドのユートピア(細谷等 ダイアログ…村井則夫)/〈環楽器〉探求—音楽教育から「環境」を考える視点(阪井恵 ダイアログ…林伸一郎)/「暗い森」、または理性の系譜学—ヴィーコの「森」をめぐる(村井則夫 ダイアログ…千野拓政) II 台湾人女性の「内地留学」(洪郁如 ダイアログ…高島美穂) III フィールドワークへの招待—世界に新しく接続する方法(菊地滋夫)

▶接続

接続 2006 特集：ひらかれる身体

『接続』刊行会編

A5判・256頁・978-4-89476-340-1
定価2000円(本体1905円)
発行2006.12

今回の特集は「ひらかれる身体」。近代において形成された「身体」という観念を、その歴史性をふまえた上で「ひらかれた場」として解き放つ。「身体」への様々なジャンルからのアプローチは「身体論」への新たな課題を提起する。I 知覚する身体(境敦史 ダイアログ…村井則夫)/ヒト骨格筋の形状と機能(村岡慈歩)/身体とコミュニケーション(星山麻木 ダイアログ…小林一岳)/音を聴くということ(阪井恵 ダイアログ…茅野佳子)/アドリブとしての憑依—身体自由と規範(菊地滋夫 ダイアログ…阪井恵)/身体と秩序・権力(小林一岳 ダイアログ…細谷等) II 世界社会フォーラムに集う『マルチチュード』(毛利聡子 ダイアログ…菊池滋夫)/交わりと疎外(高島美穂) III めざせ保育士・幼稚園教諭(中坪史典)

▶接続

接続 2007 特集：マルチチュードの可能性



『接続』刊行会編

A5判・978-4-89476-379-1
定価2000円(本体1905円)
近刊

今回の特集は「マルチチュードの可能性」。グローバル化される社会=〈帝国〉の内部で「マルチチュード」は果たして現代の社会を変革しうる勢力たりえるのか。「世界社会フォーラム」への参加やネグリ=ハートの文献から多角的に考察する。I 「マルチチュード」が創る開かれた空間(毛利聡子 ダイアログ…茅野佳子、小林一岳)/大国の内なる「マルチチュード」(茅野佳子 ダイアログ…毛利聡子)/二一世紀のマルチチュード(菊地滋夫 ダイアログ…細谷等)/多様性の解剖(村井則夫 ダイアログ…菊池滋夫) II 逸脱する家事(細谷等 ダイアログ…洪郁如)/漢族社会における「関係」生成の論理(洪郁如 ダイアログ…菊池滋夫)/中国人女性の日本留学(張曉瑞 ダイアログ…高島美穂)/教室発 音楽の萌芽を考える(阪井恵 ダイアログ…境敦史) III 子どもの読書によりそう(宮川健郎)

A～U

21世紀の学問のすめ	50
21世紀の公年金政策 米国とスウェーデンの最新 動向	50
21世紀の女性市場	54
A Conceptual Modeling Approach to Design of Catalogs and Cataloging Rules	55
A Historical Study of Referent Honorifics in Japanese	35
A PARAMETRIC APPROACH TO CASE ALTERNATION PHENOMENA IN JAPANESE	34
A Pragmatic Approach to the Generation and Gender Gap in Japanese Politeness Strategies	36
A Theory of Lexical Functors	33
An Enterprise in the Cognitive Science of Language	36
Bound variables and coreferential pronouns	8
Communicating Skills of Intention	35
Corpus Studies on Japanese Kanji	34
Current Topics in English and Japanese	37
Discourse Politeness in Japanese Conversation	8
From a Subordinate Clause to an Independent Clause	35
Japanese Syntactic Structure and Their Constructional Meanings	33
Japanese Women's Listening Behavior in Face-to-face Conversation	36
LANGUAGE IN PAPUA NEW GUINEA	15
Lexical Borrowing and its Impact on English	35
Linguistics	41
Meaning and the English Verb	41
Minimalism and Linguistic Theory	37
ModalP and Subjunctive Present	35
Old English Constructions with Multiple Predicates	7
OPIの考え方に基いた日本語教授法	25
PETER TAYLOR'S SOUTH	47
Phrase Structure in Minimalist Syntax	33
ROOTS in Language Acquisition	33
Studies in Endangered Languages	34
Studies in English and Japanese Auxiliaries	5
Syntactic Projections of Semantics of Aspect	33
Syntactic Structure and Silence	36
Syntax and Semantics of Wh-quantifier Interactions	33
The Dative and Related Phenomena	34
The Pragmatics of Negation	34
The Proceedings of the Eighth Tokyo Conference on Psycholinguistics (TCP2007)	66
The Proceedings of the Fifth Tokyo Conference on Psycholinguistics (TCP2004)	65
The Proceedings of the First Tokyo Conference on Psycholinguistics (TCP2001)	65
The Proceedings of the First Tokyo Conference on Psycholinguistics (TCP2000)	65
The Proceedings of the Fourth Tokyo Conference on Psycholinguistics (TCP2003)	65
The Proceedings of the Seventh Tokyo Conference on Psycholinguistics (TCP2006)	66
The Proceedings of the Sixth Tokyo	

Conference on Psycholinguistics (TCP2005)	65
The Proceedings of the Third Tokyo Conference on Psycholinguistics (TCP2002)	65
The Syntax of FOCUS and WH-Questions in Japanese	34
Unaccusativity in Second Language Japanese and English	33

あ

アカデミック・ジャパニーズの挑戦	25
アカデミックプレゼンテーション入門	43
アスペクト・テンス体系とテキスト	2
アメリカの市民生活	45
いかにして言語は変わるか	32
移動労働者とその家族のための言語政策(仮)	24
異文化間コミュニケーションからみた韓国高等学校 の日本語教育	23
意味と発話行為	32
意味分析の方法	6
「印欧人」のことは誌	32
インターフェイス	53
引用表現の習得研究	22
「うん」と「そう」の言語学	17
営業のビタミン	54
英文鑑	16
江戸長崎紅毛遊学	50
江戸和学論考	47
王の舞の民俗学的研究	47
オーストラリアの日本語教育と日本の対オーストラ リア日本語普及	26
教え方を改善する	28
音声を教える[CD付]	27
「女ことば」はつくられる	49

か

外国人の定住と日本語教育 [増補版]	24
外国人が間違えやすい日本語の表現の研究	24
ガイドブック方言研究	40
ガイドブック方言調査	40
書くことを教える	28
学習を評価する	28
「活動」としての文と発話	31
韓日新聞社説における「主張のストラテジー」の対照 研究	13
聞くことを教える	27
九州西部方言動詞テ形における形態音韻現象の 研究	11
今日から使える発話データベースCHILDES 入門	17
狂言台本とその言語事象の研究	13
教材開発	28
「議論」のデザイン	24
草の根 NPO 運営術	50
形式名詞がこれでわかる	19
芸能の(伝承現場)論	49
結果構文研究の新視点	13
言語科学の真髄を求めて	11
言語学	42
言語学は面白い(仮)	19
言語教育の新展開	21
言語研究の射程	15
言語表現ことはじめ	44
言語普遍性と言語類型論	32
現代言語理論と格	7
現代日本語のアスペクト論	14
現代日本語の漢語動名詞の研究	9
現代日本語の疑問表現	9
現代日本語の語構成論的研究	1
現代日本語の複合語形成論	11
現代日本語文法 現象と理論のインタラクション	10
語彙論的語構成論	8
講座社会言語科学 第1巻	29

講座社会言語科学 第2巻	29
講座社会言語科学 第3巻	29
講座社会言語科学 第4巻	29
講座社会言語科学 第5巻	30
講座社会言語科学 第6巻	30
公民パートナーシップの政策とマネジメント	51
コーパスに基づく言語研究	17
語構成	4
ここからはじまる日本語学	39
ここからはじまる日本語教育	44
ここからはじまる日本語文法	39
ここからはじまる文章・談話	40
古代日本語動詞のテンス・アスペクト	1
古代日本語母音論	5
国会会議録を使った日本語研究	18
ことば・空間・身体	18
ことばと文化をめぐって	26
ことばのエクササイズ	42
ことばの冒険 対話篇	42
ことばは世界とどうかかわるか	32
コミュニケーション、どうする? どうなる?(仮)	15
これからの語彙論	40

さ

さらに進んだスピーチ・プレゼンのための日本語発音 練習帳	44
時間・ことば・認識	18
時間の中の文と発話	31
指示詞	4
事態概念の記号化に関する認知言語学的研究	10
視点と主観性	1
児童生徒に対する日本語教育のための基本語彙 調査	24
自分でデキル養育費強制執行マニュアル	54
市民教育とは何か	52
市民の日本語	52
ジャポンの宗教と社会	50
修辭的モダニズム	48
主語と動詞の諸相	12
授与動詞の対照方言学的研究	11
上代語の構文と表記	6
情報収集・問題解決のための図書館ナレッジガイド ブック	55
初級を教える	28
女性のことば・職場編	16
進化する図書館へ	55
身体の構築学	48
新訂版 聞いておぼえる関西(大阪)弁入門	26
「真の」コミュニケーション能力育成—その理論と実 践	23
「生活者のための日本語教育」	24
税金を使う図書館から税金を作る図書館へ	55
成長する教師のための日本語教育ガイドブック (下)	25
成長する教師のための日本語教育ガイドブック (上)	25
接続 2001	69
接続 2002	69
接続 2003	69
接続 2004	69
接続 2005	70
接続 2006	70
接続 2007	70
戦時中の話しことば	17
束縛関係	6

た

「た」の言語学	37
大学生のための情報検索入門	43
大学での日本語表現能力育成授業のデザインを考 える(仮)	24
大学における日本語教育の構築と展開	22
対照言語学の新展開	9

対人関係構築のためのコミュニケーション入門.....	25
第二言語習得とアイデンティティ.....	22
第二言語としての日本語教室における「ピア内省」活動の研究.....	23
たなぼた主義.....	54
多民族社会の言語政治学.....	26
「単位」としての文と発話.....	31
探検! ことばの世界(新版).....	42
男性のことば・職場編.....	16
中国人学生の綴った戦時中日本語日記.....	24
中・上級を教える.....	28
朝鮮語入門.....	44
朝鮮語入門2.....	44
都竹通年雄著作集2.....	16
テキスト・語り・プロット.....	47
テキストはどのように構成されるか.....	32
デジタルテキストの技法.....	53
伝承と言語.....	48
ドイツ語再帰構文の対照言語学的研究.....	13
東京弁は生きていた.....	50
統語構造を中心とした日本語とタイ語の対照研究.....	21
動詞九章.....	9
動詞の自他.....	4
都立図書館は進化する有機体である.....	55

な

日英語の右方移動構文.....	37
日英語の自他の交替.....	7
日仏対照現代日本語表現文型.....	19
日韓の言語行動対照研究(仮).....	18
日本語 意味と文法の風景.....	7
日本近代語研究 4.....	20
日本近代語研究 2.....	20
日本語 e ラーニング教材設計モデルの基礎的研究.....	23
日本語会話における言語・非言語表現の動的構造に関する研究.....	12
日本語記述文法の理論.....	7
日本語教師の役割/コースデザイン.....	27
日本語形態論.....	2
日本語形容詞の文法(仮).....	13
日本語項構造構文の形式と意味.....	13
日本語修飾構文の語用論的研究.....	8
日本語述語の統語構造と語形成.....	10
日本語条件表現史の研究.....	5
日本語助詞シカに関わる構文構造史的研究.....	11
日本語随筆テキストの諸相.....	12
日本語存在表現の歴史.....	2
日本語態度動詞文の情報構造.....	10
日本語動詞の諸相.....	1
日本語とジェンダー.....	16
日本語と韓国語の受身文の対照研究.....	21
日本語のアスペクト・テンス・ムード体系.....	9
日本語のアスペクト体系の研究.....	11
日本語の空間表現と移動表現の概念意味論的研究.....	11
日本語の構造変化と文法化.....	12
日本語の主文現象(仮).....	12
日本語の情報構造と統語構造.....	7
日本語の助詞と機能範疇.....	10
日本語のテキスト.....	2
日本語の文法.....	39
日本語の文法の研究.....	15
日本語のモダリティと人称.....	1
日本語の引用.....	2
日本語の音.....	5
日本語の音 テキスト版.....	39
日本語複合動詞の習得研究.....	21
日本語文法 体系と方法.....	6
日本語文法の諸問題.....	6
日本語文法の発想.....	8
日本語方言一型アクセントの研究.....	6
日本語名詞句の意味論と語用論.....	3
日本語モダリティの史的研究.....	8

日本語要説.....	39
日本語を書くトレーニング.....	43
日本語を話すトレーニング.....	43
日本事情・日本文化を教える.....	28
日本人と外国人のビジネス・コミュニケーションに関する実証研究.....	22
ニュータウン言葉の形成過程に関する社会言語学的研究.....	13
入門 生成言語理論.....	41
認知言語学から見た日本語格助詞の意味構造と習得.....	23
認知言語学の発展.....	17
認知言語学論考 No.1.....	61
認知言語学論考 No.2.....	61
認知言語学論考 No.3.....	61
認知言語学論考 No.4.....	61
認知言語学論考 No.5.....	61
認知言語学論考 No.6.....	61
認知文法論.....	2
認知物語論とは何か?.....	49
ネチケツ.....	53
能の多人数合唱.....	47

は

「～は～」のはなし.....	17
発話行為的引用論の試み.....	10
発話者の言語ストラテジーとしてのネゴシエーション行為の研究.....	12
話すことを教える.....	27
パントゥ諸語動詞アクセントの研究.....	5
ピア・ラーニング入門.....	26
ピアで学ぶ大学生の日本語表現.....	43
ひさみをめぐる冒険.....	54
ひつじアンソロジー詩編.....	46
ひつじアンソロジー小説編1.....	46
ひつじアンソロジー小説編2.....	46
ひとは発話をどう理解するか.....	32
非母語話者日本語教師再教育における聴解指導に関する実証的研究.....	23
ひらけ! T-TIME.....	53
広げる知の世界.....	43
ファンダメンタル英語学.....	40
ファンダメンタル英語史.....	41
ファンダメンタル英文法.....	40
ファンダメンタル音声学.....	41
フィクションの機構.....	48
複合助詞がこれでわかる.....	19
複合動詞の構造と意味用法.....	6
複合動詞・派生動詞の意味と統語.....	10
副詞的表現をめぐって.....	16
フランス語学研究1.....	63
プロフィジェンシーから見た日本語教育文法(仮).....	25
文化間を移動する子どもとともに.....	26
文学者はつくられる.....	48
文科系ストレイシープのための研究生生活ガイド.....	44
文法化とイディオム化.....	8
文法と語形成.....	2
文法を教える.....	27
平家琵琶.....	47
ベーシック英語史.....	41
ベーシック日本語教育.....	44
変化する英語.....	41
方言学的日本語史の方法.....	9
方言地理学の展開.....	5
僕らには親が別れても愛される権利がある!.....	54
母語を活用した内容重視の教科学習支援方法の構築に向けて.....	22
ボスターの社会史.....	53
ボライネスと英語教育.....	22

ま

マックで中国語.....	53
学びのエクササイズ ことばの科学.....	42

学びのエクササイズ 社会言語学.....	42
学びのエクササイズ 日本語文法.....	39
学びのエクササイズ 認知言語学.....	42
萬葉集と上代語.....	7
三尾砂著作集1.....	15
三尾砂著作集2.....	15
目指せ、日本語教師力アップ! (仮).....	25
目覚めよ! チャレンジ精神.....	50
メタファー研究の最前線.....	18
メディアとことば1.....	57
メディアとことば2.....	57
メディアとことば3.....	57
メディアの中の読者.....	49
「も」の言語学.....	37
文字・語彙を教える.....	27
物語・オーラリティ・共同体.....	49
問題を通して学ぶ 生成文法.....	40

や

要約文の表現類型.....	16
読むことを教える.....	28
読むということ.....	48

ら

離婚家庭の面接交渉実態調査.....	54
離婚後の親子関係サポートBOOK.....	54
ルネッサンスバブリッシャー宣言.....	53
レキシコンフォーラム No.2.....	59
レキシコンフォーラム No.3.....	59
レキシコンフォーラム No.1.....	59
連体即連用?.....	12
論文の書き方・研究の進め方マニュアル(仮).....	43

わ

話者の視点がつくる日本語.....	15
-------------------	----

A ~ Z

Achla M. Raina65
Akira Kikuchi37
Akira Watanabe37
Akira Y. Yamamoto34
Amanda Gardner65
Anastasia Conroy65
Andrea Gualmini65,
66
Angelika Kratzer65
Annie Tremblay66
Beth Rabbitt65
Bipin Indurkha18
Bonnie D. Schwartz65
Bosook Kang65
Brian MacWhinney17
Carlos Inchaurralde18
Cecile van der Weert65
Chiaki F. Komatsu65
Chieko Kuribara65
Ching-Fen Hsu65
Chizuru Nakao65
Christopher Tancredi66
Chunyan Jing65
Daniel Yaffee65
Dan Sperber65
David Bradley34
David Pesetsky66
David Stringer65, 66
Deirdre Wilson65
Dorit Ben-Shalom65
Duk-Ho An65
Dylan Herrick65, 66
E. Annamalai34
E. C. Traugott17
Edson T. Miyamoto65,
66
Ether Torrego66
Etsuko Obata Reiman20
Eve Sweetser17
Fusa Katada37
Galina Gordishevsky65
Geoffrey N. Leech41
George Lakoff17
Gilles Fauconnier17
Graciela Tesean and
65
Hajime Ono65
Hanae Norita65
Hanako Fujino65
Harish Karnick65
Haruka Fukazawa65
Harumi Sawai34
Heather Marsden65
Heiko Narrog59
Helen Goodluck65
Henk van Riemsdijk11
Hideaki Yamashita65
Hideo Hayashibe65
Hirohisa Kiguchi65
Hiroki Narita66
Hiromi Morikawa65
Hiromu Sakai37
Hironobu Kasai65
Hiroyuki Uta65
Ho Leung Chan66
Howard Lasnik37
Isao Ueda59
Jae-ho Lee66

Jean Aitchison41
Jeannette Schaeffer65
Jeffrey Witzel65
Jiro Inaba66
Jon Nissenbaum66
Joseph Emonds59
Julia Herschensohn65
Jun Abe37
Jung Kim59
Junko Shimoyama65
Kayono Shiobara65
Keiko Kaku66
Keiko Matsunaga65
Keiko Nakamoto66
Ken-ichi Mihara37
Ken-ichi Aiji65
Ken Hiraiwa65
Kimi Akita59
Kiyoko Yoneyama59
Knut Bergsland34
Koichi Takezawa37
Koji Sugisaki65, 66
Kow Kuroda66
Kuniya Nasukawa65
Lama Al-Abdulkarim66
Leonard Talmy17
Linda Lombardi65
Ling XIAO66
Luigi Rizzi11
Luisa Meroni65
LUNA CAT53
Lydia White65
M.A.K. ハリディ32
Mafuyu Kitahara65
Maki Yamane65
Makoto Kadowaki65
Mamoru Saito65
Maria Teresa Guasti65
Mark C. Baker65
Masakazu Kuno65, 66
Masaru Nakamura37
Masashi Nomura65,
66
Masatoshi Koizumi37,
59, 65
Masaya Yoshida65
Matthias Brenzinger34
Melinda Whong-Barr65
Michael Krauss34
Michael Siegal66
Mikihiro Tanaka66
Misato Hiraga66
Mitsuhiko Ota65
Miwa Isobe65
Motoki Nakajima65
Naoki Kimura59
Naoko Ouchi Witzel65
Naoto Tomisawa37
Natsuko Katsura65
Nigel Duffield66
Nobuko Hasegawa37
Noriaki Yusa65
Noriko Hattori66
NPO 法人 Wink54
Osami Okuda34
Peggy Li65
Rosalind Thornton65
Richard Kayne11
Robyne Tiedeman37
Ronald W. Langacker17

Rosalind Thornton65
Sandiway Fong65
Satoko Ichikawa65
Seiji Naito37
Seiki Ayano66
Shane Xuexin Cao65
Shan Xingyuan65
Sharon Unsworth65
Shigeko Matsufuji65
Shigeo Tonoike37
Shinichiro Ishihara65
Shoichi Takahashi65
Susan Carey65
Somsukla Banerjee65
Stephen A. Wurm34
Stephen Crain65
Stuart Davis59
Susan Carey65
Suwilai Premisrat34
Taeko Teramoto65
Takaomi Kato65, 66
Takuya Gouro65
Tatsuya Isono59
Tatsuya Suzuki37
Teodor Ajder66
Tetsuya Sano65
Thomas Hun-tak LEE66
Thomas Roeper66
Tomohiro Fujii65
Tomokazu Takehisa65
Toru Okamura15
Toshiko Oda65, 66
Utako Minai65
Vida Yu.
Mikhailchenko34
Willem F.H. Adelaar34
William Snyder65
William Tsuyoshi
McClure33
Xin CAI66
Yarrow Dunham65
Yasuko Taniwaki59
Yoshiaki Kaneko37
Yoshikata Shibuya61
Yoshio Endo37
Yuki Takano37
Yuki Hirose65
Yukiko Koizumi66
Yukio Furukawa66
Yumi Sakai65

あ

相澤正夫7
会津洋19
青木三郎37, 42, 62
青木博史12
青木伶子4
青柳宏10
赤間亜生46
秋永一枝50
秋元美治8, 17
秋元美晴26
朝尾幸次郎43
浅田秀子7, 20
朝日祥之13, 29
浅見徹6
味岡美豊子43
足立公平61
足立祐子24
阿知波真知子29
跡上史朗46
アズメット=ギョルメズ22
阿部慶賀18
阿部圭子30
阿部潤40, 41
安部清哉6, 20
阿部洋子28
天野みどり4, 39
有元光彦11
アルフレッド・ジェル18
安藤真雄32, 41
アンドリュー・バーク9
アンドレイ・ベケシュ37
アンドレ・マルティネ32
アントワヌ・メイ32
安平鏡37
家入葉子41, 44
伊狩弘46
池上高志61
池内正幸11
池上嘉彦61
池田玲子26, 43
池本和夫70
伊坂淳一39
伊佐淳51
井佐原均18
石井恵理子29
石井正彦4, 11, 40
石神照雄6
石川智21
石川慎一郎43
石川有香43
李貞敏13
石綿敏雄7
石綿由美子22
出雲朝子20
磯部美和36
磯村一弘27
市川保子22
井出祥子29
出原健一61
井出里咲子29
伊藤淳子54
伊藤たかね59
伊藤健人13
糸賀雅児55
乾健太郎59
井上和子4, 21
井上京子18, 29
井上洋24
井上史雄29
井上優17, 37
今井邦彦11, 41
今井良広51

か

井元秀剛63
岩崎志真子31
岩崎勝一31
岩田夏穂24, 43
岩田祐子29
上野誠司11
上野隆久20
上原聡9, 61
ウォレス・チェイフ18
宇佐美まゆみ8, 16,
29
氏原庸子26
内田賢徳6
内山潤22
内田慶子53
内海彰18
内海敦子15
宇野良子61
梅田俊英53
梅谷博之15
榎本美香30, 31
遠藤織枝16, 17, 24
遠藤薫29
遠藤美香36
遠藤光暁17
大石泰夫49
大門正幸7
大沢正善46
大柴ひさみ54
大島弥生24, 43
大隅敦子28
大曾美恵子21, 59
太田栄次15
太田宏一36
大谷麻美22
大塚容子22
大坪一夫22
大津由紀雄19, 36,
42, 65, 66
大友麻子59
大野剛31
大濱信宏50
大原由美子57
大場理恵子24, 43
大堀壽夫9, 17
大室剛志41
大矢俊明13
岡崎敏雄21
岡崎晴21
岡澤孝雄43
岡隆30
尾形こづえ17
岡田光弘57
岡智之61
岡まゆみ21
岡本真一郎29
岡本能里子29, 57
岡本牧子26
小川曉夫31
小川一美29
小河原義朗22
沖裕子31
奥津敏一郎4, 12
奥野忠徳37
奥村みさ26
小椋秀樹20
尾崎喜光16, 18
押尾和美28
押野武志46
小田涼63
小野田美都江55
小野尚之7, 9, 13
小野文生18
小野正樹10
小野正弘6, 20, 40

近代語研究会.....20	坂本浩.....59	菅原剛.....59	田中衛子.....22	長嶋善郎.....4, 7	ハイク・ナロック..9, 59
串田秀也.....17, 30, 31	坂本真樹.....18, 61	杉浦滋子.....7, 8	田中江扶.....59	永瀬治郎.....29	橋本修.....10, 37
久島茂.....7	坂田智子.....61	杉浦まそみ子.....22	田中茂範.....7	中園篤典.....10	橋本裕之.....47
楠見孝.....18	崎山理.....18	杉崎鉦司.....36	田中伸一.....41	中田清一.....21, 26	橋元良明.....29
工藤浩.....6, 39	佐久間鼎.....4	杉本明子.....16	田中真一.....59	永田高志.....20, 35	長谷川信子.....11, 12
工藤真由美.....2, 9, 13, 24	佐久間まゆみ.....16	杉本孝司.....17	田中宏.....24	中谷健太郎.....13	長谷川典子.....29
国広哲弥.....59	桜井隆.....16, 17	杉本つとむ.....16, 50	田中寛.....21	中坪史典.....70	長谷部郁子.....59
久野輝.....4, 11, 21	桜井政紀.....51	杉本雅子.....20	田中穂積.....39	仲晃生.....53	長谷部陽一郎.....61
九里順子.....46	佐々木冠.....9	スコット・サフト.....57	田中牧郎.....20	長沼豊.....52	畠山真一.....59
久保進.....32	佐佐木隆.....6, 7, 48	鈴木晶子.....18	田中ゆかり.....30	長野明子.....59	畑佐一味.....21
窪園晴夫.....59	佐々木瑞枝.....16	鈴木淳.....47	ダニエル・カルヤヌ...9, 37	長野泰彦.....18	畑佐由紀子.....21, 29
窪田光男.....22	佐々木泰子.....44	鈴木泰.....1, 6, 39	ダニエル・ヴァンダーヴ エーゲン.....32	中林眞佐男.....45	弘島巳.....39
久保田美子.....27, 28	笹寿美子.....16	鈴木猛.....33, 36	ダニエル・ロング.....29	仲間恵子.....13	蜂谷清人.....20
久保美織.....33	笹原宏之.....20, 29, 40	鈴木智映子.....17	谷岡慎一.....51	中丸茂.....29	蜂谷真郷.....6
倉持保男.....7	佐々祐子.....9	鈴木亨.....13	谷岡一美.....10, 42, 61	中道知子.....7	服部四郎.....4
栗山直子.....18	佐佐圭三.....15, 24	鈴木敏明.....7	谷口祥一.....55	中村明.....18	服部隆.....20
クリア マリィ.....12	佐竹久仁子.....40, 57	鈴木利彦.....36	田上稔.....6	中村功.....29	ハドンソ遠藤陸子.....21
黒田成幸.....4	佐竹秀雄.....29, 40	鈴木智美.....19, 40	田原いずみ.....63	中村太蔵留.....18	羽野ゆづ子.....18
黒田航.....13, 18, 61	定延利之.....17, 31, 40	鈴木博.....20	玉岡賢津雄.....34, 59	中村敏枝.....29	浜野祥子.....21
桑原和生.....37	貞光宮城.....61	鈴木美加.....29	玉村文郎.....4	中村則子.....44	早川治子.....16, 17
現代日本語研究会...16	佐藤彰.....30, 57	鈴木右文.....11, 37	多村孝輝.....53	中村雅子.....28	早坂慶子.....43
小磯花絵.....30, 31	佐藤都衛.....26	須田淳一.....39	多門靖容.....18	中村みどり.....69	林四郎.....4
洪都如.....69, 70	佐藤里美.....13	須田義治.....14	張曉瑞.....70	中村三春.....46, 48	林伸一郎.....69, 70
黄慶法.....24	佐藤滋.....9	須山名保子.....13	陳力衛.....20	中村桃子.....49	林徹.....34
江田優子ベギー.....26	佐藤裕裕.....20	関口久雄.....53	塚本秀樹.....9	中村芳久.....61	林博司.....31
黄麗華.....17	佐藤武義.....20	関根和生.....18	月本洋.....18	中村捷.....6, 37	林誠.....31
小嶋秀樹.....29	佐渡島紗織.....43	瀬田幸人.....40	つくば言語文化フォー ラム.....37	中村渉.....9, 61	林礼子.....29
小平友美.....20	真田信治.....26, 39	薛鳴.....29	津田大介.....57	中村敬子.....18, 61	早津恵美子.....4, 7
小玉安恵.....27	真田治子.....20	渡戸一郎.....69	津田早苗.....22	夏木好文.....50	原口庄輔.....37
小林一岳.....69, 70	実松克義.....43	瀬戸賢一.....18	筒井通雄.....21	鍋島弘治朗.....18, 61	原田悦子.....29
小林賢次.....5, 13, 20, 39	佐野哲也.....33, 36	泉子・K・メイナード21 大介.....57	筒井洋一.....25, 44	新野直哉.....20	原田哲男.....23
小林隆.....9, 30, 40	佐野正人.....46	千野拓政.....69, 70	都築雅子.....13	二枝美津子.....12, 61	春木仁孝.....62, 63
小林千草.....20	澤田和浩.....6	副島健作.....11	都竹通年雄.....16	西浦定雄.....70	春原憲一郎.....24
小林典子.....22	澤田信治.....50	曾我祐典.....63	角田太作.....6	西尾寅弥.....4	半澤幹一.....18
小林英樹.....9	ジェームズ・A・マティ ソフ.....18	園田博文.....20	坪井栄治郎.....17	西垣通.....29	板東美智子.....59
小泉政利.....33	ジェームス エセグベイ. 29	孫建軍.....20	坪山由美子.....28	錦咲やか.....46	ピーター・オースティ ン.....18
小林昌博.....9	ジェンH. ヒル.....29	ダイアン・ブレイクモア 32	鶴橋俊宏.....20	西郡仁朗.....29	東泉裕子.....35
小林美恵子.....16	塩田英子.....57	大坊郁夫.....29	寺井あすか.....18	西阪仰.....30, 31	樋口辰雄.....69
小林幸江.....19	塩田朝子.....15	平香織.....9	寺島由子.....41	西田谷洋.....49	彦坂佳宣.....20
児馬修.....41	塩原良和.....24	平知宏.....18	佐藤孝雄.....43	仁科弘之.....9	日高水穂.....11, 30
コミュニケーション・ド うする? どうなる? 編集委員会.....15	重光由加.....22, 29	平真木夫.....18	寺原鈴子.....29	西納春雄.....43	飛田良文.....20
小森淳子.....15	篠崎晃一.....40	高江洲頼子.....13	佐藤隆彦.....21	西村史子.....29	姫野昌子.....4, 6, 44
子安増生.....18	篠崎恒子.....27	田貝和子.....20	富樫純一.....17, 31	西村義樹.....17	兵藤裕己.....49
小矢野哲夫.....6, 7	篠原和子.....18, 61	高尾享幸.....17	時崎久夫.....36	西山佑司.....3, 7	原田哲男.....23
小山亘.....30	柴崎秀子.....59	高木智世.....31	崎崎哲.....39	仁田義雄.....1, 6, 39	平沢啓.....20
是永論.....57	柴谷方良.....6	高崎みどり..12, 16, 40	徳井厚子.....25	日本語ジェンダー学会. 16	平田一郎.....37
近藤彩.....22, 29	渋谷良方.....18	高司正夫.....32	徳川宗賢.....5	二村健.....69	東泉裕子.....35
近藤絵美.....9	嶋田和子.....25	高島美穂.....69, 70	徳永健伸.....18	丹羽哲也.....6	樋口辰雄.....69
近藤尚子.....20	島谷浩.....43	高島克也.....29, 31	土佐尚子.....29	布尾勝一郎.....57	彦坂佳宣.....20
近藤泰弘.....6, 7, 17	島田徳子.....28	高野照司.....30	外池滋生.....11	沼田善子.....37	母育新.....22, 59
今野真二.....20	島田泰子.....20	高橋亜紀子.....22	外崎淑子.....10	根岸雅史.....29	深尾百合子.....22
さ	嶋津拓.....26	高橋圭子.....57	富田英夫.....21	野口哲也.....46	深澤のぞみ.....43
斎賀秀夫.....4	清水登.....20	高橋大厚.....9	鳥飼玖美子.....29	野澤和典.....43	深田芳史.....69
才田いずみ.....22	清水道子.....47	高橋太郎.....4, 6, 9, 39	永井忠孝.....15	野澤元.....18, 61	福島真人.....48, 50
齋藤ひろみ.....26	シュテファン カイザー... 22	高橋淑郎.....43	中尾俊夫.....41	野島久雄.....29	藤井洋子.....29, 37
齋藤倫明.....1, 4, 8, 40	ジョンソン由紀.....21	高橋秀太郎.....46	中川明子.....31	藤田隆則.....47	藤田篤.....59
齋美智子.....39	白井純子.....30	高橋英光.....61	中島悦子.....16	藤田隆則.....47	藤原憲一.....21, 22
佐伯晴子.....30	白井恭弘.....9	高見健一.....11, 37	中島和子.....21	船城道雄.....37	船越孝太郎.....18
佐乙女民.....42	白川博之.....31	瀧本誓.....29	中島平三.....11, 37, 40	藤原康宏.....53	ブライアン コバート.45
境敦史.....70	白勢彩子.....30	田窪行則.....4, 17	な	野村剛史.....4, 6	フランス・ドルヌ.....37
酒井信一郎.....57	城田俊.....2, 5, 39	竹内孔一.....59	永井忠孝.....15	野村忠央.....35	古田東朔.....4
酒井たか子.....22	中亜敏.....59	武内道子.....16, 32	中尾俊夫.....41	野村眞木夫.....2	古橋信孝.....18
酒井智宏.....17, 61, 63	進化する図書館の会55	竹野谷みゆき.....57	中川千恵子.....44	野村雅昭.....4	古山宣洋.....18, 30
阪井恵.....69, 70	新川てるえ.....54	田子内健介.....37	長坂水晶.....27	野村雅一.....29	ヘンリー・ウィドウソン. 23
榎原富士子.....54	申敏俊.....20	田尻英三.....24	中島悦子.....16	野村真寛.....61	法政大学大原社会問題 研究所.....53
坂口和寛.....22	進藤三佳.....18	立岡浩.....51	中島和子.....21	野山広.....24	坊農真弓.....12, 17, 31
阪倉篤義.....4	新屋映子.....12	立川和美.....12, 40	中島平三.....11, 37, 40	野呂幾久子.....30	星山麻木.....70
阪田雪子.....4	菅井三美.....61	立川武蔵.....18			細馬宏通.....18, 31
坂原茂.....17, 62, 63	須賀一好.....4, 7	館岡洋子.....26			細谷等.....69, 70
坂本正.....21	菅谷明子.....55	田中章夫.....20			
坂本勉.....18, 35					

許明子	21	村田久美子	23	吉田俊和	29
平川眞規子	33	村田菜穂子	20	吉田朋彦	7
ポリール・ザトラウスキー	31	村田眞樹	18	吉田浩美	15
堀内夕子	45	村田泰美	22	吉野亜矢子	43
堀江薫	9, 61	村松賢一	57	吉野正	24
堀川智也	7	目黒秋子	22	吉村公宏	61
堀口和吉	4, 17	毛利聡子	69, 70	吉本啓	4, 9
堀恵子	22	本居春庭	4	米田信子	15
堀素子	22	初山洋介	7, 61	米村みゆき	46
本田明子	16	森井紳	6		
本多啓	61	森岡健二	4		
本田厚子	57	森岡卓司	46		

ま

前田富祺	6	森香奈絵	63
前田直子	7	森川正博	34
前田浩美	69	森口稔	43
牧野成一	21	森田良行	6, 8, 15
牧野由香里	24	森直久	30
マグロイン花岡直美	21	森野崇	37
正高信男	30	森本郁代	29, 31
増田博邦	30	守屋哲治	9
樹本智子	25	森山新	23, 61
町博光	40	森山卓郎	6, 31, 39
松岡洋子	24	森山由紀子	57
松木啓子	30	森雄一	18, 61
松崎寛	22	森美子	21
松下大三郎	4		
松田謙次郎	18, 42		
松田文子	21		
松中義大	18		
松村一登	34		
松村宏美	59		
松本功	53, 55		
松本克己	5, 32		
松本哲洋	22		
まつもとひろたけ	6		
松本泰丈	16, 39		
松本明子	32		
松本曜	7, 17, 61		
真野俊樹	51		
マリアンヌ・ミスン	18		
丸田忠雄	7		
丸山岳彦	31		
三浦昭	21		
三浦香苗	43		
三尾紗	15		
三上章	4		
水口志乃扶	31		
水野佳三	11		
御園生保子	7		
見田宗介	18		
三谷恵子	37		
三井昭子	16		
宮川健郎	46, 69, 70		
三宅和子	25, 29, 57		
宮崎和人	9		
宮崎幸江	36		
宮島達夫	4, 6		
宮地裕	4		
宮田 Susanne	17		
宮田和子	20		
宮田登	18		
宮地朝子	11		
虫明美喜	46		
村井則夫	69, 70		
村岡慈歩	70		
村尾治彦	61		
村上京子	22		
村上智美	13		
村上雅孝	20		
村上雄太郎	9		
村木新次郎	1, 39		
村田和代	22, 57		

や

八亀裕美	13	若狭基道	15
ヤコブセン	4	ワカバヤシマサオ	4
ヤコブ・メイ	32	若生正和	9
矢澤真人	10	和田敦彦	48, 49
矢島正浩	20	和田茂俊	46
安田敬朗	17	渡戸一郎	69
安富歩	18	渡辺素和子	21
安原和也	61	渡部記安	50
屋名池誠	40	渡辺学	57
柳澤好昭	29	渡辺義和	30
柳田優子	34	和田裕美	54
築島史恵	28	王曉明	69
矢野準	20	王宏志	69
谷部弘子	16		
家田勝文	53		
山泉実	61		
山内博之	25		
山口堯二	6		
山口幸洋	6		
山崎英一	32		
山崎博樹	55		
山崎眞紀子	46		
山田泉	24		
山田進	7, 59		
山田富秋	30		
山田誠	9		
山田昌史	59		
山田昌裕	20		
山田政通	34		
山中信彦	7		
山梨正明	2, 18, 39, 61		
山西優二	24		
山本秀樹	32		
山本芳明	48		
湯浅茂雄	20		
由井紀久子	7		
湯川恭敏	5, 15, 42		
遊佐典昭	9		
油谷幸利	44		
ゆもとしょうなん	4		
由本陽子	10, 40		
楊凱栄	37		
横溝紳一郎	25, 29		
横山紀子	23, 27, 28		
吉岡泰夫	29		
吉川武時	19		
吉田恵以子	33		
吉田忠彦	51		

ら

ライブラリーマネジメン ト研究会	55
羅工洙	20
李在鎬	13, 61
ルカイヤ・ハサン	32
レー・バン・クー	37

わ

若狭基道	15
ワカバヤシマサオ	4
若生正和	9
和田敦彦	48, 49
和田茂俊	46
渡戸一郎	69
渡辺素和子	21
渡部記安	50
渡辺学	57
渡辺義和	30
和田裕美	54
王曉明	69
王宏志	69

「学術書の出版の仕方」について

<http://www.hituzi.co.jp/hituzi-ml/index.html>

学術出版を検討するプロセスは次のようになります。プロセスの中で、次の3点について考えて、刊行することができるのかを判断します。

- 研究の内容
- 読者・市場
- 製作コスト

- 1 出版提案書[※]をお送りいただく
↓
- 2 論文（原稿）をお送りいただく
↓
- 3 出版についての説明申し上げる
↓
- 4 レビュワー・査読者による査読^{※※}
↓
- 5 内容をプレゼンテーションしていただく
↓
- 6 刊行に向けてすすめるかどうかを相談^{※※※}

※
出版提案書。word ファイルのひな形が以下にあります。
<http://www.hituzi.co.jp/hituzi-ml/proposal-index.html>

※※
検討のプロセスで、査読者に見てもらうことがあります。

※※※
条件や希望をご相談します。日本学術振興会の研究成果公開促進費の申請を行うかどうかなどについても相談します。

検討するプロセスで、2～3ヶ月はかかります。これらのプロセスは、はじめてご相談する場合ですので、以前から研究内容を存じ上げていたり、過去に研究発表を拝見している場合などには、プロセスを省くこともあります。また、順番も適宜変わることがあります。

詳しくは、上記のページをご覧ください。